

地質標本館の来場者 アンケート分析 (2017 年度)



翡翠輝石
Jadeite



$\text{Na}(\text{Al}, \text{Fe}^{3+})\text{Si}_2\text{O}_6$
単斜晶系

産地: 新潟県糸魚川市小滝
登録番号: GSJ M40565

地質標本館の来場者 アンケート分析 (2017年度)

2018年12月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター 地質情報基盤センター

要旨

地質標本館におけるアウトリーチ活動の PDCA サイクルの構築（特に CA）を進めるため、2017 年度に地質標本館で集積した特別展および間の常設展示のみの期間ごとの展示に関する入館者の無記名アンケートの分析を行った。毎年度ごとに分析しており、2017 年度の分析を通して、地質標本館に対するユーザーのニーズを把握するとともに、その結果をもとに、今後のアウトリーチ戦略を策定の基礎材料としていく。

分析項目は 2016 年度途中から始まった項目を継続している。大まかには、来館者自身に関わる情報（年齢、居住地など）、館内展示に関する情報（展示内容、展示設備など）、館内環境に関する情報（空調、照明など）、解説サービスに関する情報（見学案内、QR コードなど）、および全体的な感想などからなる。

展示や館内環境に対する満足度は前年度に続き概ね高い評価を得ている。展示の要望および興味を持った展示もほぼ同じような傾向を示し、鉱物・化石、地震・活断層、地質学一般、鉱業・資源工学などが多い。改善要望も同様に展示設備の修理・改善、館内環境の改善が比較的高い。現在改修が徐々に進められているが、大規模改修計画との兼ね合いであまり手をつけられないものが対象となっている。後者は、室温や室内の明るさなど、個人による感じ方の違いのあるものが多い。

これらの要望と今後の対応策に関する情報は、引き続き地質調査総合センター（以下「GSJ」という。）のアウトリーチ拠点としての地質標本館の運営・施設改修へつなげるための一次データとして利用する。

1. はじめに

本報告は、地質標本館に来館される方にアンケートを取らせていただき、2017年度分について取りまとめたものであり、基本的には前年度までの報告（地質情報基盤センター，2016a, b, 2017）に沿ってデータ集としてまとめている。一方、一般向けにはGSJ地質ニュースに取りまとめたものを報告している（森尻ほか，2015, 2016, 2017；辻野ほか，2018）。技術資料集での取りまとめの目的は、前報告書に記したとおり、地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクルの実施（特にCA部分）である。

これまでの報告書でも度々指摘して記しているように、回収されたアンケートに書かれたコメントは必ずしも全来館者の平均的な感想とは言えないことを前提として分析する必要がある。しかしながら、アンケートに記されているコメントは、ユーザーのニーズを知るための貴重な一次情報であると認識した上で本報告をまとめた。これまでの報告を含めて、今後、「地質標本館のニーズ分析」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等へ活用し、そしてアウトリーチ活動に関わるGSJの各研究部門の研究者にフィードバックすることで、一般向けの展示物作製やその他の研究成果普及活動の後押しとなることを期待する。合わせて、今後のGSJのアウトリーチ戦略策定の基礎資料になるものと思われる。

2. アンケートの取りまとめ

2017年度の地質標本館での特別展示・臨時展示（第1表）は、研究戦略部研究企画室国内連携グループが主導し、地質標本館室との調整をしながら企画されている。2017年度は5つの特別展示が開催されている。

取りまとめの方針は、前報告書と同様、それぞれの項目の集計を行うことで、「一般の人から地質標本館に求められているもの（ニーズ）」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等に関する情報を抜き出し整理した。それらを図示し、前報告書と視覚的に対比できるよう心掛けた。

また、GSJの第4期中長期計画では、以下の4つの研究戦略が挙げられており、アンケート結果の分析にはこれらの戦略課題との対応も考慮しているが、明示しているのは前回までと同様に戦略課題1～3のみである。

研究戦略1：地質情報の整備

研究戦略2：レジリエントな社会基盤の構築に資する地質の評価

研究戦略3：地圏の資源と環境に関する評価と技術の開発

研究戦略4：地質情報の管理と社会利用促進

第 1 表 2017 年度の特別展示・臨時展示一覧

展示時期	特別展タイトル
4 月 4 日－ 6 月 4 日	2017 年春の特別展／地震・活断層巡回展「2016 年熊本地震 活断層に備えよう」
6 月 6 日－ 7 月 9 日	常設展のみ
7 月 11 日－ 10 月 1 日	夏の特別展「魅惑の鉱物－北川隆司鉱物コレクションと青柳・今吉鉱物標本－」
10 月 3 日－ 10 月 15 日	常設展のみ
10 月 17 日－ 12 月 27 日	2017 年 秋の特別展示「えひめの地質－四国の五億年－」
1 月 5 日－ 1 月 8 日	常設展のみ
1 月 10 日－ 3 月 4 日	2017 年度 冬の特別展「日本一長い国立研究所の歴史－地質図で見る GSJ の 135 年－」
3 月 6 日－ 3 月 25 日	2017 年度 特別展「GSJ のピカイチ研究－2017 年のプレスリリース、主な研究成果より－」

3. アンケート内容の分析結果と個別対応案

アンケートの回収数は、期間内の総計は 2,600 件である(2016 年度は 4,494 件)。アンケート回収数の前年度からの減少は、団体入場者は滞在時間の制約が強いため、アンケートに要する時間に配慮して全員への用紙配付を控えた結果、配布数が減ったことによる。2017 年度の来館者数が 46,787 人であるので、約 5.6% の回収率になる。なお、この間の団体入場者は 12,197 人で全来館者数の約 26% を占めている。団体客や学校単位での来館においては、基本的に引率者のみにアンケートに回答するようお願いしている。さらに、アンケートとは異なるが、地質標本館受付で記録している年間の入館者に関わる集計を参考として第 18～23 図で示す。また、特別展および間の常設展示のみの期間ごとの集計グラフを第 24～55 図に示す。

以下、各項目(第 2 表)を織り交ぜて集計結果を見ていく。

3.1 全般的な満足度

続いて来館された方々が館内で感じたことについて見てみる。まずは館内での見学全般を通してどう感じていただいたかという質問である。回答を見ると、大半が満足とあり、やや満足を含めると回答を記入していただいた方の 99% が満足していただいている(第 3 図)。不満足、やや不満足と回答した方については、昨年度と同様、もともと興味のない方、たまたま空調設定があっっていなかった方、機器の調整時期に重なった方などのようである。なお、昨年度に比べて記入なしの割合が極端に減っており、その分が、満足という回答割合が増えている要因となっている。

3.2 またご来館いただけるか

また機会があればご来館いただけるかどうかの質問に対して、回答を記入いただいた方の 80% 以上が「ぜひ来たい」、「できれば来たい」の積極的な回答、20% 弱の方が「来るかもしれない」、「もう来ない」はごくわずかである(第 4 図)。「もう来ない」と回答された方を見ると、遠方から来館された方やご高齢の方のようである。

3.3 回答者の年齢層、居住地

回答者の概要を考える参考として、年齢層と居住地をまず見てみる。回答者の年齢層(第 1 図)の傾向を見ると、18 歳以下が 2016 年度に比べて少なくなっている。これは、前述したように学校単位の団体の場合は、引率者のみのアンケートの回答をお願いしていることを反映しているものと思われる。全体として 40 歳代の回答者がやや多いものの、その他の世代は、ほぼ拮抗している。これは学校単位の団体では引率教員の年齢層がそのくらいであることや、個人来館者も小中学生の子供とその親の入館者が多く、主にその親がアンケートに回答している

第2表 2017年度アンケートの内容

<p>1. 本日で見学頂きました地質標本館は、いかがでしたか？ ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>2. またご来館いただけるでしょうか？ ①ぜひ来たい／②できれば来たい／③来るかもしれない／④もう来ない</p>
<p>3. お客様ご自身について 「性別」①男／②女 「年齢」①18歳以下／②19～29歳／③30歳代／④40歳代／⑤50歳代／⑥60歳代以上 「お住まい」①つくば市内／②茨城県内（つくば市以外）／③茨城県外</p>
<p>4. 今回のご来館のきっかけとなるもの（複数可） ①地質標本館公式ウェブサイト／②インターネット（ブログ，SNS等）／③掲示ポスター・チラシ／④新聞・雑誌・テレビ／⑤知人の紹介／⑥その他</p>
<p>5. ご興味を持った展示テーマ（複数可） ①鉱物／②化石／③岩石／④地震／⑤火山，温泉／⑥資源，環境／⑦地質学一般／⑧その他</p>
<p>6. 展示物について（各々4段階で回答） (1) 展示の仕方や表示方法（パネル，ラベル等の説明）はわかりやすかったですか。 (2) 展示機器の使い勝手はいかがでしたか。 ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>7. 建物やサービスについて（各々4段階で回答） (1) 受付の対応はいかがでしたか。 (2) 案内表示（順路，トイレやエレベーター等）はわかりやすかったですか。 (3) 館内の明るさはいかがでしたか。 (4) 館内の空調の温度設定はいかがでしたか。 (5) 展示物，展示室，トイレ，洗面所及び通路の清掃は行き届いていましたか。 ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>8. 利用した解説サービスについて（各々4段階で回答） (1) 説明員の解説 (2) QRコード (3) 標本館クイズ ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>9. 当館へのご希望，ご意見があればお聞かせください。（例）特別展についての感想・ご要望，ミュージアムグッズ，イベントの内容等</p>

ことを反映しているのであろうと考えられる。

回答者の年齢層に続いて、居住地に関連する情報（どこから来たか）を見ると、これまでと同様、茨城県外が多数を占める（第 2 図）。これは、これまでと同様に研究学園としてのつくば観光の一施設として訪れる人が多いことを意味していると思われる。2017 年 2 月下旬に圏央道（首都圏中央連絡自動車道）の茨城県内の全開通があり、車での来館がより便利になったことで、県外からの来館者増が期待された。来館者数の地域別来館者の推移（第 22 図）を見ると、全体的に増加しているので、圏央道の茨城県内全開通の恩恵も考えられる。ただし、アンケート結果からはよくわからない。わかりやすい傾向としては、つくば市内からの来訪者が着実に伸びているようである。

3.4 来館のきっかけ

特別展示やイベントの案内は地質標本館のウェブサイトや産総研の公式ツイッターなどで行っている。ポスターは大型プリンターで出力して、つくばエキスポセンターなどに掲示を依頼している。また、近隣の学校などにもチラシを配布している。第 5 図を見ると、地質標本館ウェブサイトやインターネットの割合が昨年度に比べて大きくなっている。現在はインターネットを通じて多様な伝達手段があり、その効果が出ているようである。今後、ネットワークを通じたイベント等の案内が、増加する傾向にあると考えられる。ただし、従来型のポスター・チラシは、関心がない人々にもイベント等を知るきっかけとなり得るので、それらの配布も継続するべきである。これに比べて、「その他」の割合が小さくなっている。「その他」が何を示しているのかは問うていないので、この意味については分析できない。

3.5 興味を持った展示

ここでは、「興味を持った展示」を、その他を含めて 8 つのキーワードでの選択式として、複数回答可とした。その他として回答のあったものに、記入式で具体的な展示物などを書いていただいた。集計においては、2016 年度の分析で得られた経験（地質情報基盤センター, 2017, p.7）から、この「その他」で自由記述された展示物などを 2015 年度の報告で選定され戦略課題と関連付けたキーワード（地質情報基盤センター, 2016a）に結びつけて拾い出して興味を持ったテーマとして表示した（第 6 図）。

3.6 展示物

展示物については、展示の仕方、機器の使い勝手などについて、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の 4 段階で回答をしていただいた。集計結果は第 7 図、第 8 図にあるように概ね満足のようなものである。

3.7 建物やサービス

建物やサービスについては、受付の対応、案内表示、館内の明るさ、空調の温度設定、館内各所の清掃状況について、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階で回答をすることになっている。この5つの質問に対する回答の集計結果は第9～13図で示しており、概ね満足となっている。上記の「3.6 展示物」も含めて、それぞれの項目に自由意見欄があるが、ここでの記述があれば集計・分析においては後述の「3.9 ご意見、ご要望」で取りまとめることとしている。

3.8 利用した解説サービス

地質標本館として提供している解説サービスには、(1)館スタッフによる予約団体への説明解説、(2)スマートフォンやタブレット利用によるQRコード解説システム、(3)紙資料による館内クイズの3種類がある。これも①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階での回答となっているが、合わせて3つのサービスまとめた自由意見欄もあるが、集計・分析は後述の「3.9 ご意見、ご要望」と合わせて取りまとめる。集計結果は第14～16図に示す。利用したかどうかの回答総数は2,598件で、このうち解説サービス利用は1,270件（併用されている方もおり、のべにすると2,431件）となっている。QRコード解説システムによる日英の文字及び音声解説もあり、利用された方からは良い感触を得ているものの、やや不満足と回答された方の割合が昨年度に比べてわずかに大きくなっている（第15図）。これは、このシステムが館内に閉じたシステムとなっているために、最近のスマートフォンには、このようなネットワーク環境では受信できないOS搭載機種が増えてきていることによると考えられる。このため、館内に公衆WiFiの導入の可能性を探っているところではあるが、実現に至っていない。

3.9 ご意見、ご要望

最後に自由記述で、全体のご意見、ご要望をうかがうこととしている。ここでの記述は、地質標本館に課せられた役割と照らし合わせながら今後の参考とするものである。

これまで、自由意見として寄せられた内容を、2015年度までの報告書（地質情報基盤センター, 2016a）に従って以下の12のキーワードに整理してきており、今年度もそれに沿って整理した（第17図）。

- ①展示物の更新・入れ替え
- ②解説内容の充実・修正
- ③わかりやすい解説・子供向け解説
- ④質問対応・解説案内者の充実
- ⑤展示設備修理・改善
- ⑥体験型展示
- ⑦動線の改善

- ⑧館内の環境改善
- ⑨PR 強化
- ⑩ミュージアムショップ
- ⑪他機関との連携
- ⑫その他

それぞれのキーワードにまとめられた分布の割合は昨年度とほぼ同様である。それぞれのキーワードとその中で整理された意見で目についた事例を第 3 表に示す。これらの自由意見の要望については、既に対応済みのものも多数あるが、現在地質標本館の大規模改修計画に沿って進めている今後の改修の検討内容に寄与できる事項が多く含まれている。

①「展示物の更新・入れ替え」の展示してほしいテーマへの要望のうち、すでに展示している展示物に気付いていない場合も見受けられるが、受付に問い合わせただけであれば案内している。最新の情報の展示を期待する声がこれまでであったが、1 階ロビーにトピックスコーナーを新設し、ここで GSI ホームページ上でプレスリリースされた内容の紹介をしている。地元の地質に関するコーナーの要望について、2017 年度から 2 階テラスを中心に筑波山地域ジオパークや茨城県内の岩石・鉱物を集約したコーナーを置いている。このコーナーを中心に、筑波山地域ジオパーク推進協議会によるツアーガイドが月 2 回のペースで開催されており、アンケートの要望においても、このコーナーの関心が高いものと思われる。館内の化石や鉱物などの展示を増やして欲しいという要望もあるが、館内スペースとの関連もあり、これ以上は難しいと考えている。その代わりに、特別展などの開催でいろいろなものを見ていただきたいと考えており、2017 年度の夏の特別展でそれが実現している。

②「解説内容の充実・修正」と③「わかりやすい解説・子供向け解説」については、同じものを見ても簡単と思う人と難しいと思う人がいる。両方を満足させるのは難しいが、例えば専門家・知識が多い人向け、一般の非専門家向け、小～中学生程度向けといったように、入館者のレベルに応じた見学コースを用意することが必要であろう。現在、大学生などによる博物館実習や中学生の職場体験等の研修を通じて、見学コース作りを模索しているところである。なお、地質標本館は GSI の広報施設かつ研究所の展示施設としての役割があるため、ある程度専門家が満足することも必要である。英語解説についても少しずつ増やしており、また QR コード解説システムや館内見学ガイド（冊子貸与）などでも英語環境を提供しているが、気がつかずに済まされている方も多いため、今後周知できるように考えていきたい。一般向け（小学校高学年以上が対象）の補完的な順路ガイドや見学の要点を説明をする手段として、館内クイズを受付の脇に置いており、その利用を促しているところである。また、現在進めている「おすすめ標本ストーリー」などの紙資料での情報提供も一般向けの補完説明として有効なの

第3表 自由意見の中の改善要望

①	展示物の更新・入れ替え	ジオパークのコーナーの充実をよりお願いします。 火山や地震など自然災害の備えを展示していただければ。 化石を多くしてほしい。 地質図模型素晴らしい。鉄道や川や主要道をのせてほしい。
②	解説内容の充実・修正	クイズの問題がもっとあった方がいい。 ジオパークの説明を詳しく知りたい。 もうちょっと用件をまとめてほしい。目立つように。 もうちょっとくわしくしてほしい。 もう少し英語more English Please 鉱石のどの部分が～石なのかよくわからない。知りたい。 ・地質図を作成する過程を紹介してほしい。 ・説明パネルの内容をホームページでPDFファイルとして提供してほしい。 ガイドブックがあると良いと思います。
③	わかりやすい解説・子供向け解説	予備知識不足の者にはわかりにくい。 子供にも分かるように、平仮名表記を増やして下さい。 クイズが少し難しい/よく展示品を見てないと答えられない質問あり。 子どもが小さかったので内容が難しく思いましたが、化石など興味があるものも多く、また来たいと思います。 小学生にもわかりやすいものを増やしてもらえるとありがたいです。 もっと素人が知識を楽しく増やせるといいなと思った。
④	質問対応・解説案内者の充実	説明する人が居なかった。 館内ツアー等で説明があれば。 できれば少人数でも説明していただければ良かったです。 解説者なしでは理解むずかしい。 子供が男性職員さんから話をきかせて頂いたようで興味が持てたようです。子どもは説明パネルを読むのは大変なので子ども向けに説明して下さいと楽しい時間となるようです。ありがとうございました。
⑤	展示設備修理・改善	調整中のものが多かったような気がします。 文字が小さい。 QRコードサイトにアクセスできませんでした。 これだけ多くの資料があると難しいとは思いますが、展示の方法に統一感があまり感じられなかったです。 子どもは背が低いので足などおいて下さると見やすくなると思いました。ボタンの位置が高くなってしまいます。 ルーペで良く見えなかった。 はぎ取り試料のガラスの反射 箱根断面故障中で残念。 2月の展示再開をまっています。 音声案内機の貸し出しなどをつくってほしい。案内がないのが残念（音声）。
⑥	体験型展示	夏休みに子ども向けのイベントがあれば参加したいです。 漫遊いばらきスタンプの場所がわかりづらいです。 特別展でまた宝石、鉱物をやってほしいです。 国石（ヒスイ）特集など企画してもらいたい（大変だと思うが・・・）系魚川に行くのは遠い・・・。 子供が参加できるイベントをもっと開いてほしいです。現地見学とか館内ツアーとか。
⑦	動線の改善	順路が分かりづらい。 順路を逆にまわってしまった。 もっとマークを大きくしてわかりやすくしてほしい。 1～4展示室の案内板がもっと見つけやすくなれば良いと思います。
⑧	館内の環境改善	若干さむかった。 少し暑い気がしました。 少し暗くてねむくなる。 コーヒー店、Cafeはありますか。 トイレをふやしてもらいたい。 ロッカーがほしい。
⑨	PR強化	もっと広告してよいと思いました。いいものがそろっていると思います。 地質調査所の研究成果が私達の生活に役立っているのをもっとアピールされては。 特別展についてのお知らせを見かけることが少ない。市内在住なので、あまり気にしていないのですが興味のある展示でしたら来たいと思います。
⑩	ミュージアムショップ	石を買えるとうれしいです。 グッズが少し割高に感じます。買いにくいかな。 もっとグッズをふやしてほしいです。 ミュージアムショップでも化石のチョコレートを販売してほしい。
⑪	他機関との連携	プラタモリで興味持ちました。地学の基礎知識が十分ではないのでNHKスペシャルとかでTV番組を作って欲しい。 マイクラフトとコラボしてほしい。 NHK地球大紀行みたいなテレビ放送が見たい。
⑫	その他	40分間だけだったのもっと見学時間をとりたかったです。 敷地内入場は治安上の問題から入口付近に車両を停め、受付窓口で案内図をもらいましたが、平日ならまだしも、休日は混雑しそうな方法であると思いました。何か良い方法を考えてみて下さい。警備員さんのあいさつのないのも少々残念でした（参考まで）受付はよかったのに・・・。 月曜日もやって下さい①学校の振休になる日が多くそういった日に子供達に学習する機会を与えていただきたい。 正門からのアプローチがわかりにくい。ガードマン→職員①→職員②→アプローチ 可能なら駐車場をもっと確保してほしい。 土曜日だったので化石チョコが買えなくて残念でした。展示はすばらしかったです。 もっと東京に近いといいと思う。

で継続して「ストーリー」の提供をしていきたいと考えている。

④「質問対応・解説案内者の充実」については、説明員の確保をどうすべきかを検討しなければならないことは引き続き懸案である。休日の入館者に対する対応については、上述したように筑波山地域ジオパーク推進協議会との協働で月 2 回ではあるが館内ジオパークツアーを実施しており、好評である。加えて、つくばサイエンスツアーオフィスが休日にガイド付きツアーを行っている。団体ではなく個人対応の館内ツアーとして、2015 年度に実施した「茨城県民の日スペシャルガイドツアー」（11 月 13 日）も次年度以降、考えていきたい。

⑤「展示設備修理・改善」については、地質情報基盤センターとして GSJ 運営会議にはかった地質標本館ビジョンや地質標本館大規模改修タスクフォースと提案した展示改修計画に沿って現在改修が進められているところであり、2018 年 2 月末に、その一つとして、第 1 展示室の日本列島大型地質模型がプロジェクションマッピングの展示としてリニューアルされた（産総研プレス発表,2018 年 2 月 19 日）。初見の方にはスケールの大きな展示で概ね評判が良いが、まだ改善点もあり、今後引き続きコンテンツの追加や修正をしていく予定である。このほかの展示も少しずつ改修を進めている。なお、軽微な故障等は日々の点検とともに修繕を進めているが、老朽化しているものもあり、タイミング悪く故障した折に来館された方からの指摘も多い。

⑥「体験型展示」については、現在地盤液状化実験ボトル「エキジョッカー」などの展示も一部あるが、常に担当者が付いていなければならないものは現状のスタッフ体制では難しいのが実情である。上記の日本列島大型地質模型のプロジェクションマッピングにおけるタッチパネルを使った説明展示などもあるので、利用を促進するよう工夫したい。⑫「その他」の中にもある、各種体験学習イベントの開催要望については、夏休みの子供向けイベントに加えて、2018 年 3 月末に化石レプリカ作成体験イベントを実施して、好評を得た。今後も幾つかのイベントを定期的に行っていきたいと考えている。

⑦「動線の改善」については既に各所に表示が設置されており、また、館内パンフレットにもフロアマップが掲載されており、それほど問題はないと考える。なお、当館では、特別展を 1 階ロビーのフロアを使用して開催していることから、この期間のロビーの見通しが良くないことも表示を増やすことの要望につながっているものと思われる。

⑧「館内の環境改善」については、空調や照明の要望が多いが、これらは個人による感じ方の問題が多い。このうち、空調（室温）については、受付に伝えていただくことで常に対応している。館内の照明が暗いという意見については、2017 年度末にリニューアルした日本列島大型地質模型のプロジェクションマッピングの導入で室内を暗くする必要が出たことに起因する意見が多くなっているようである。トイレの増改築に関する要望は現実的には対応が難しい。カフェなどの設置要望があるが、2 階休憩コーナーにある自動販売機の利用をお願いして

いるところである。ロッカーなど、既存施設に気づかずにおられる方もいるようで、これまで記述してきたことも含め、疑問点があれば受付に気軽に尋ねられるよう工夫したい。

⑨「PR 強化」については、来館者数増加策のために即時に対応すべき点であることはこれまでと変わらない。当館としては、地質情報基盤センターとして地質標本館のウェブページの充実をはかるとともに、産総研の公式ホームページやツイッターなどにより、地質標本館を会場としてイベントを行なう場合や新たな展示物が入った場合に、発信の機会を多くしているところである。さらには⑩「他機関との連携」も考慮に入れながら、可能な限りいろいろな手段を使って積極的に宣伝を進めている。身近な連携先の機関の一つとして、筑波山地域ジオパーク推進協議会にもイベントを中心に PR を含めて協力をお願いしている。近年、NHK の番組「ブラタモリ」で地形や地質への興味が高まっており、連携を推奨する意見もある。また、一般向けの地学関係の漫画企画やオンラインゲーム企画などもあり、そこでも地質標本館の名前を取り上げていただける機会があるので、今後もその機会が増えて宣伝していただくと嬉しいと考えている。また、テレビ取材などの機会には引き続き積極的に応じている。

⑩「ミュージアムショップ」については、市販品の販売を求める声もあるが、現状では対応できない。グッズの種類を増やす要望については、少しずつ対応しており（森尻ほか，2016）、地質標本館ウェブサイトでも案内している。鉱物の原石などの販売を期待する声もあるが、研究資料として岩石等を扱う研究所の博物館でもあり、また、ジオパークの学習施設となっていることもあり、販売はできない。ミュージアムグッズは、産総研の規定範囲内で現在複数の有料頒布物の開発を行っており、今後もこの方針に沿ってグッズの開発を行っていく予定である。

⑪「その他」については、地質標本館あるいは GSI のみで対応できるものではなく、産総研としての対応が求められるものがある。例えば、継続的な懸念事項であるが、駐車スペースの充足や、産総研構内への入構について簡素化を望む声があるが、現実問題として実現は難しいところである。所在地が東京に近い方が良い、あるいは東京にあるべきだという声も頂いているが、これはどうしようもなく、期待感の大きさに感謝するだけである。

4. 来館者動向と今後の対応

地質標本館受付では、継続的に来館者の統計を取っている。2017 年度のデータを第 18 ～ 23 図に示す。

第 18～20 図に見られるとおり、7～8 月の夏休み期間は例年通り個人の来館者数が多い。それ以外の時期では、団体での来館者数が 2 分の 1 近くを占めることもある（第 18 図）。この傾向は、基本的にはほぼ毎年の傾向とも言える。7～8 月の個人の主体は小学生とその保護者である（第 19 図）。また、夏休みにつくば市

内からの来館者が急増している（第 20 図）。

毎年の傾向であるが、夏休みに比べるとその他の各月の来館者数はかなり少ない。年間の来館者数の増加をめざし、かつ来館いただいた方々に満足して見学していただくためには、夏休みの来館者を増やすよりも、夏休み前の 6 月と夏休み終了後、そして特に 12 月～2 月の間に学校関係の団体呼び込む工夫が引き続き必要である。秋は全国の高校からの修学旅行やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）などの団体が多い。高校の団体には、特に地元の地質を中心とした展示説明をするようにしている。最近では、産総研の他領域からの見学依頼も増えてきており、説明対応依頼があれば積極的に対応しているところである。この場合も、専門分野に関係する話題や居住地などの地質情報も交えて説明している。全くの異分野ではあろうが、生活に身近な話題を提供することで地質に興味を持つ方が増えると幸いである。合わせて、最近では学会関連で産総研の施設見学も増えてきており、その一環として地質標本館の見学が組み入れられていることもある。季節の良い時期に学会開催が多いことから、今後も学会関連の見学も期待できるのではないだろうか。見学だけでなく、秋から冬にかけての時期に来館者を増やす工夫の一つとして、ここ数年間途絶えていたが、この時期の体験イベントの開催なども企画していきたいと考えている。

年度ごとの比較では、2017 年度は 2016 年度に比べて家庭（家族連れの方々）が増加していることで全体として前年度をかなり上回る結果となっている（第 21 図）。地域別ではつくば市内と県外からの来館者数が増加している（第 22 図）。後者については、前述したように、2017 年 2 月 26 日の圏央道の茨城県内全開通によるところが大きいものと思われる。つくば市外の茨城県内からの来館者数は前年度とほぼ変わらず、2011 年 3 月の東日本大震災以前の水準への回復にはなかなかつながらないようである。2017 年度は、初めて来館された方の割合が大きくなった分、2-5 回のリピーターが減少している。引き続きリピーターとして再訪、再々訪していただくための努力をしていくことが必要である。

入場者数の減少傾向が 2015 年度から増加に転じ 2017 年度も増加傾向を維持したが、この後も増加傾向をはかっていくため、上述の①～⑫の個別対応策を総合し、引き続き、

- (1) つくば市以外の茨城県内の入館者数を増やすこと
- (2) 老朽化・故障した展示物の改修を進めるとともに、一度来た人がリピーターとなるように更新の容易な展示物も配置し、また時流に合わせた話題を特別展示などで提供するなど魅力的な博物館展示となるようにすること
- (3) さらにその魅力を積極的に発信していくこと

の 3 点を目標とした活動を実施すべく努力しているところである。このため、地質標本館を運営する地質情報基盤センターだけでなく、研究部門や産総研全体にも協力を求めながら、GSJ 全体として取り組みを進めている。

5. おわりに

本報告では 2017 年度のアンケートを分析した。現在地質標本館では、大規模な改修計画をもとに地質情報基盤センターと GSJ 研究企画室国内連携グループとが連携しながら改修が進められている。

今後地質標本館で実施するアンケート内容は、社会ニーズの把握と GSJ 全体のアウトリーチ活動に対する満足度を計る指針とすることを念頭に置き、引き続き地質情報基盤センター地質標本館室運営グループにより継続的かつ定期的に報告し、GSJ のアウトリーチ活動の PDCA サイクルを動かしていくための参考資料として活用していく予定である。なお、一般向けのアンケート結果報告についても並行して作成しており（辻野ほか, 2018）、今後の来館者からの要望などを取り入れつつ地質標本館の運営の参考としていきたいと考えている。

追記

本報告は、地質情報基盤センター地質標本館室運営グループ 辻野 匠、朝川暢子、谷島清一、下川浩一、佐藤隆司、高橋 誠、常木俊宏、中山 淳、五十嵐幸子、川鈴木 宏、利光誠一および藤原 治が中心となって 2017 年度に集計し、2018 年度から兼子尚知が加わり執筆した。また、アンケートの集計や分析においては、地質標本館説明員に登録されている森尻理恵氏の現場サイドからの声も参考にさせていただいた。

文献

地質情報基盤センター（2016a）地質標本館の来場者アンケート分析（2007年～2015年度夏展まで）. GSJ技術資料集 No.5, AIST15-G00002-5
https://www.gsj.jp/data/compreg/GSJ_ComRep_05_2016.pdf

地質情報基盤センター（2016b）地質標本館の来場者アンケート分析（2015年度後半：秋～冬の特別展）. GSJ技術資料集 No.6, AIST15-G00002-6
https://www.gsj.jp/data/compreg/GSJ_ComRep_06_2016.pdf

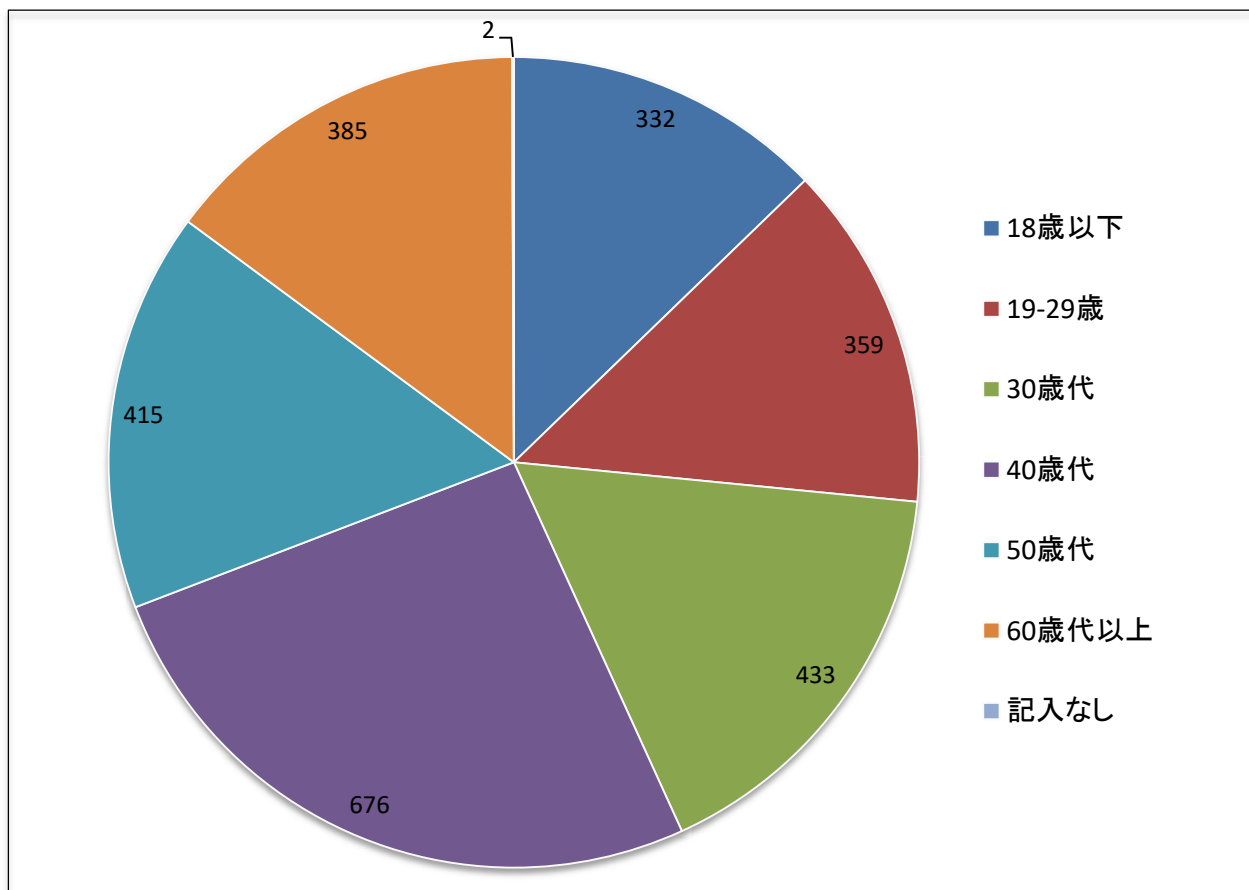
地質情報基盤センター（2017）地質標本館の来場者アンケート分析（2016年度）. GSJ技術資料集 No.8, AIST15-G00002-8
https://www.gsj.jp/data/compreg/GSJ_ComRep_08_2017.pdf

森尻理恵・吉田清香・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一（2015）地質標本館来館者アンケート結果概報（2007-2014）. GSJ地質ニュース, 4, 346-352

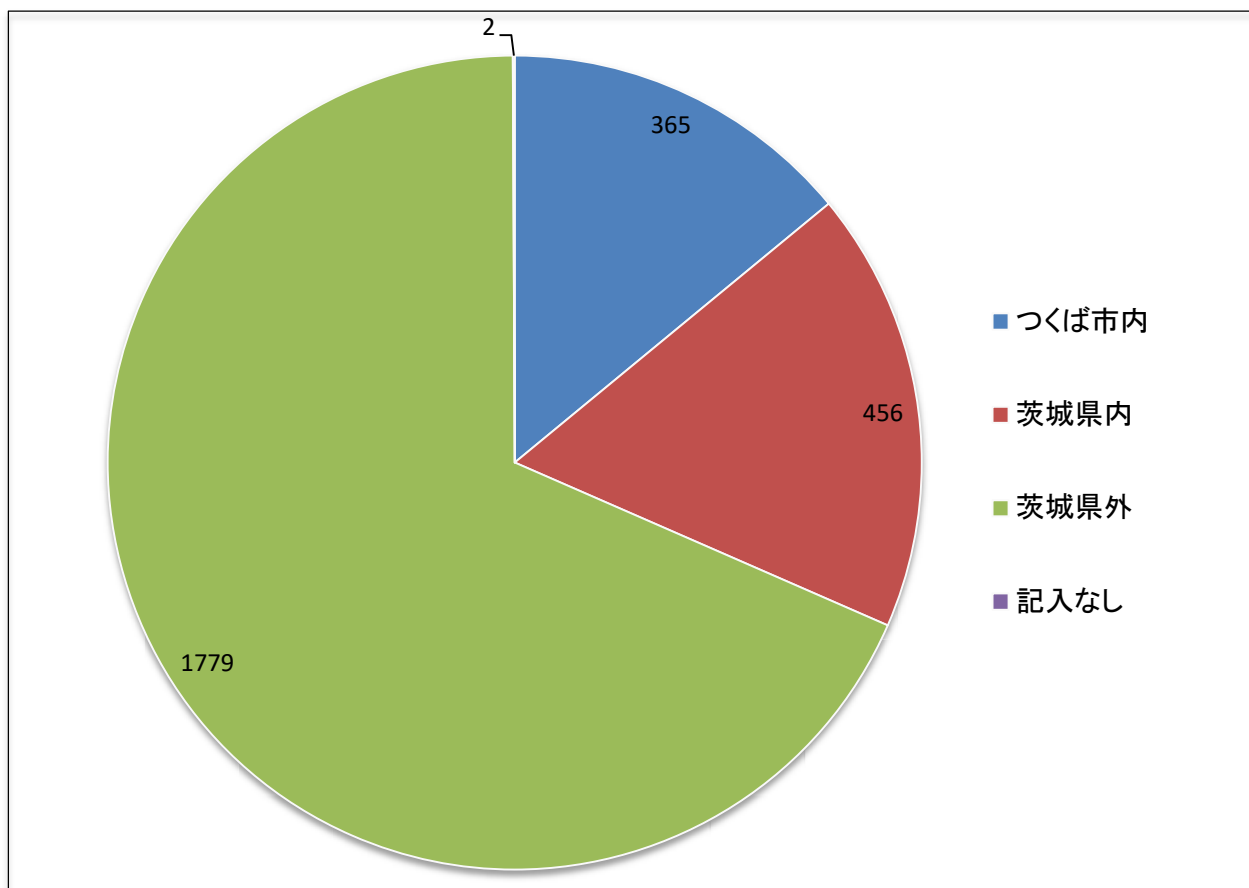
森尻理恵・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤茂・利光誠一・菅家亜希子・吉田清香・中山 淳・常木俊宏・小賀野功（2016）地質標本館来館者アンケート結果概報（2015年度）. GSJ地質ニュース, 5, 377-381

森尻理恵・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・菅家亜希子・中山 淳・常木俊宏・小賀野功・川鈴木宏（2017）地質標本館来館者アンケート結果概報（2016年度）. GSJ地質ニュース, 6, 268-276.

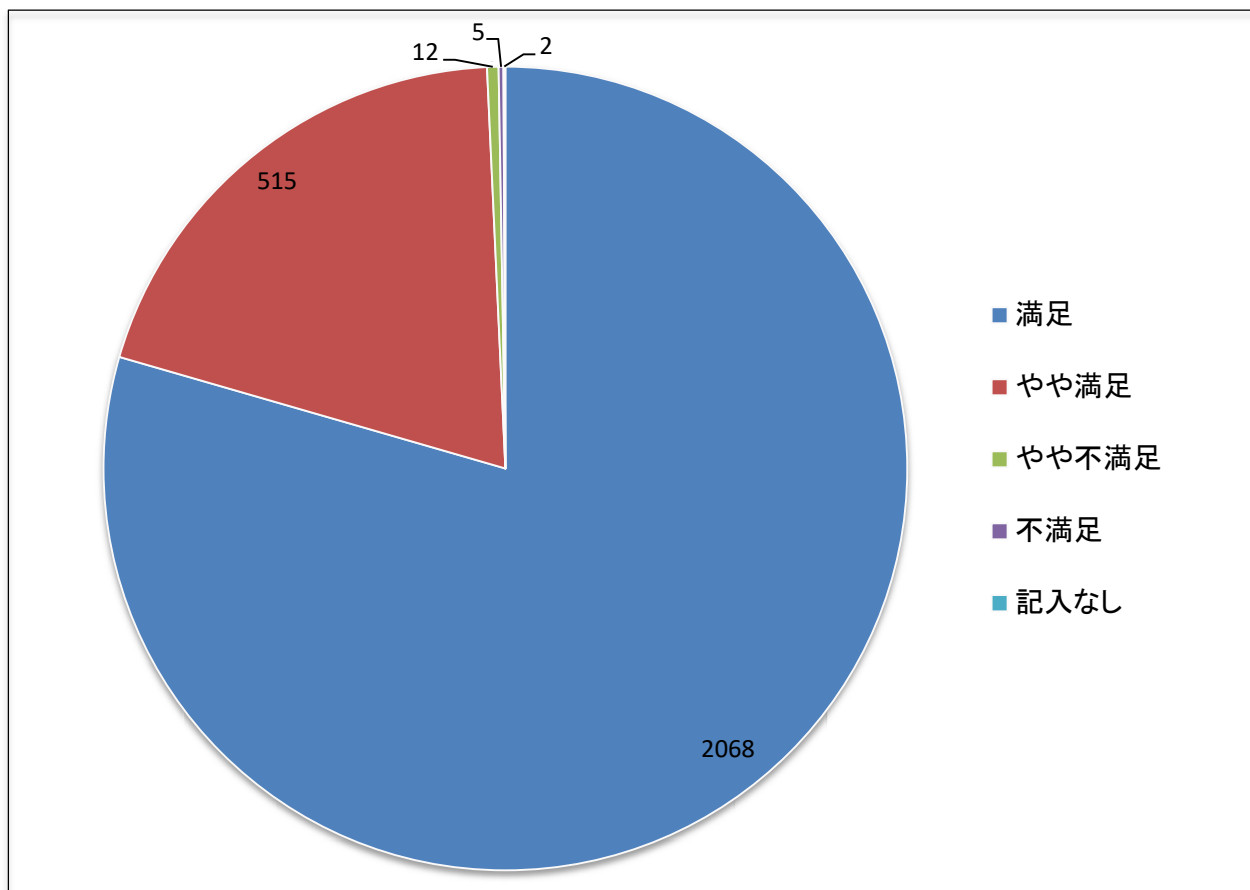
辻野 匠・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・中山 淳・常木俊宏・五十嵐幸子・川鈴木宏・利光誠一・藤原 治（2018）地質標本館来館者アンケート結果概報（2017年度）. GSJ地質ニュース, 7, 239-248.



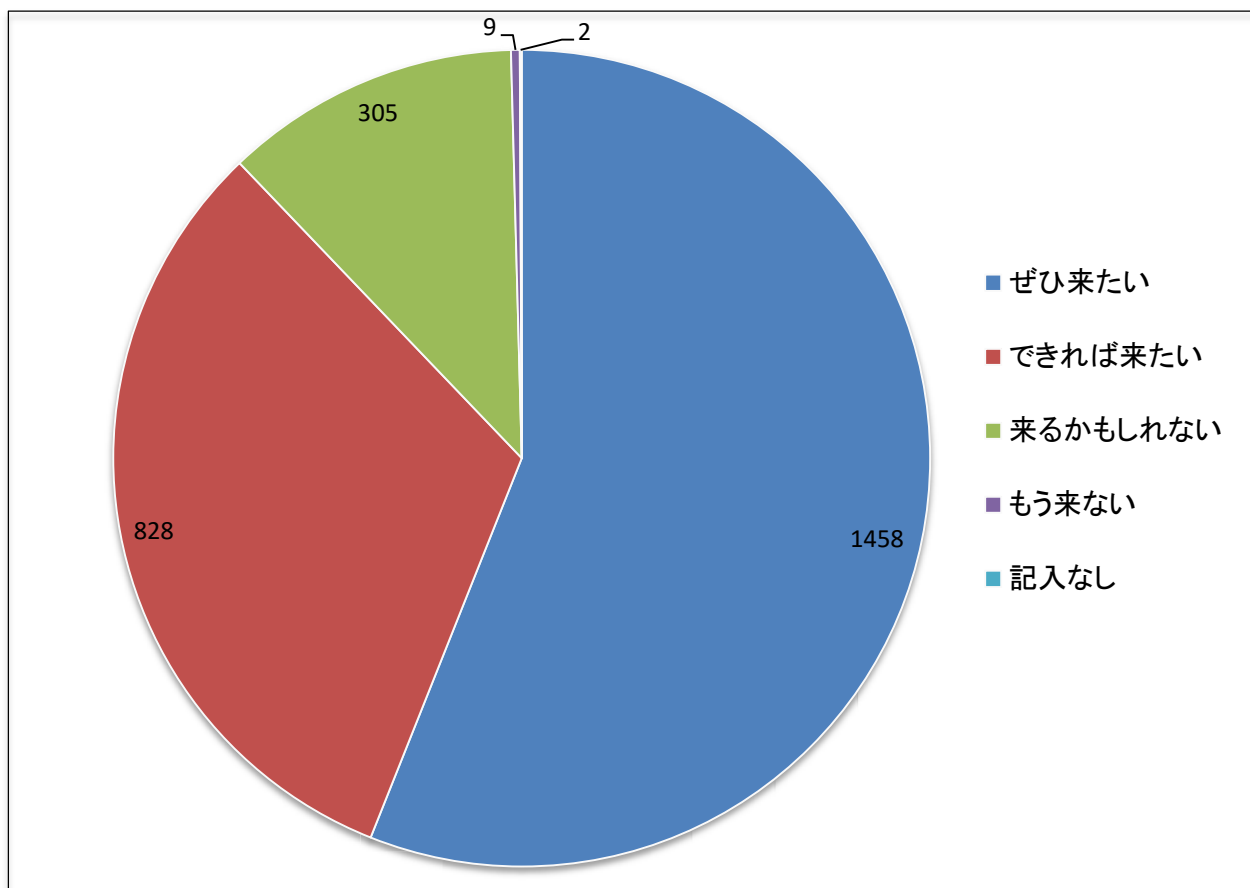
第1図 回答者の年齢層 (N=2,602)



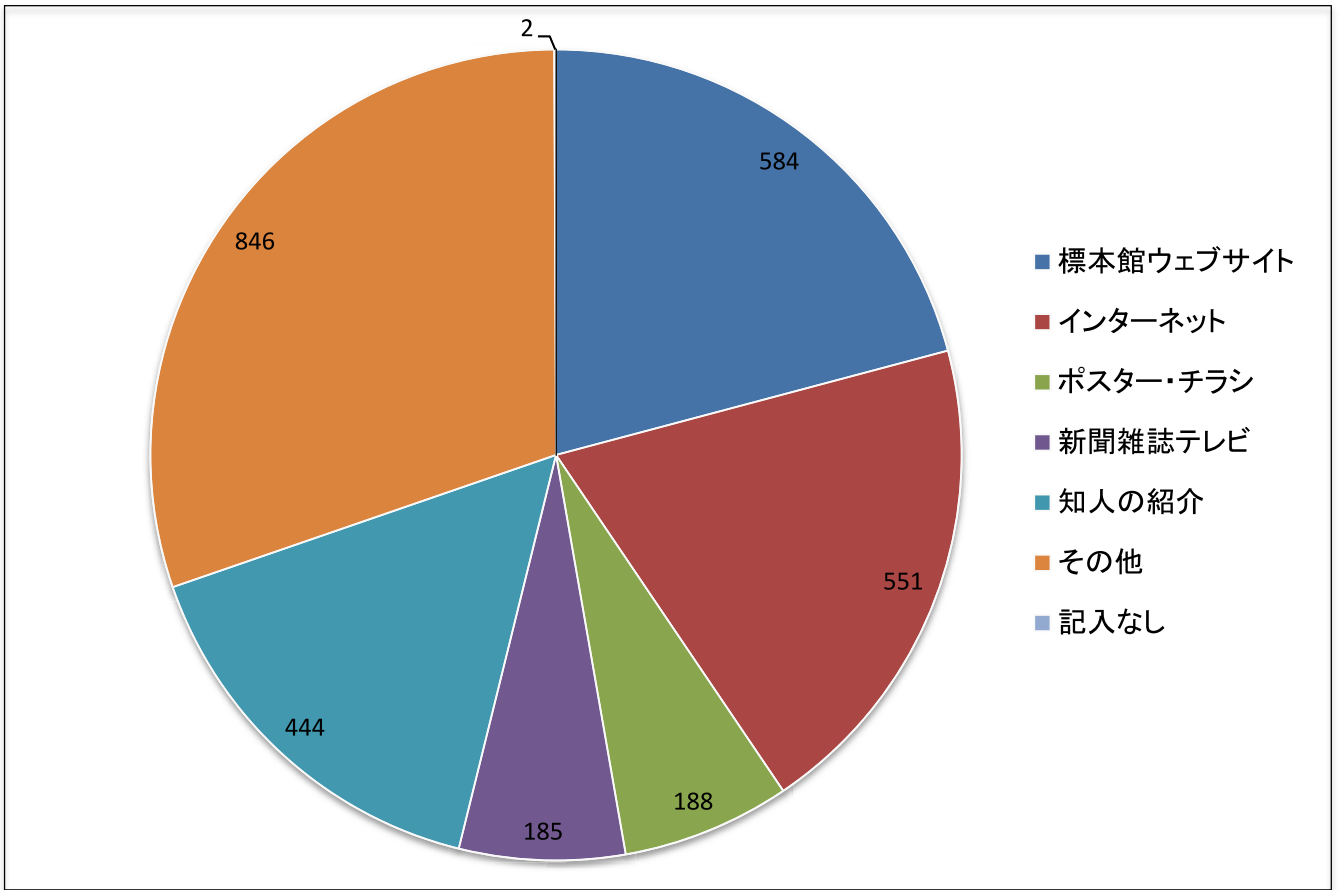
第2図 どこから来たか (N=2,602)



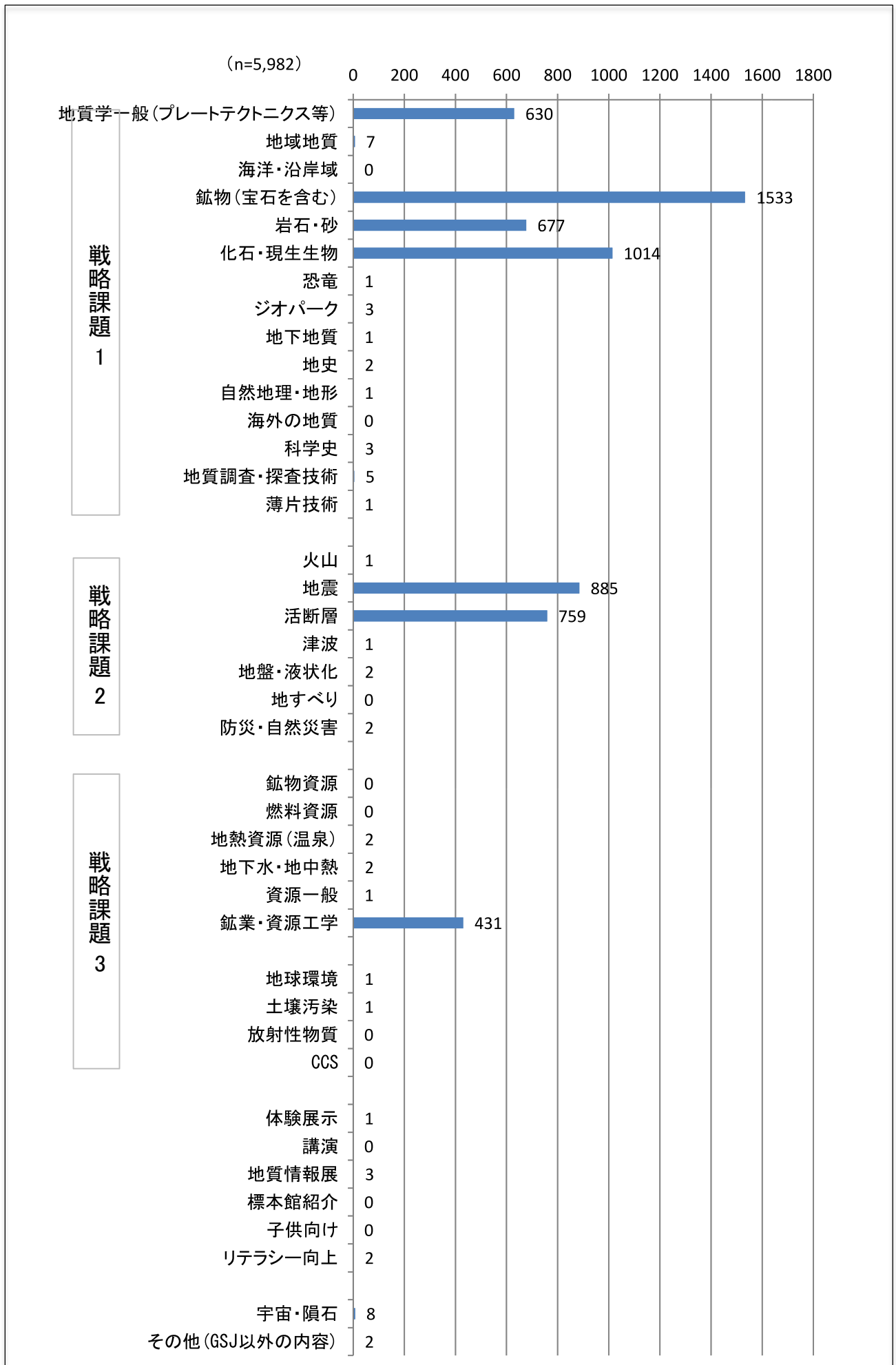
第3図 満足度(館全般)(N=2,602)



第4図 満足度(次回への期待度)(N=2,602)

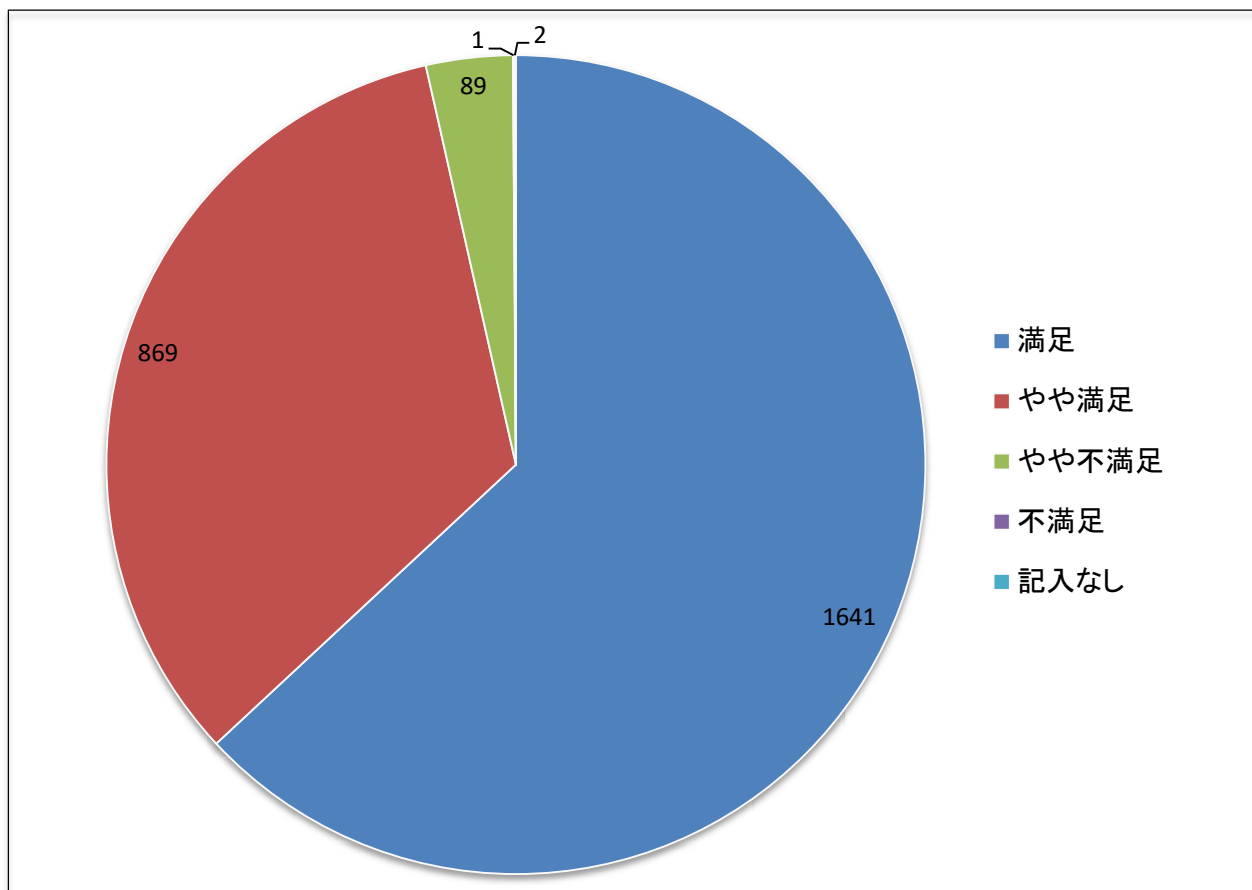


第5図 来館のきっかけ(N=2,800)

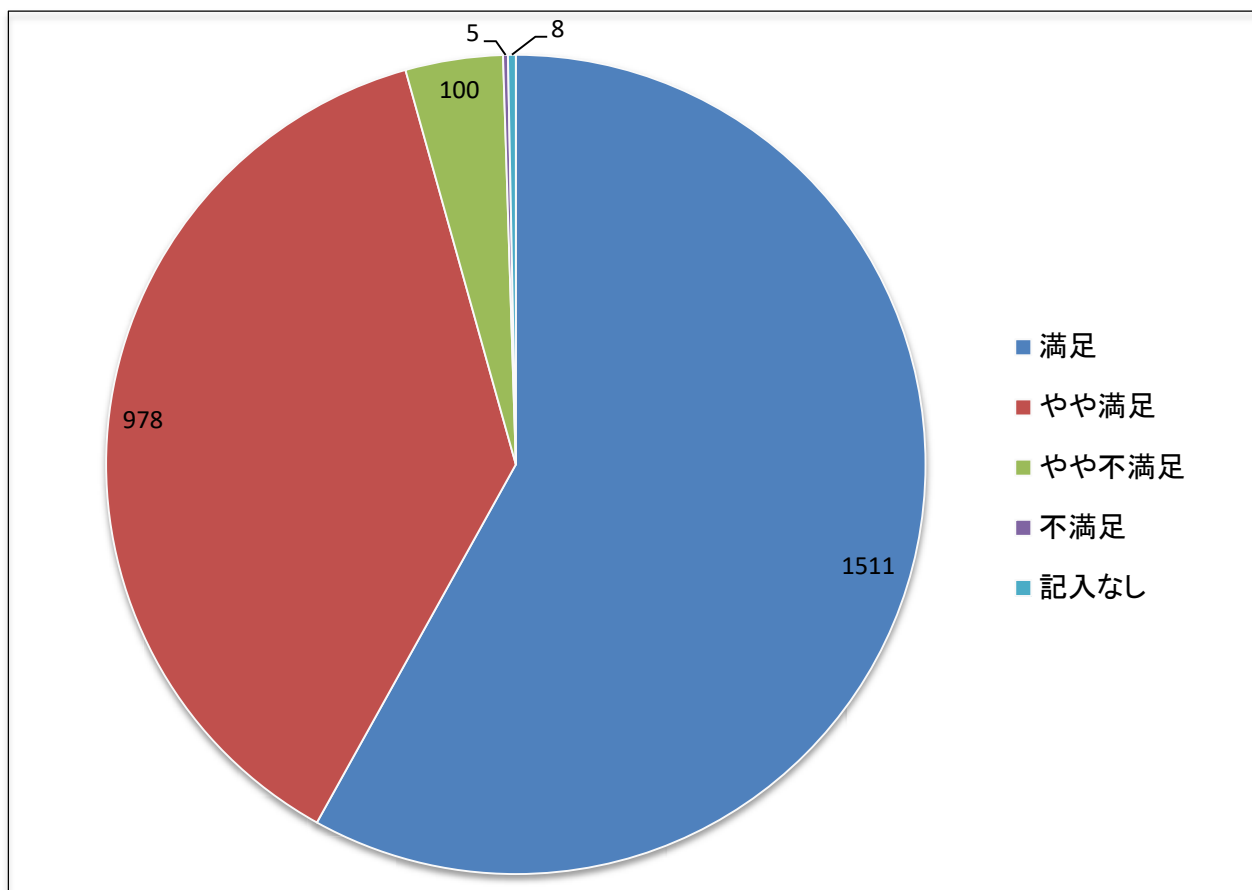


第6図 興味を持ったテーマ

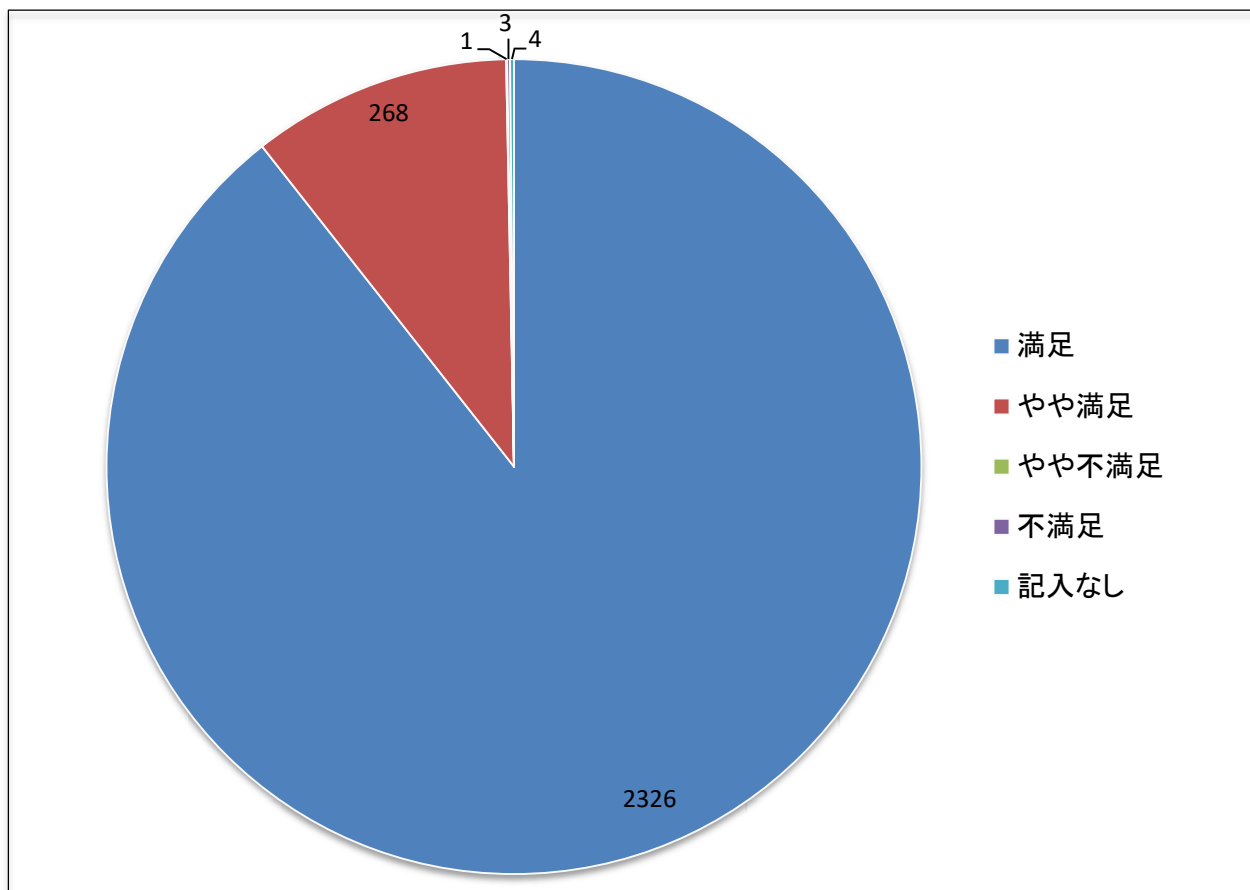
(複数回答可)



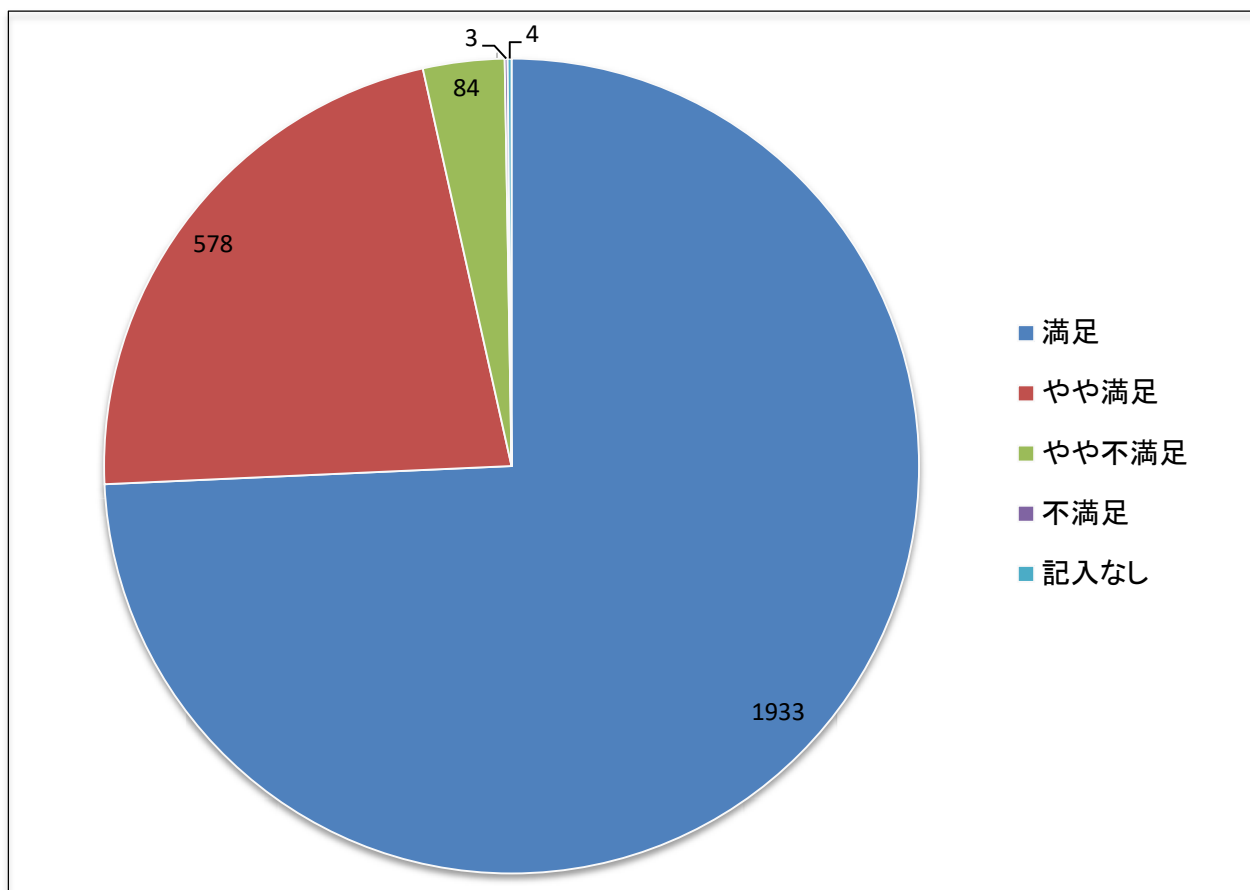
第7図 展示物について(展示の仕方)(N=2,602)



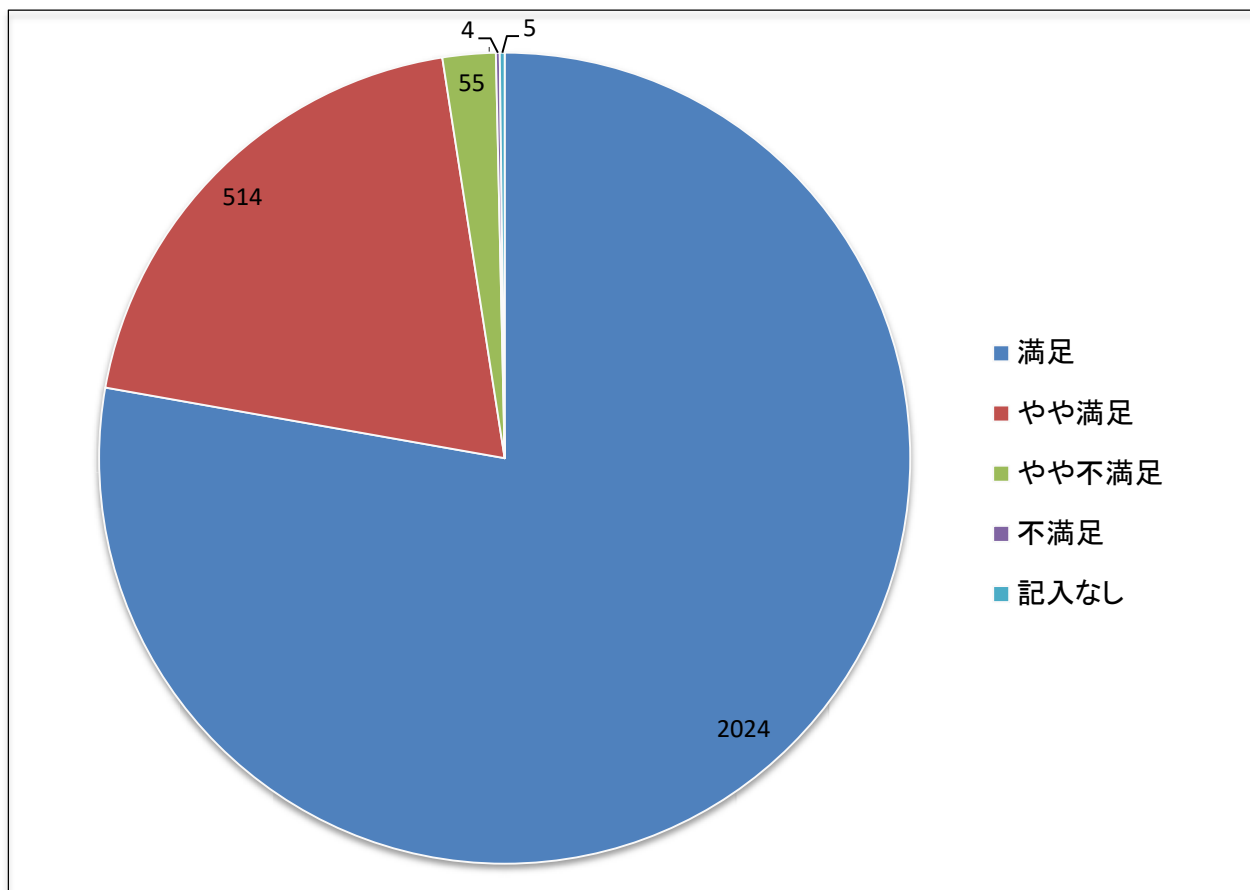
第8図 展示物について(機器の使い勝手)(N=2,602)



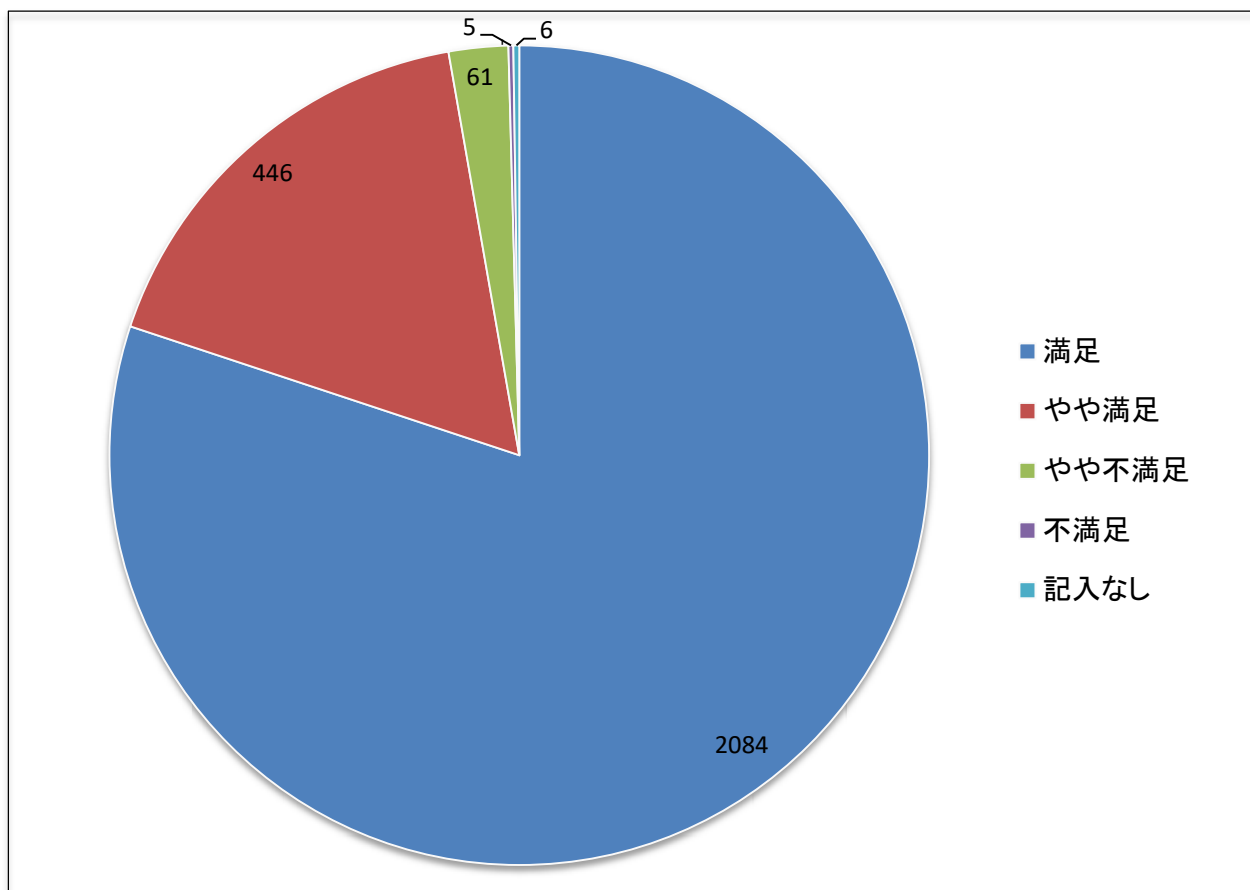
第9図 建物やサービスについて(受付の対応)(N=2,602)



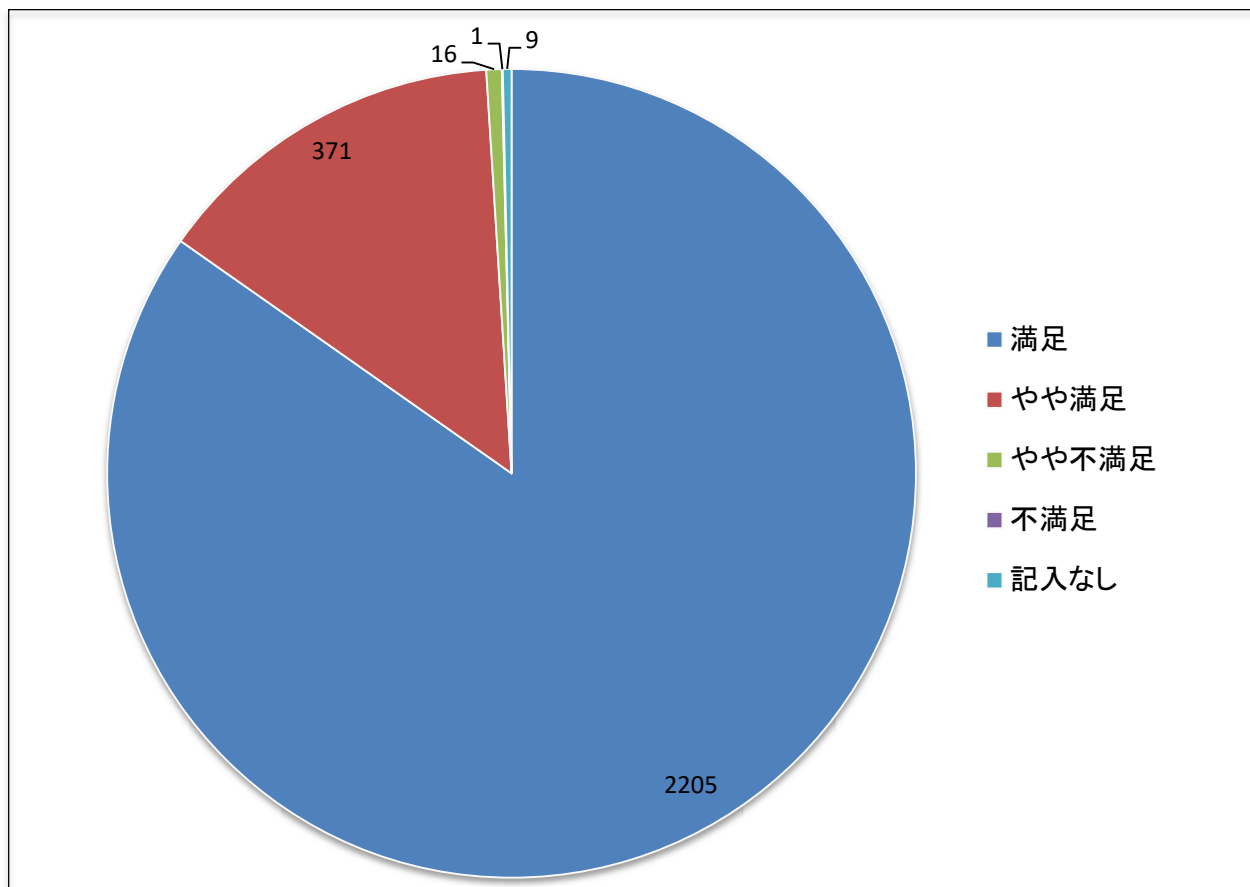
第10図 建物やサービスについて(案内表示)(N=2,602)



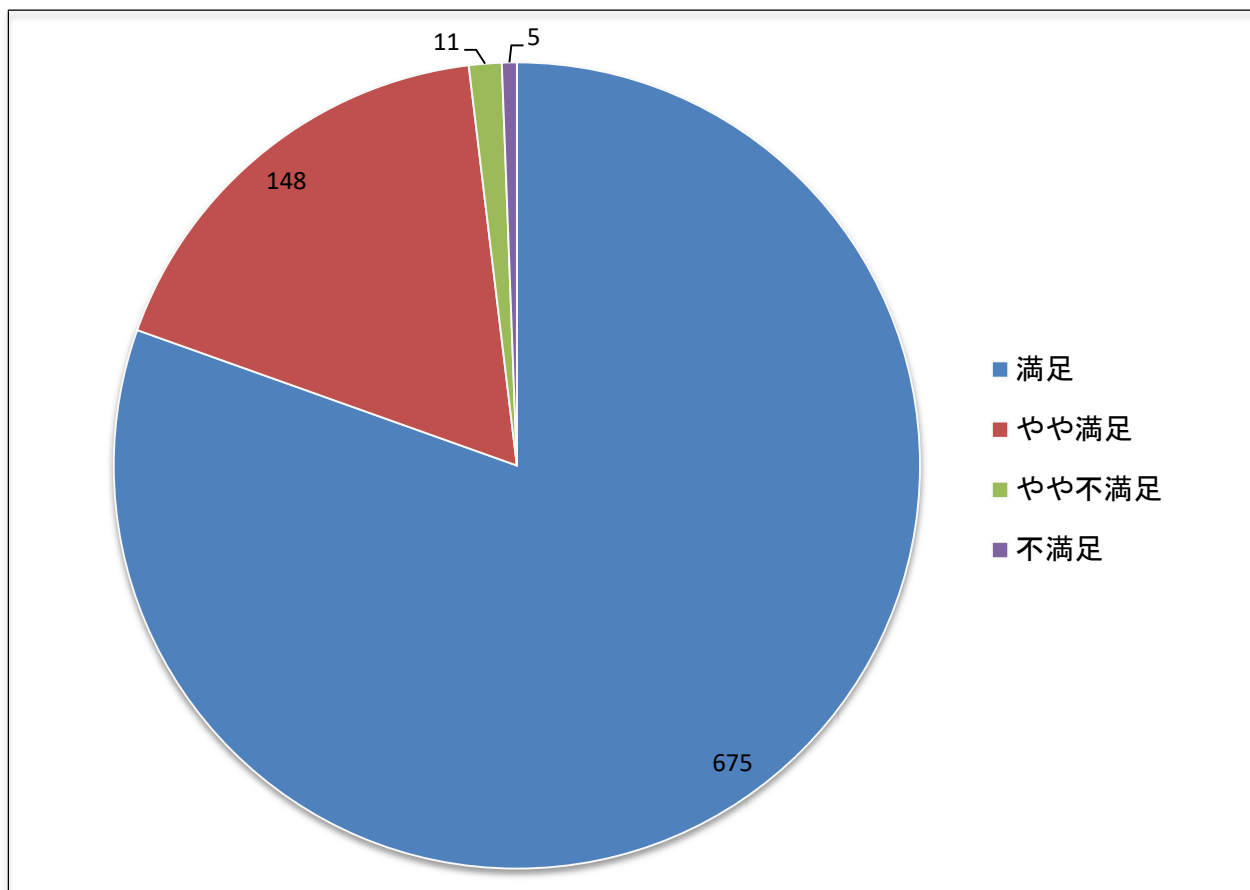
第11図 建物やサービスについて(館内の明るさ)(N=2,602)



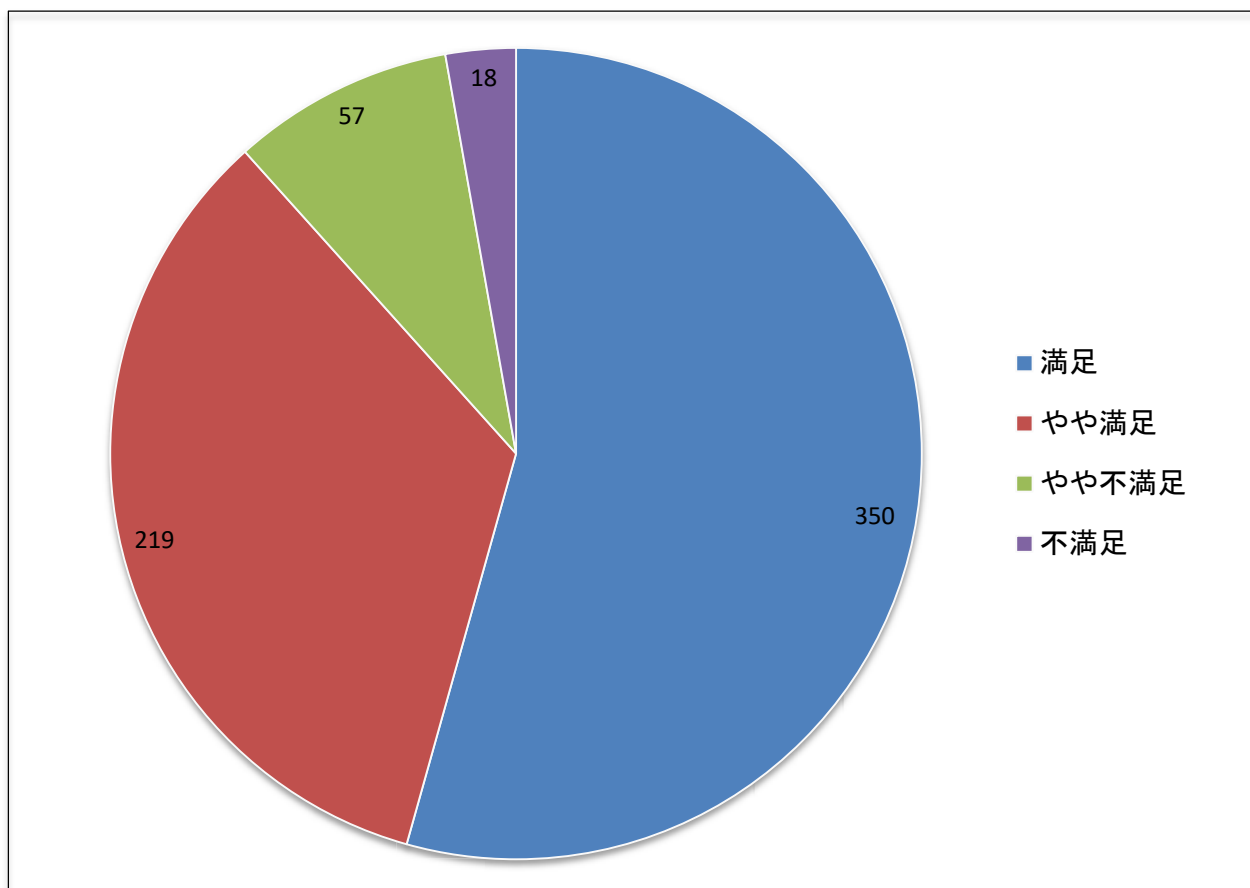
第12図 建物やサービスについて(空調温度)(N=2,602)



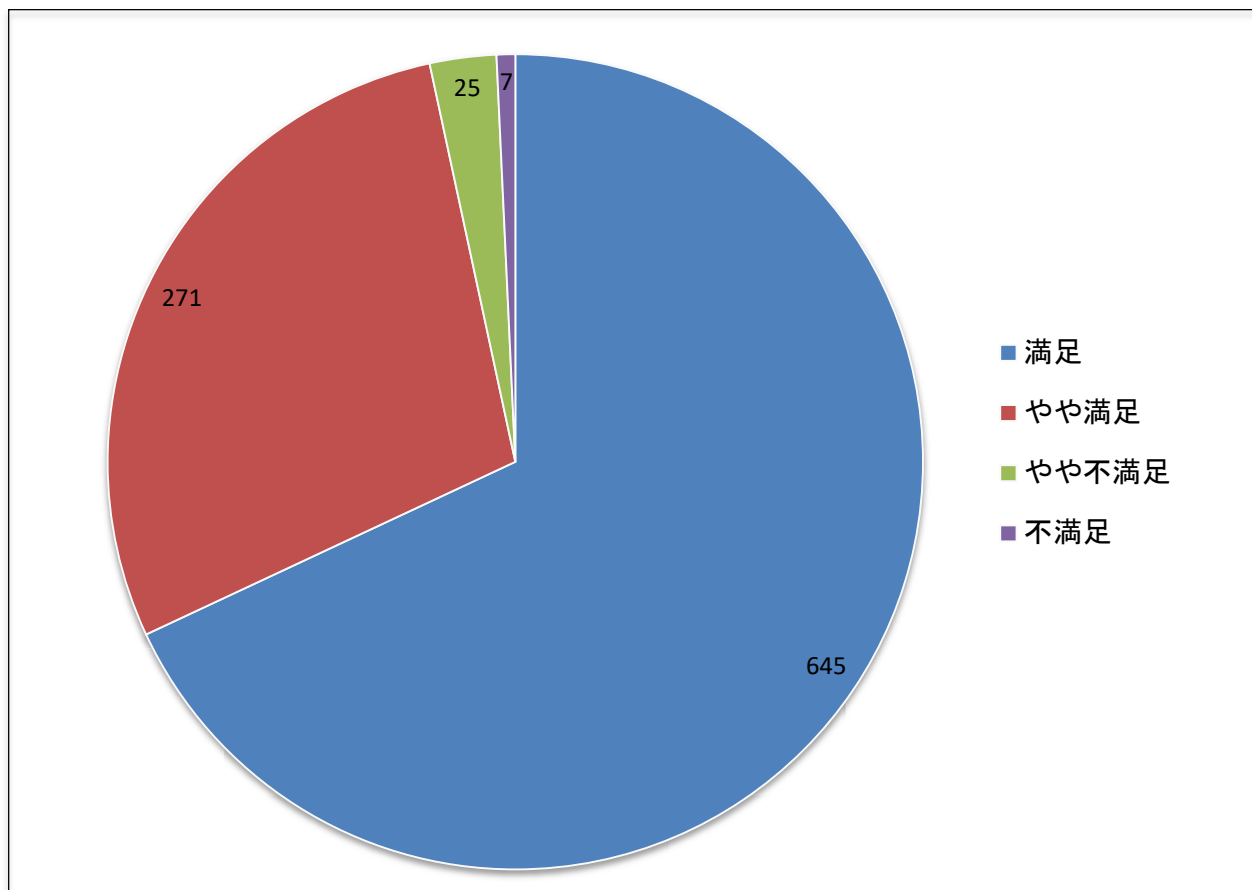
第13図 建物やサービスについて(清掃)(N=2,602)



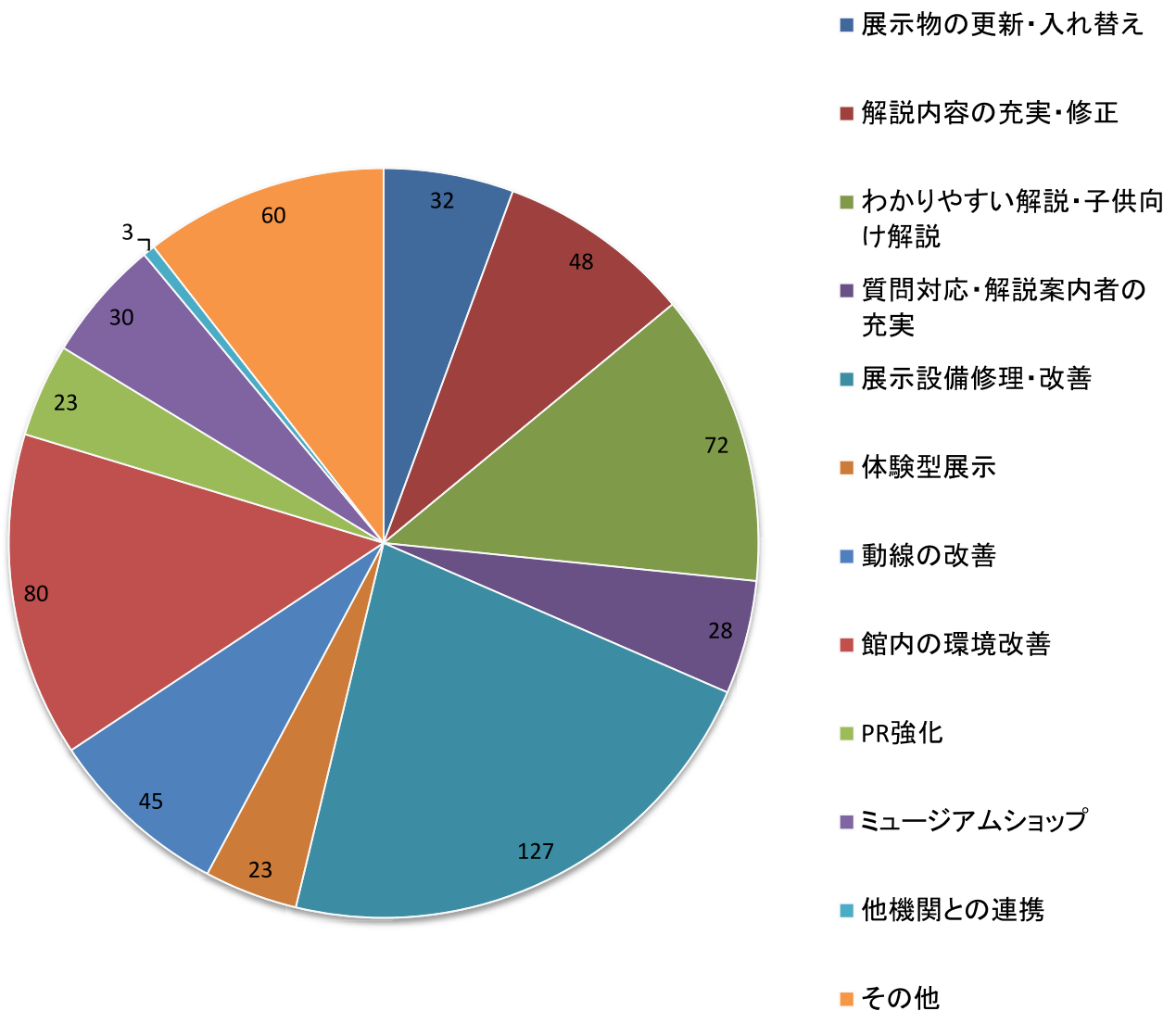
第14図 解説サービスについて(解説案内)(N=839)



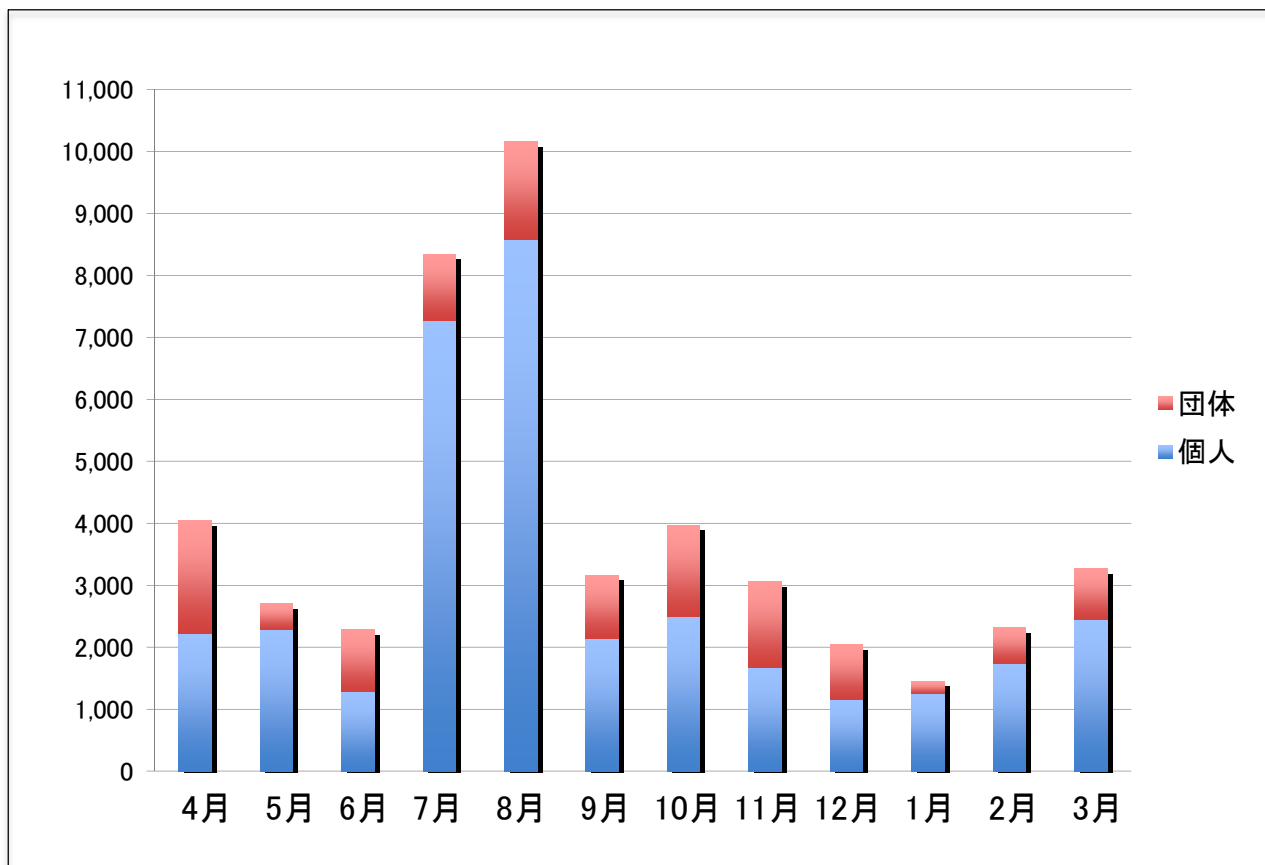
第15図 解説サービスについて(QRコード解説)(N=644)



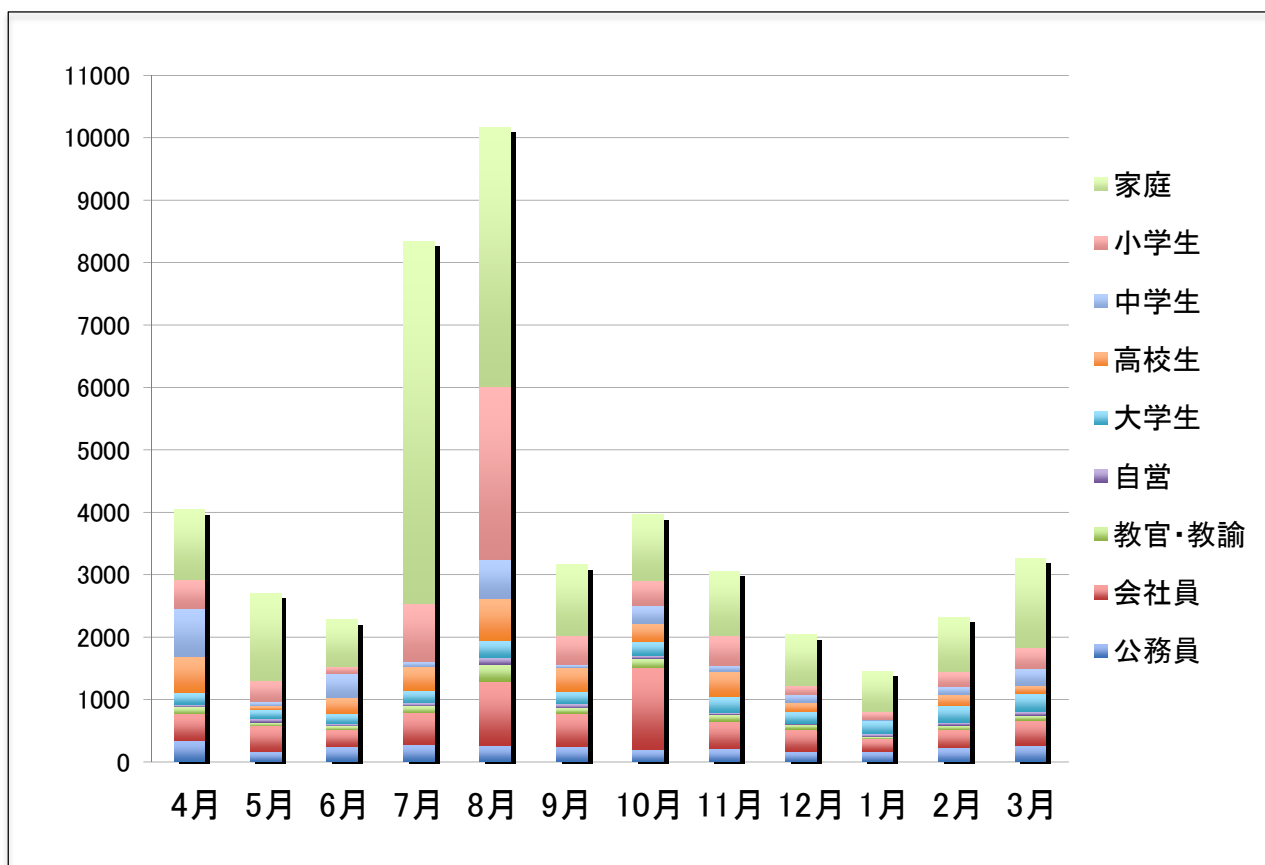
第16図 解説サービスについて(館内クイズ)(N=948)



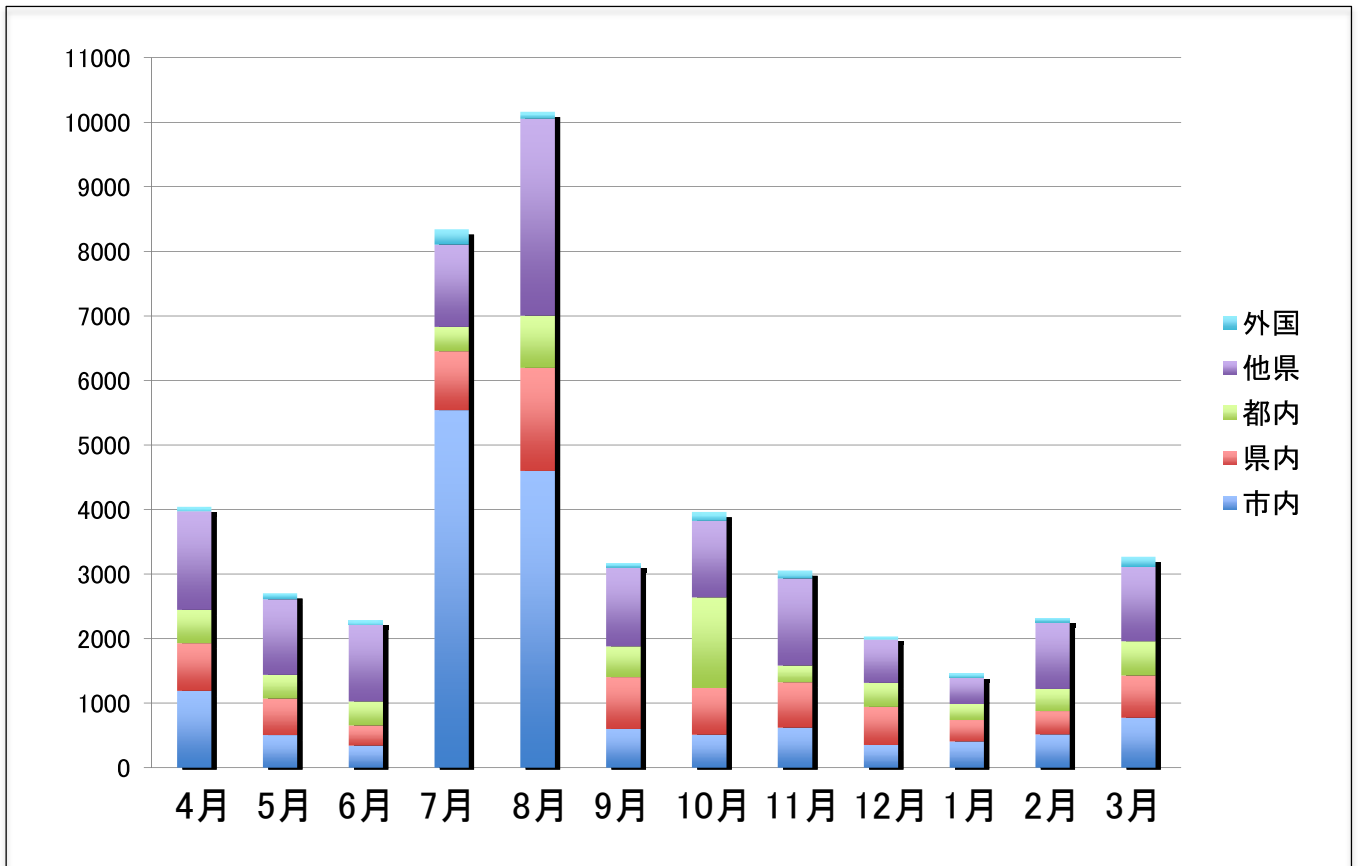
第17図 今後の展示内容の改善要望 (n=571)



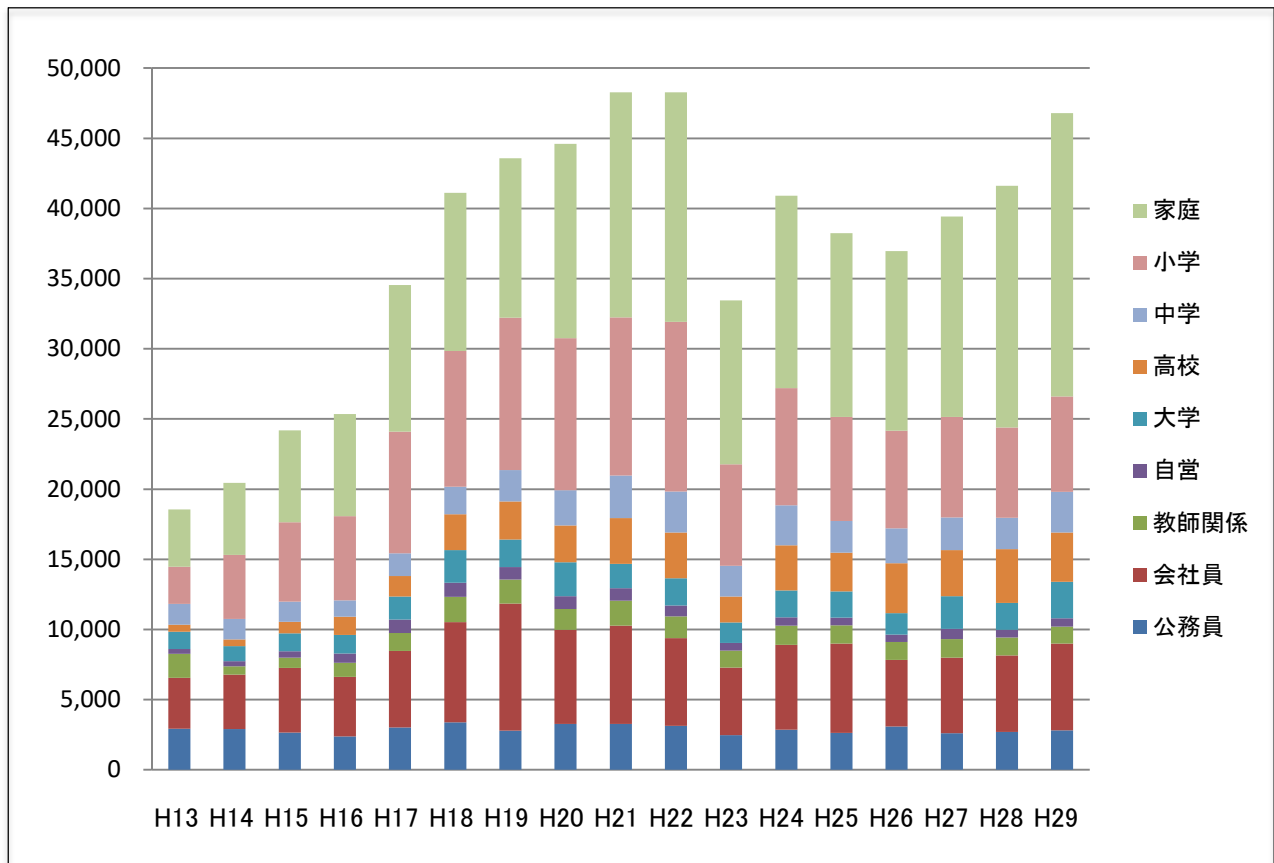
第18図 2017年度の来館者数(N=46,787)



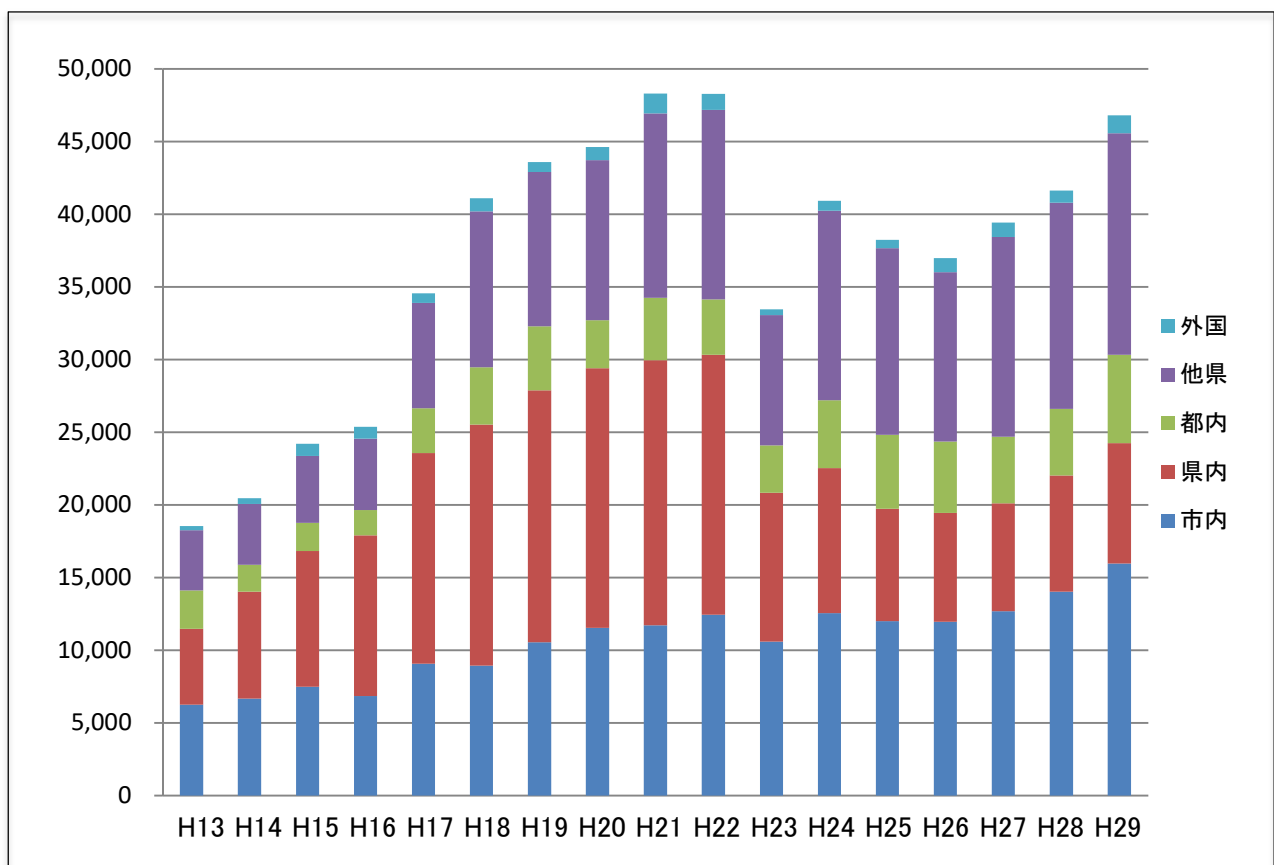
第19図 2017年度の来館者職域内訳(N=46,787)



第20図 2017年度の来館者地域別内訳(N=46,787)

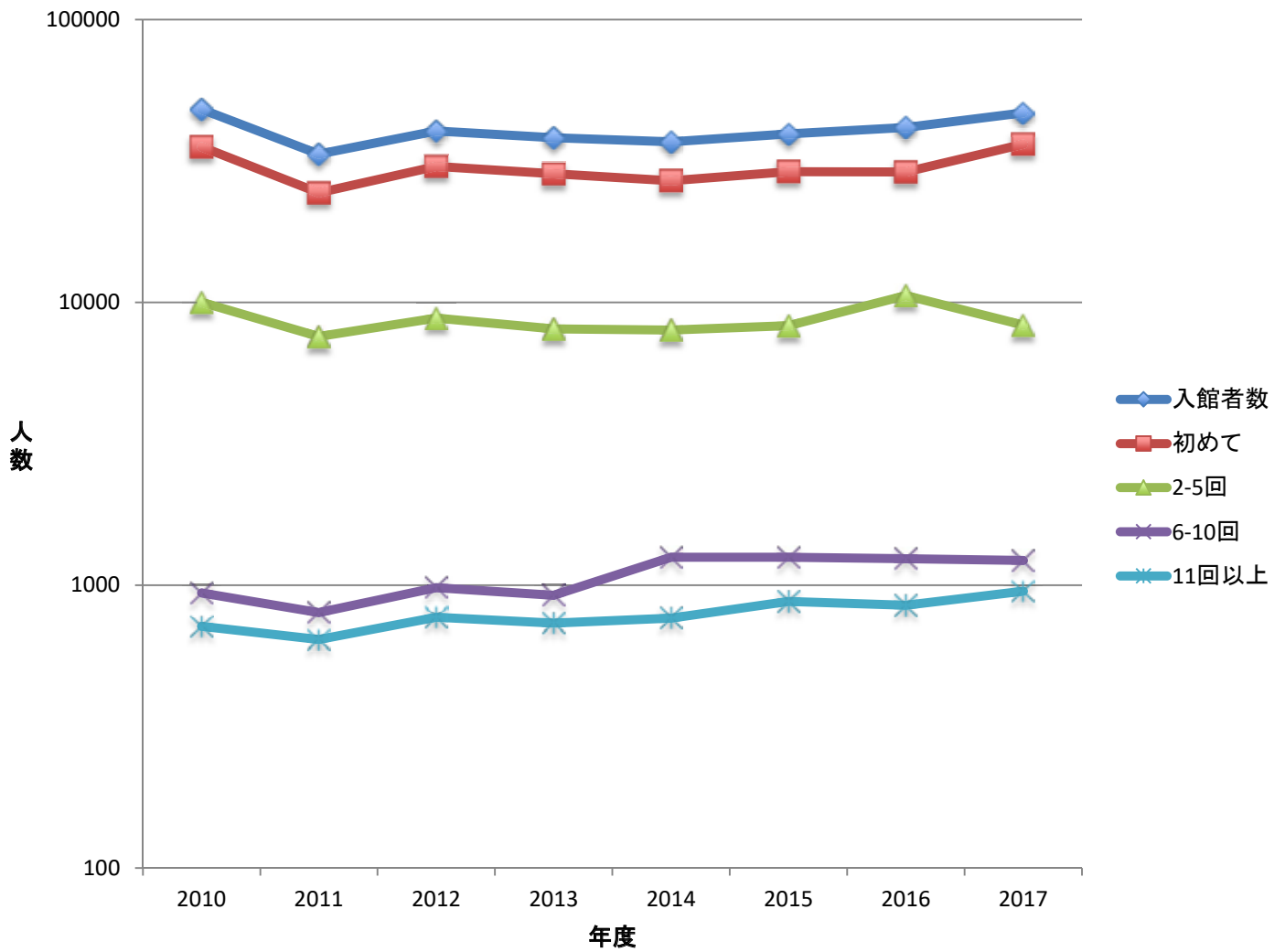


第21図 来館者数総計推移(職業別)



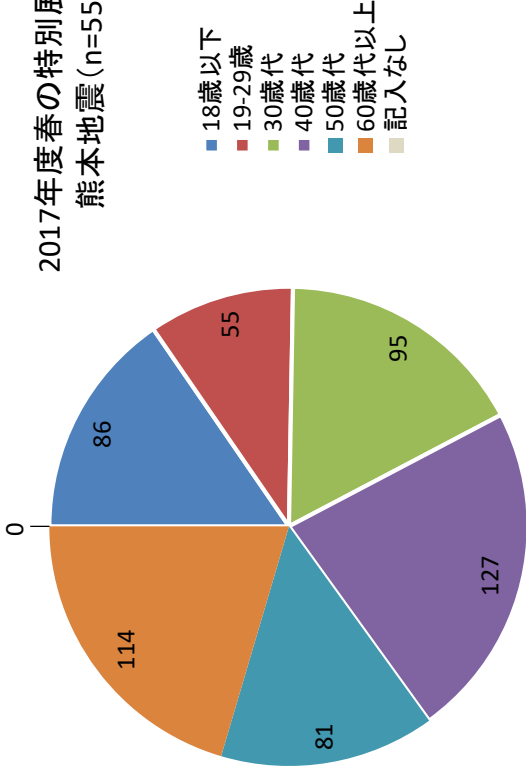
第22図 来館者数総計推移(地域別)

入館者数とリピーター状況

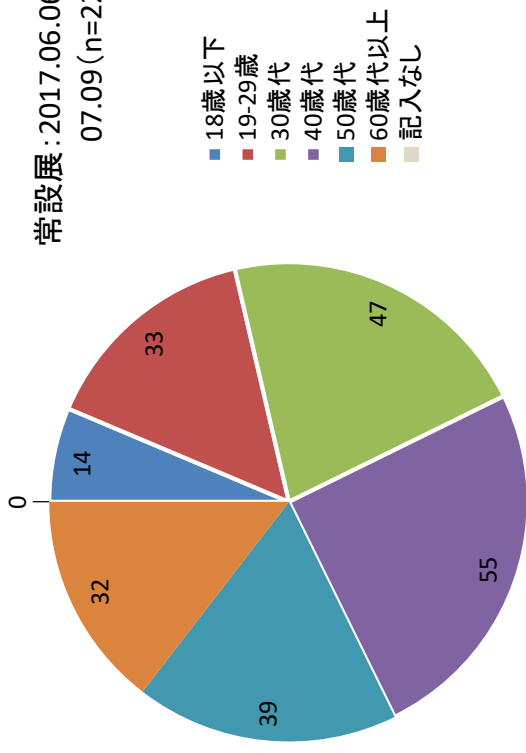


第23図 来館者数とリピーター状況

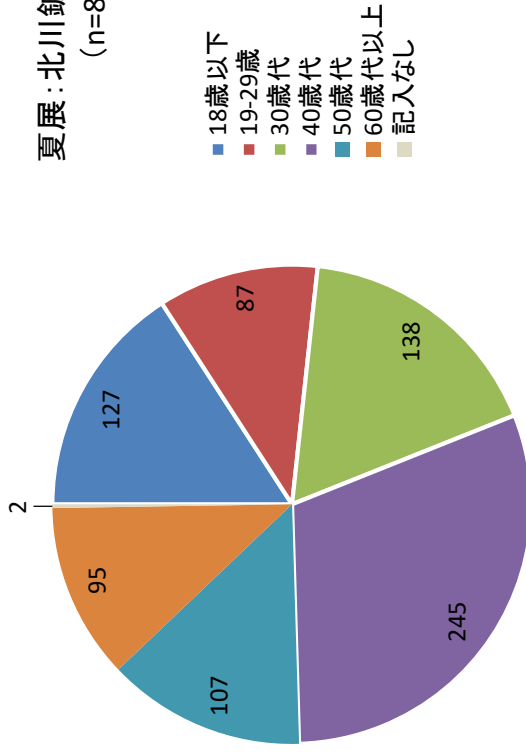
2017年度春の特別展：
熊本地震 (n=558)



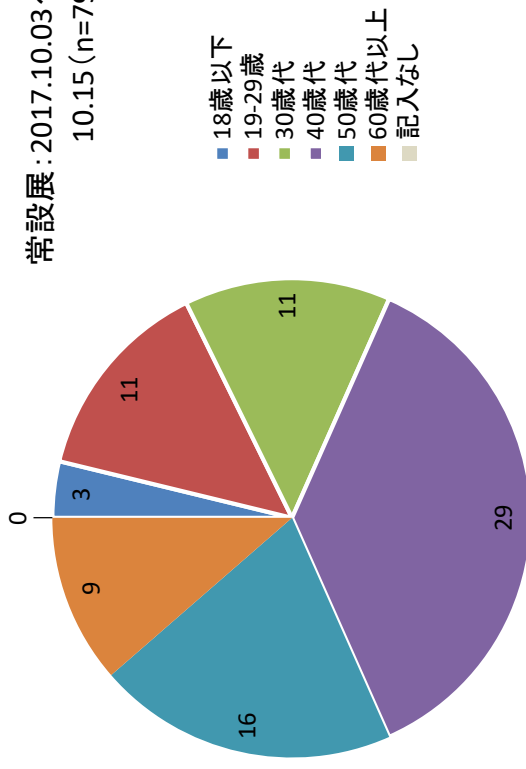
常設展：2017.06.06～
07.09 (n=220)



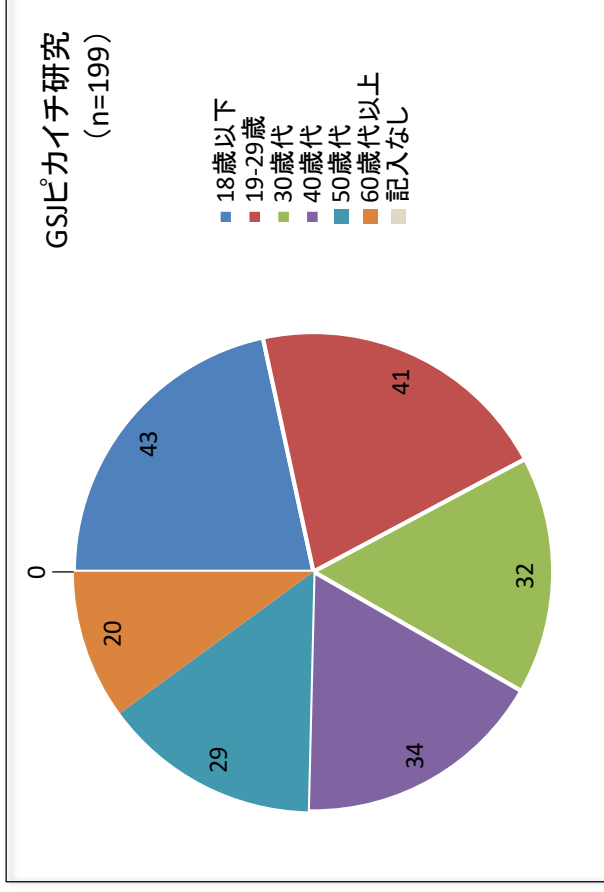
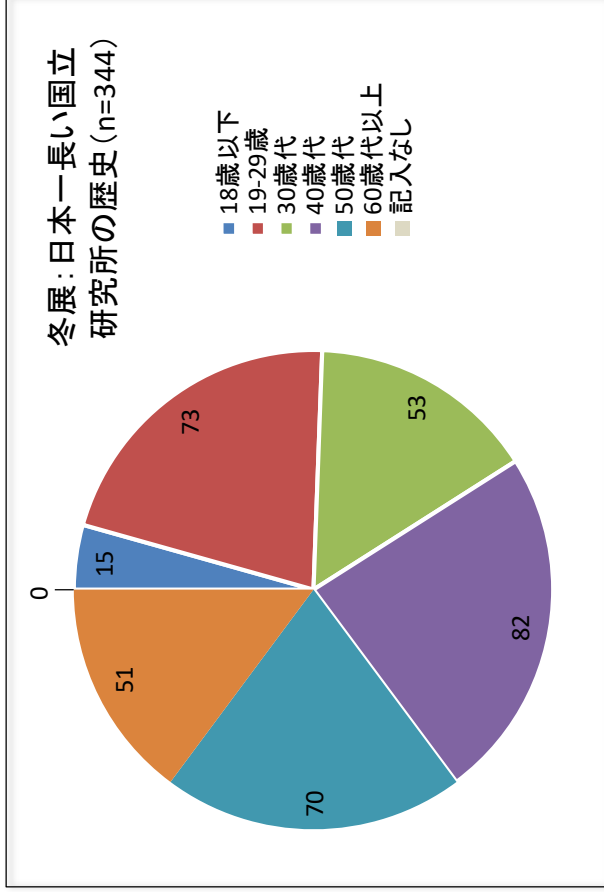
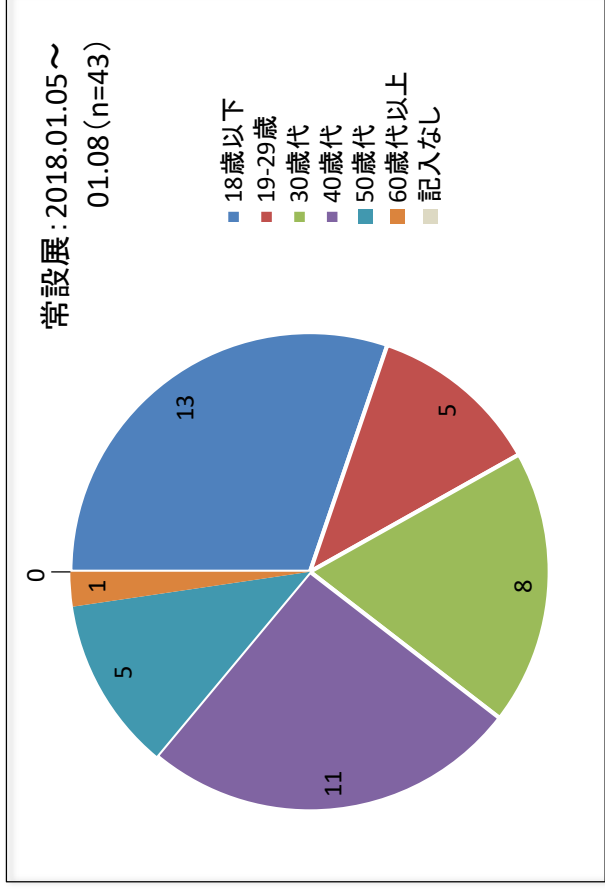
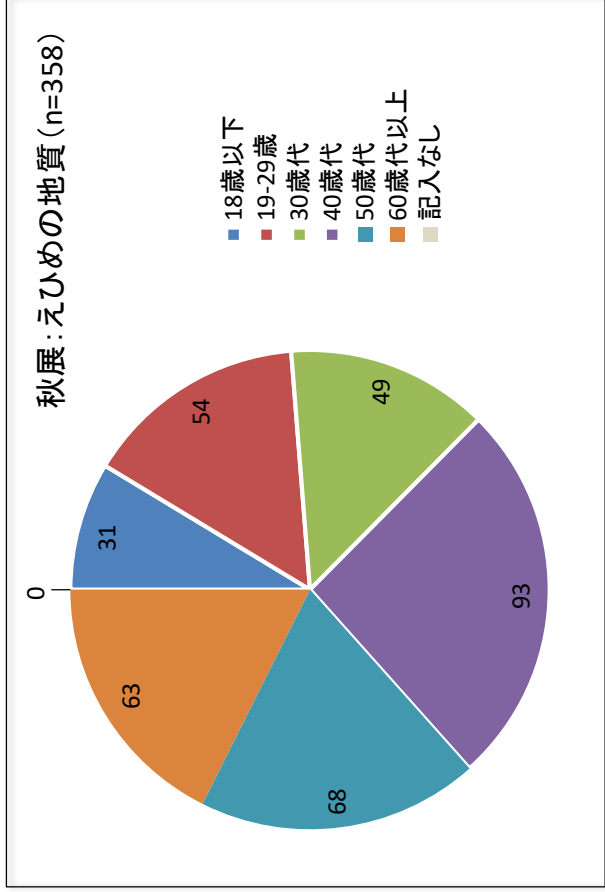
夏展：北川鉦物
(n=801)



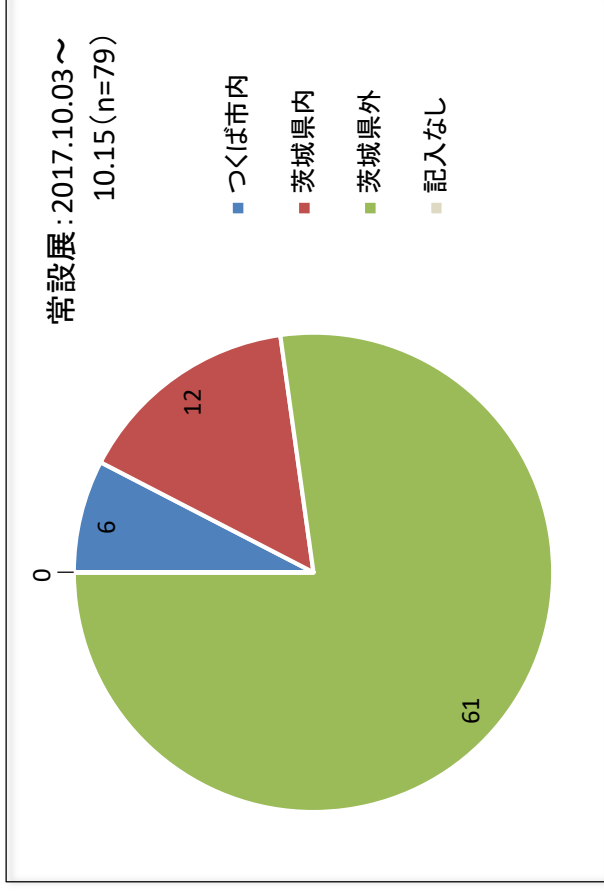
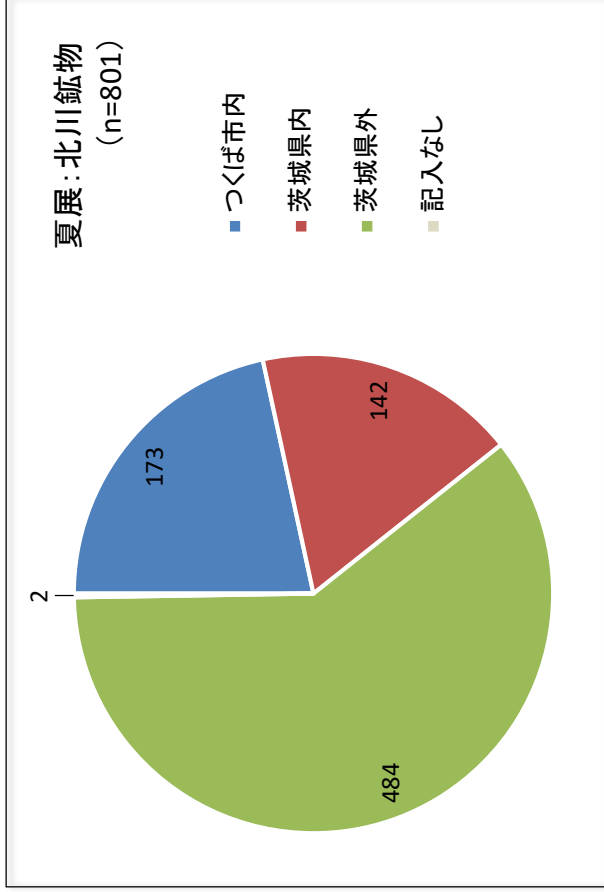
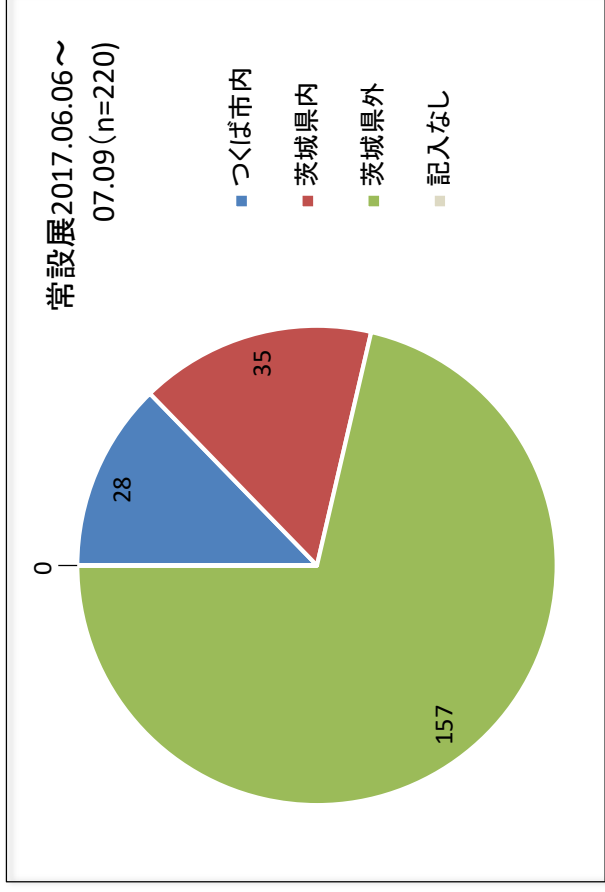
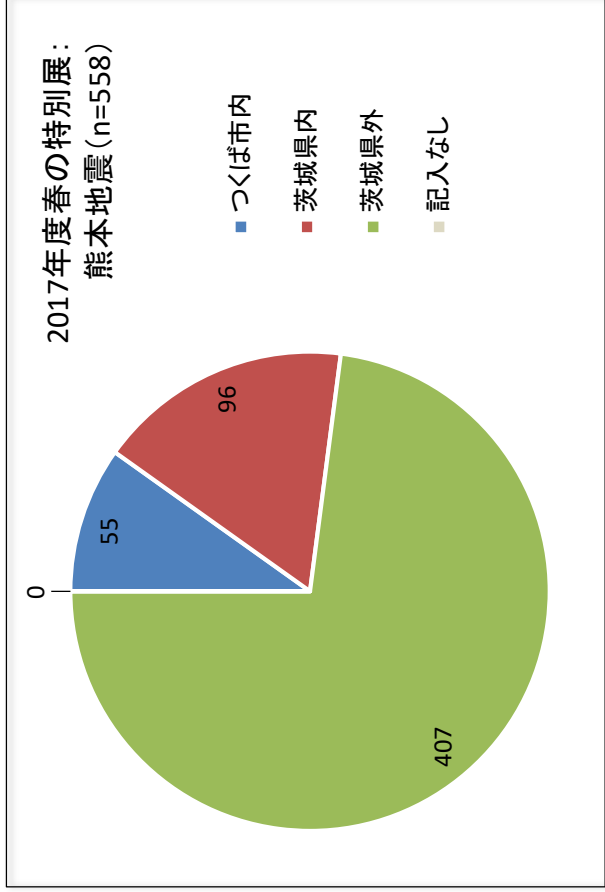
常設展：2017.10.03～
10.15 (n=79)



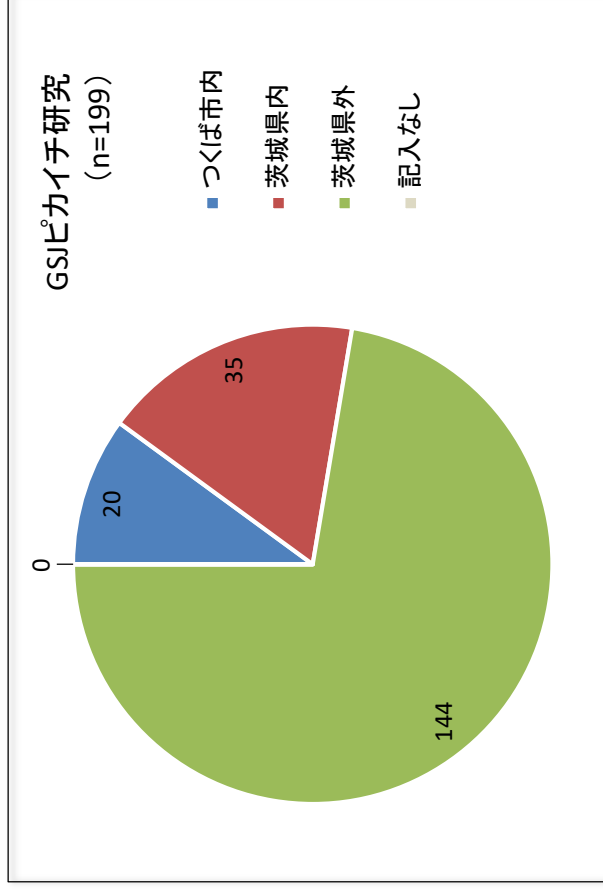
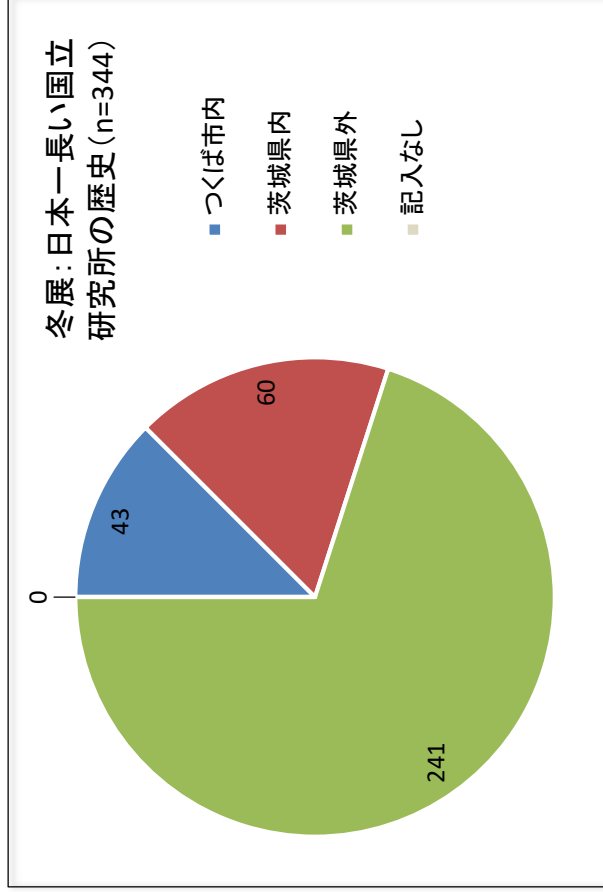
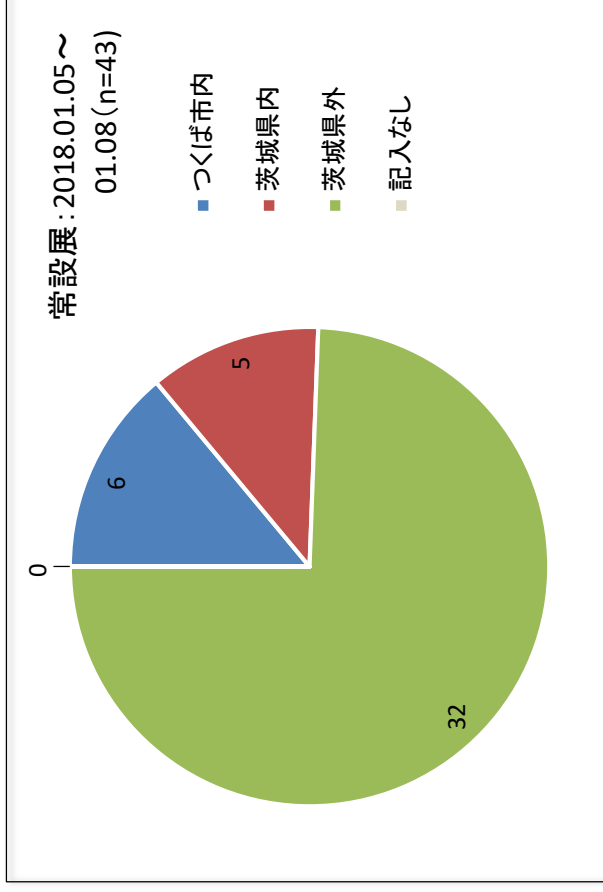
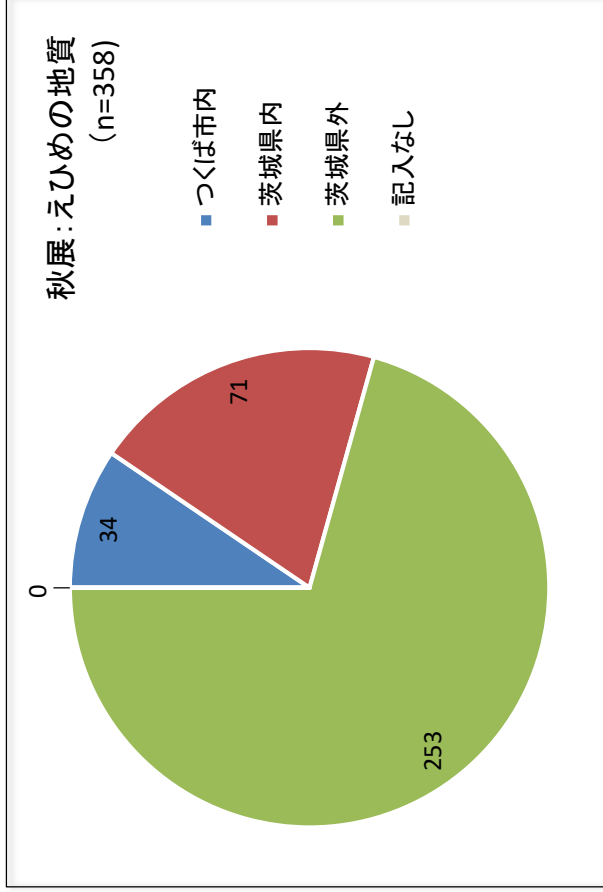
第24図 回答者の年齢層（期間ごと）



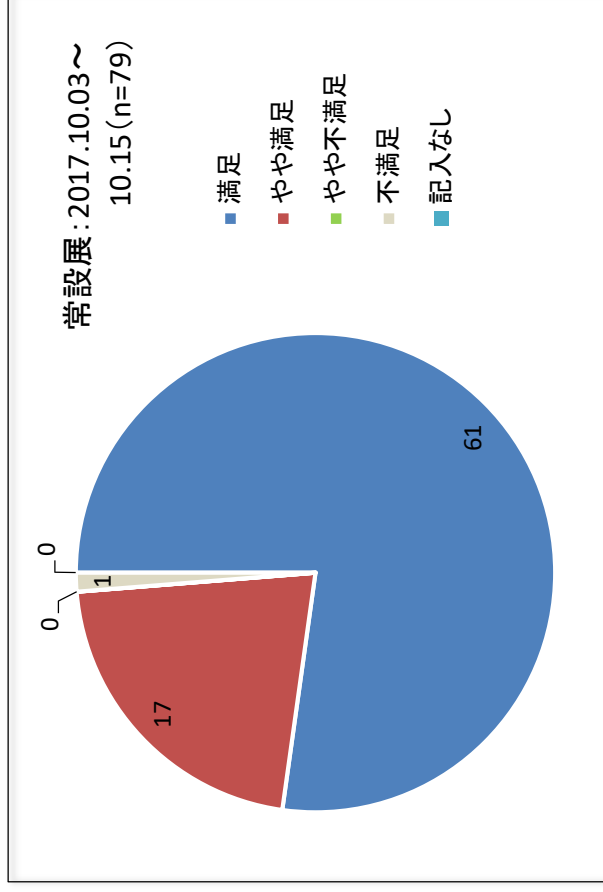
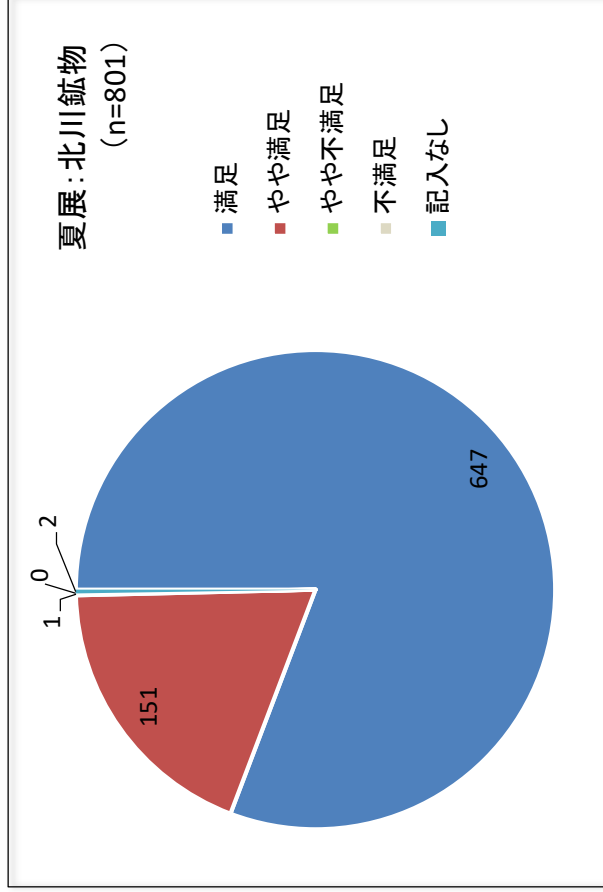
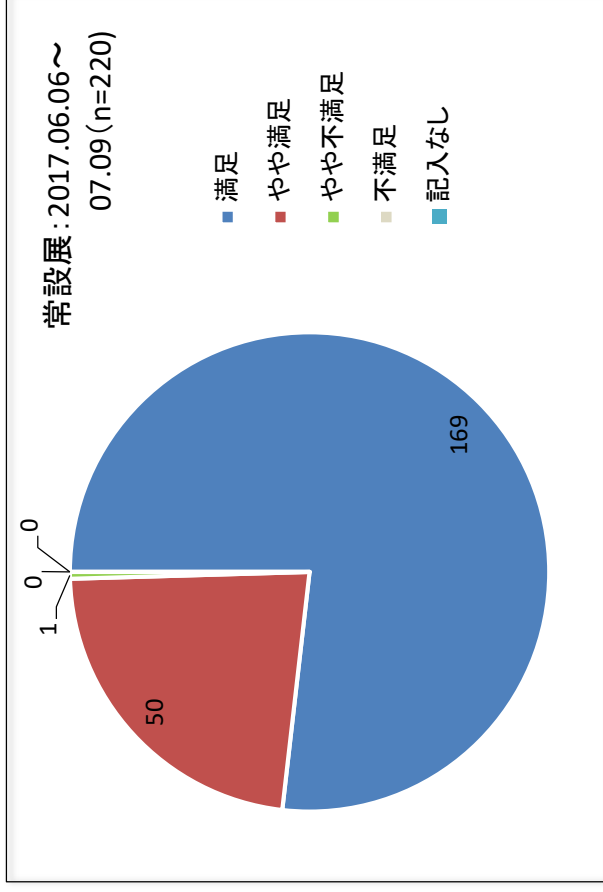
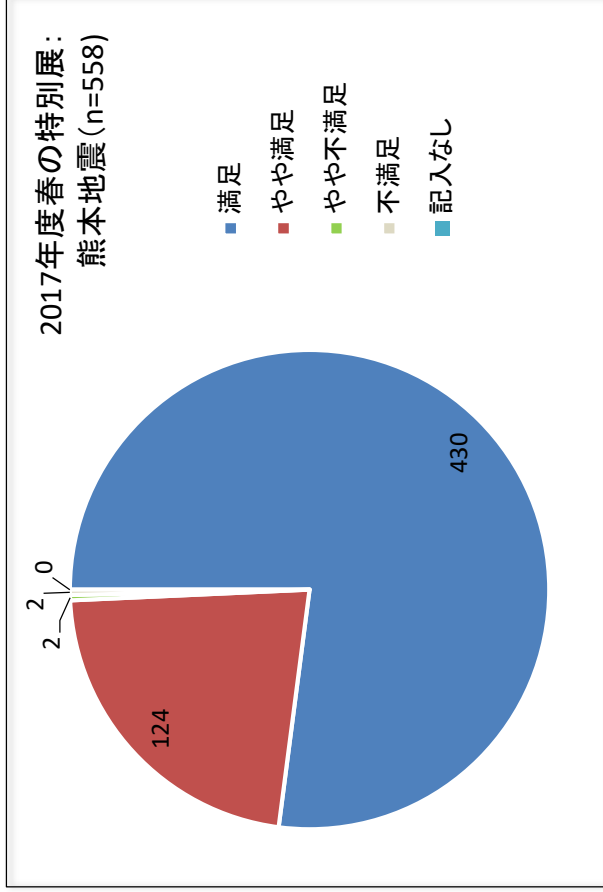
第25図 回答者の年齢層(期間ごと)



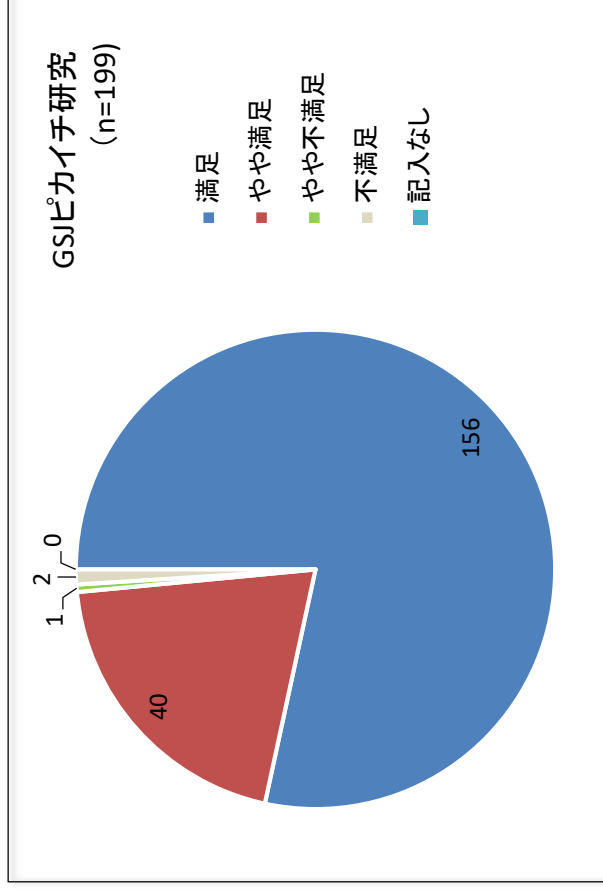
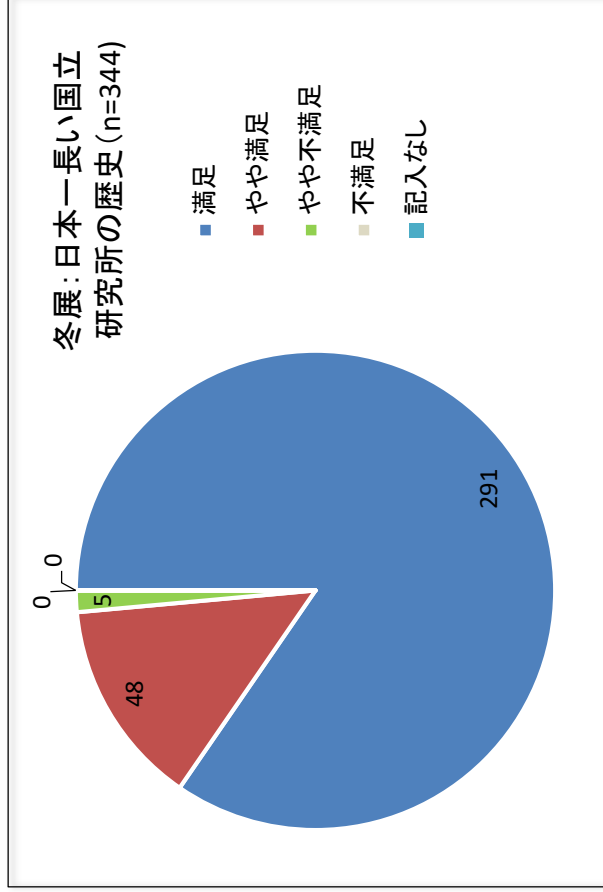
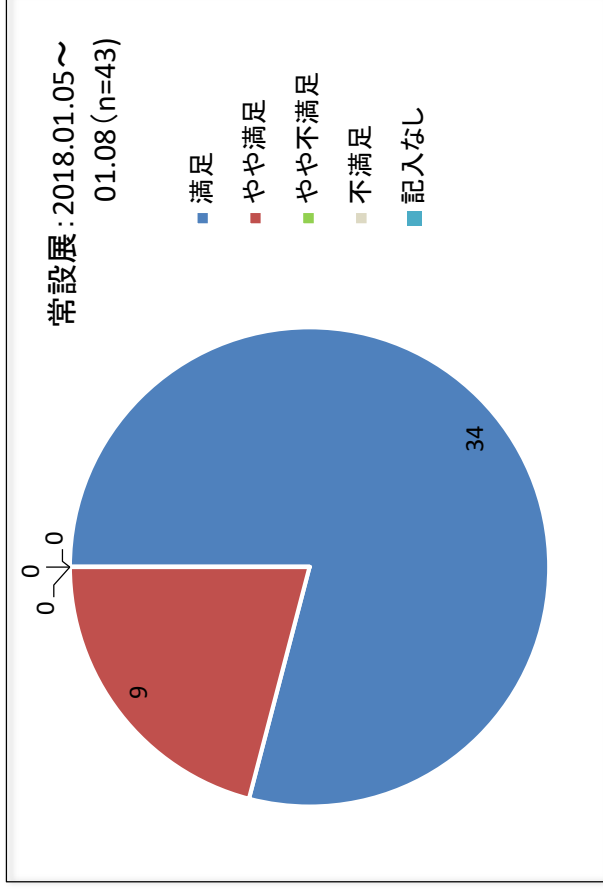
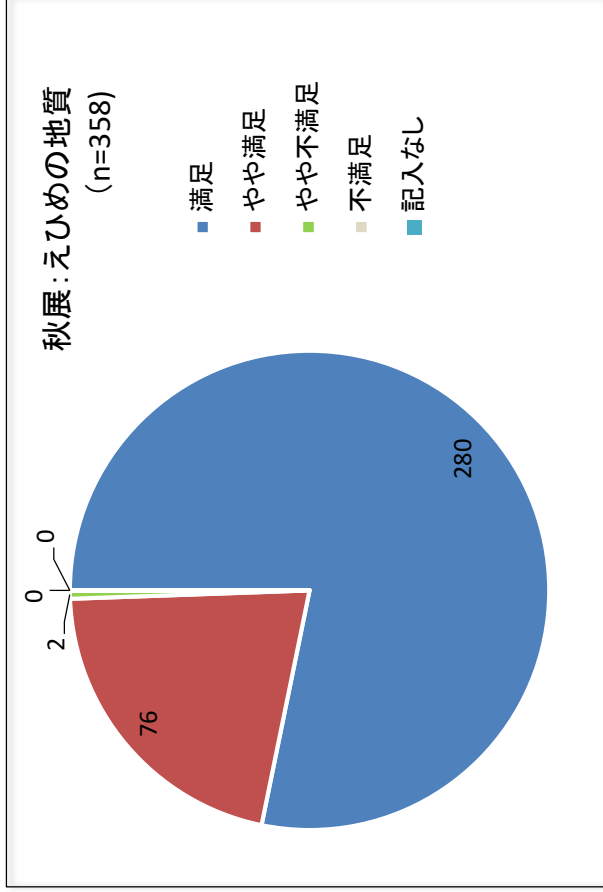
第26図 どこから来たか(期間ごと)



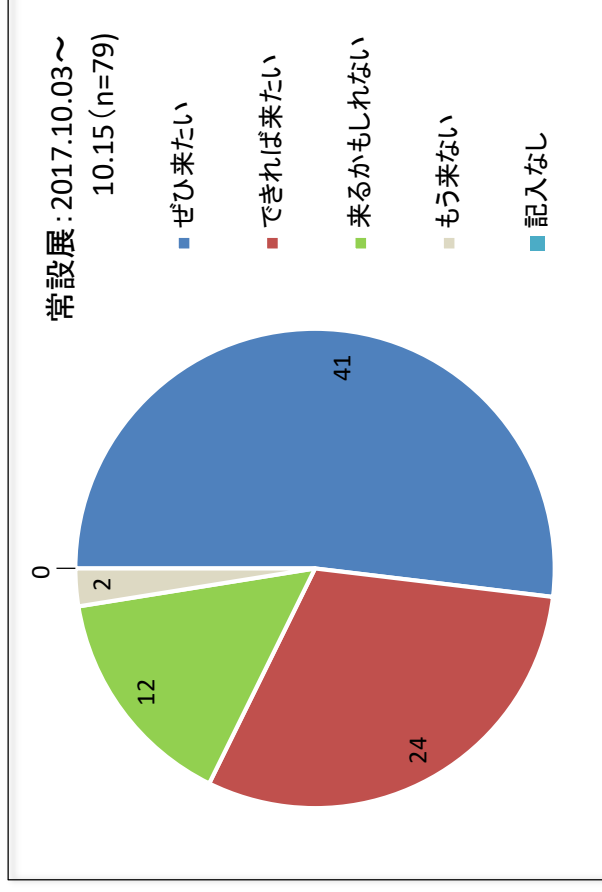
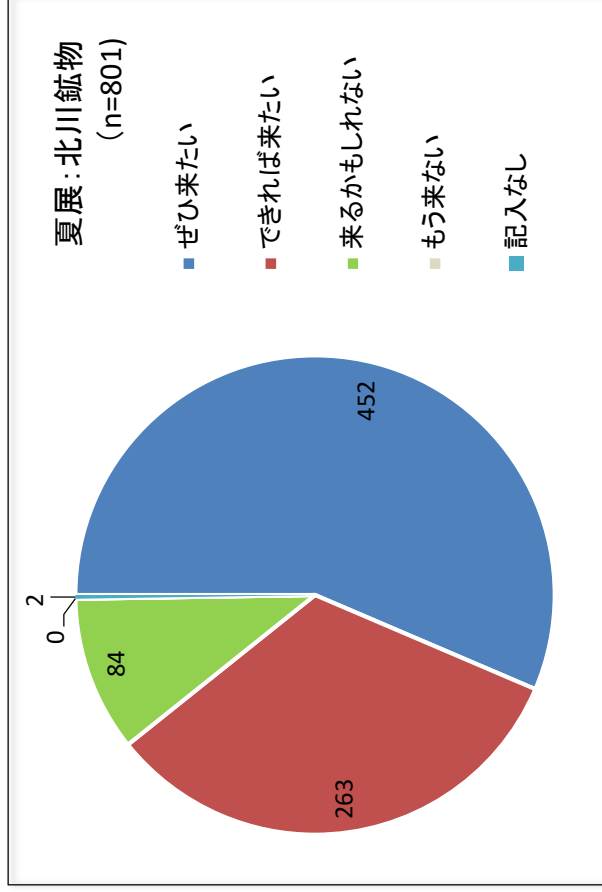
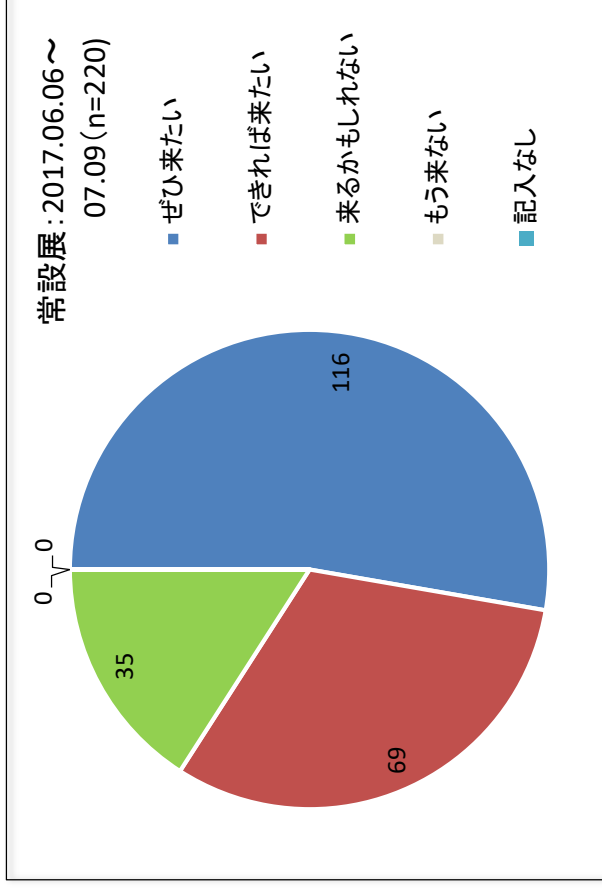
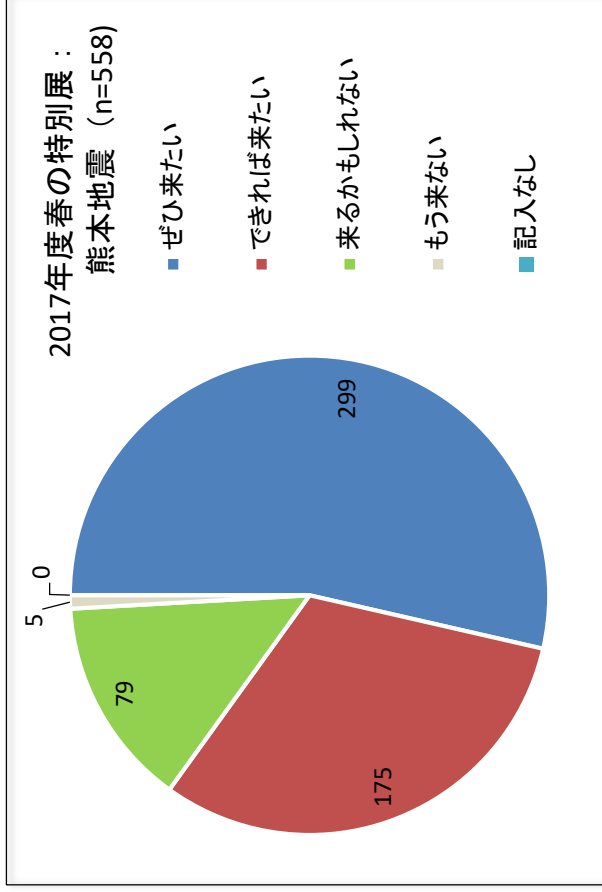
第27図 どこから来たか(期間ごと)



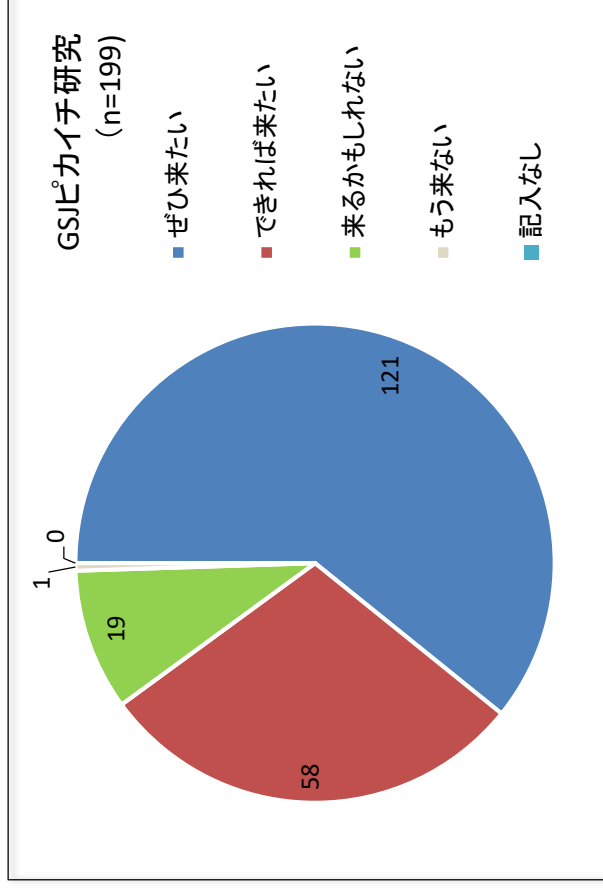
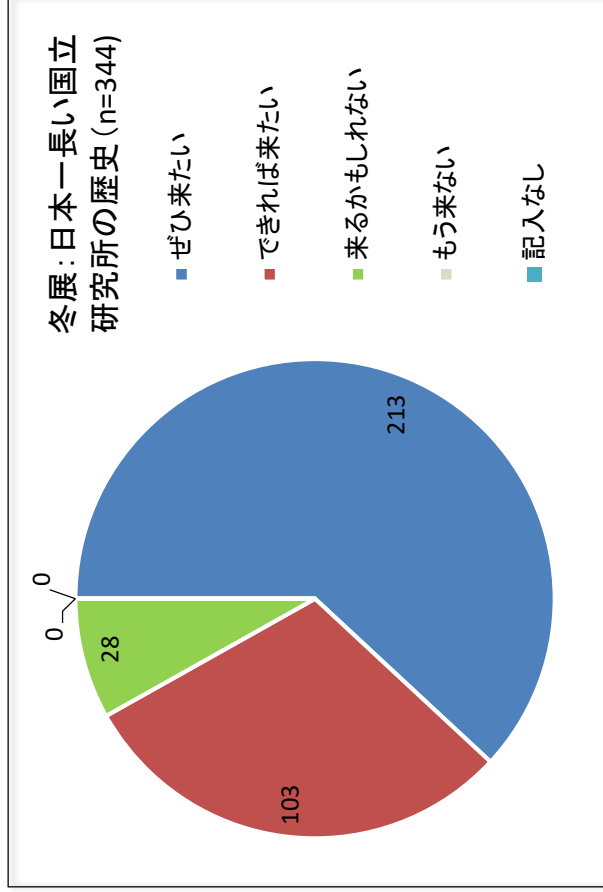
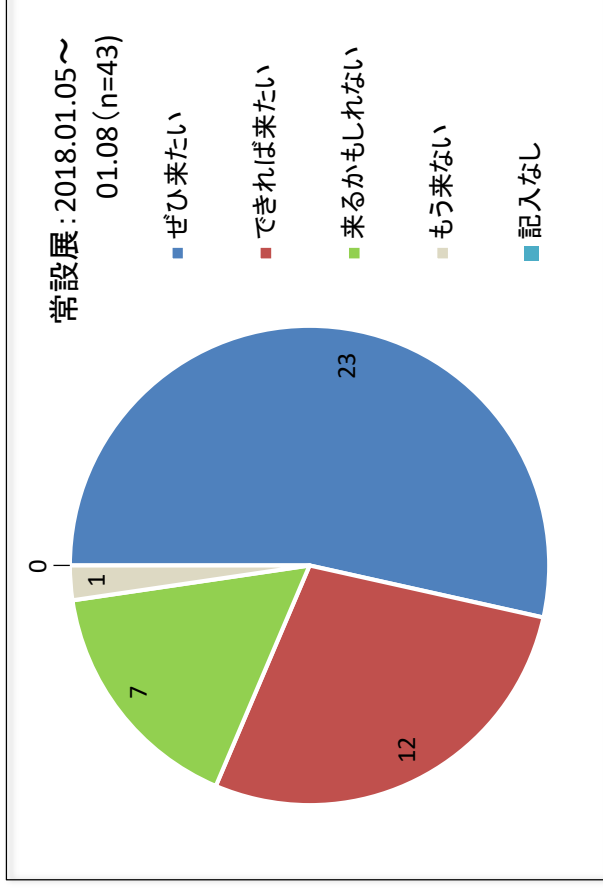
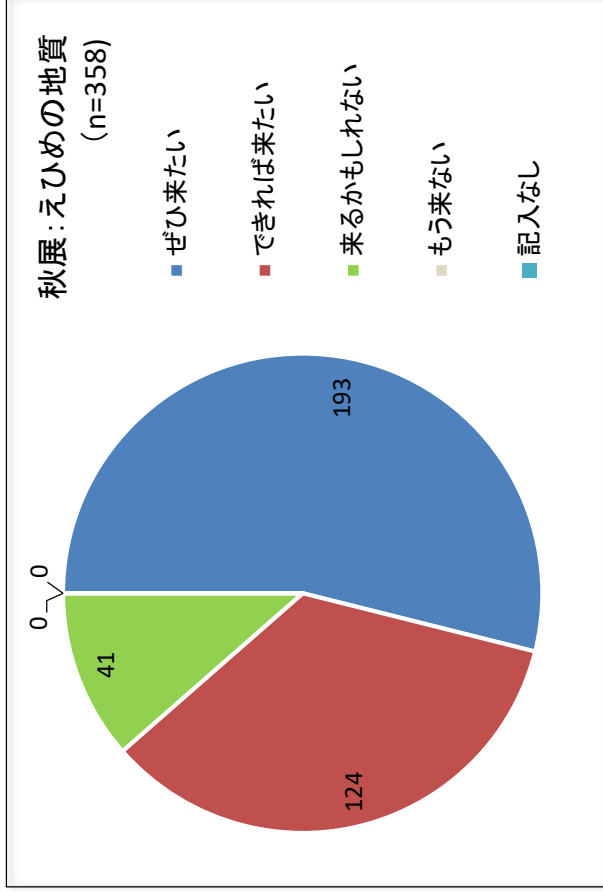
第28図 満足度(館全般)(期間ごと)



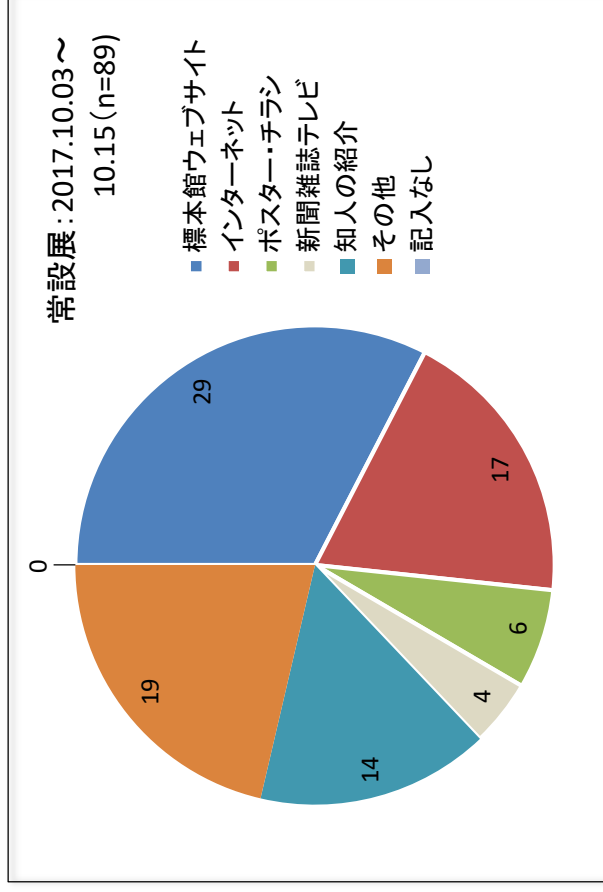
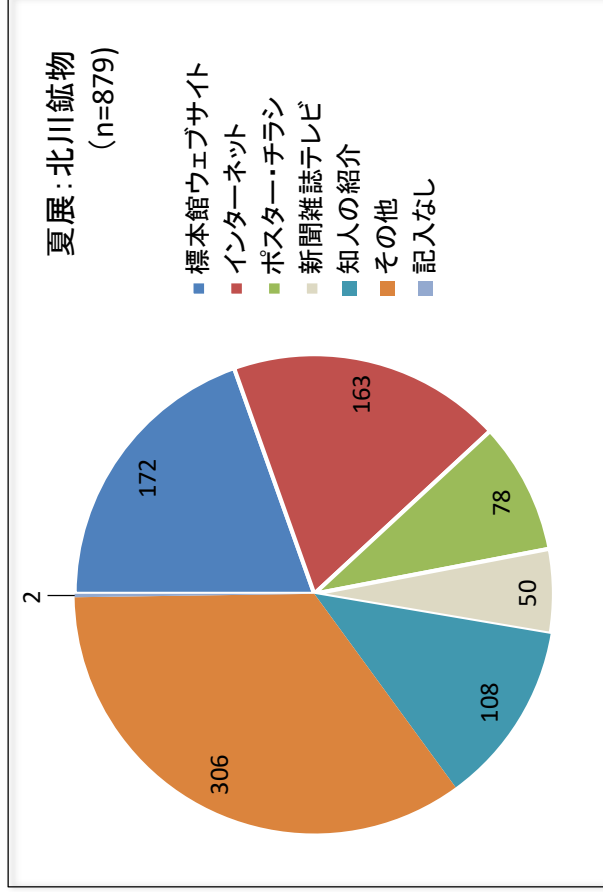
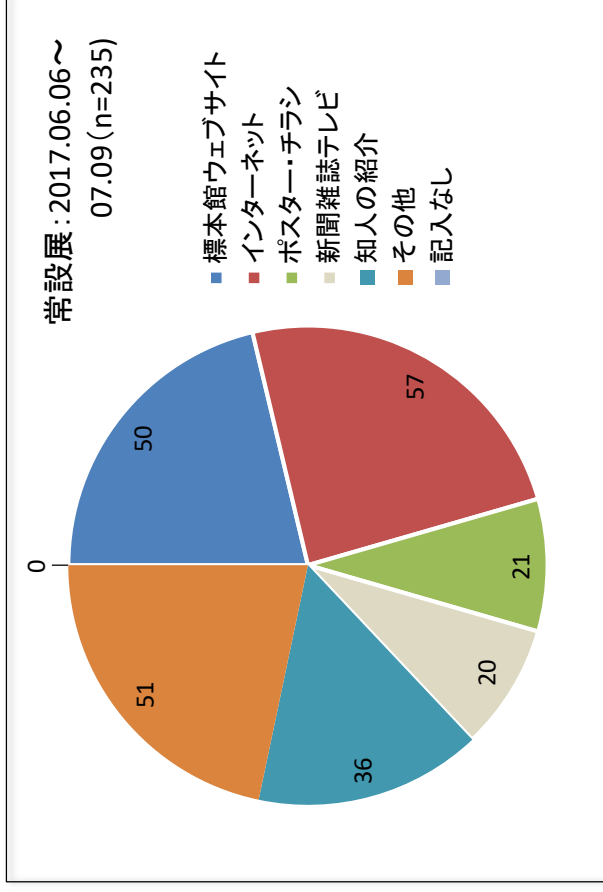
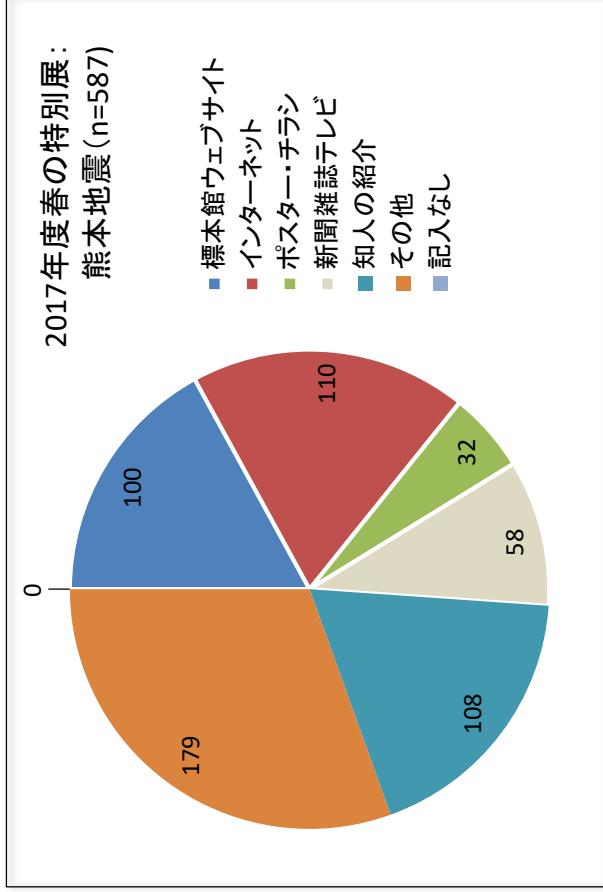
第29図 満足度(館全般)(期間ごと)



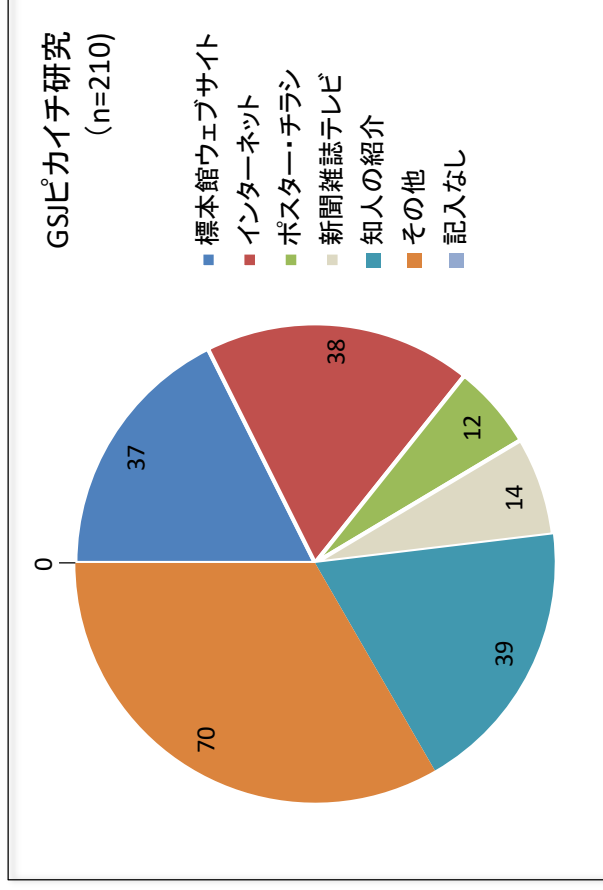
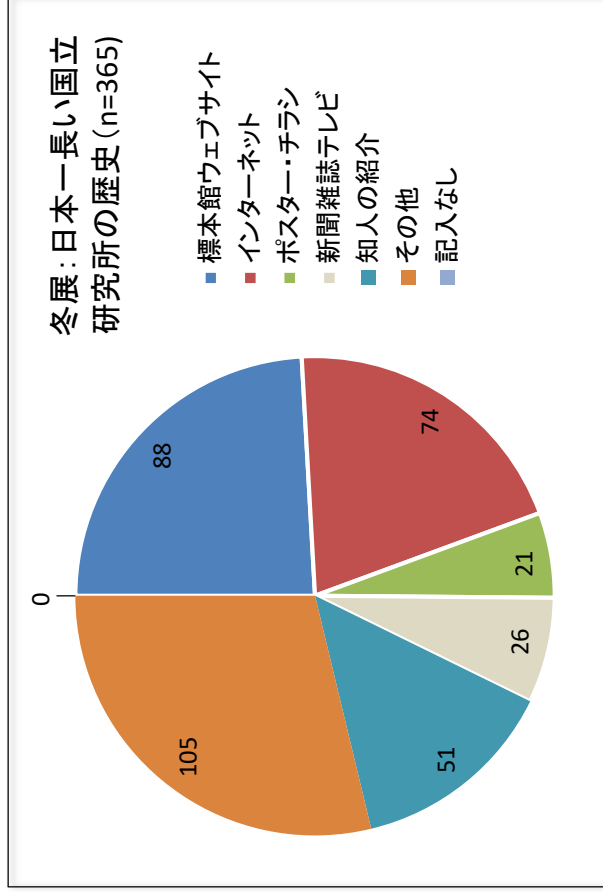
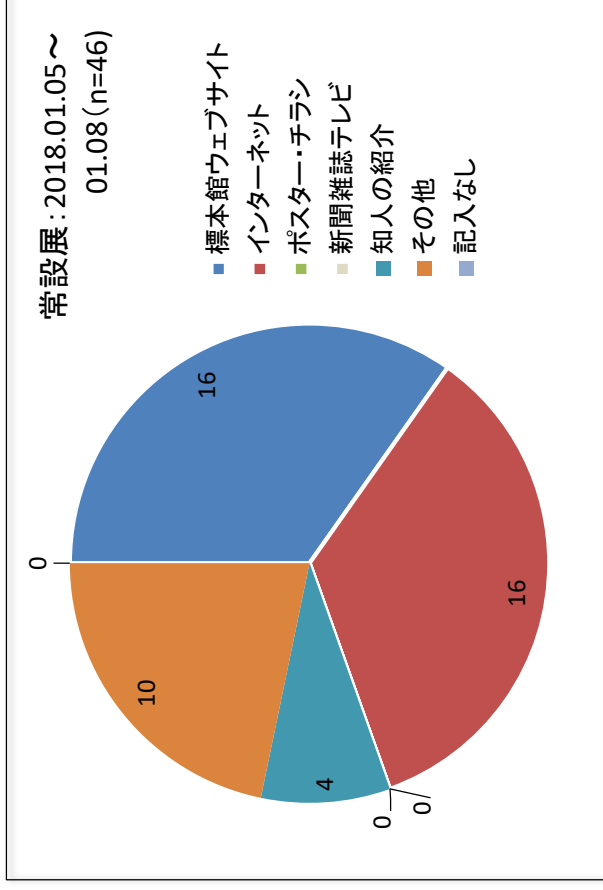
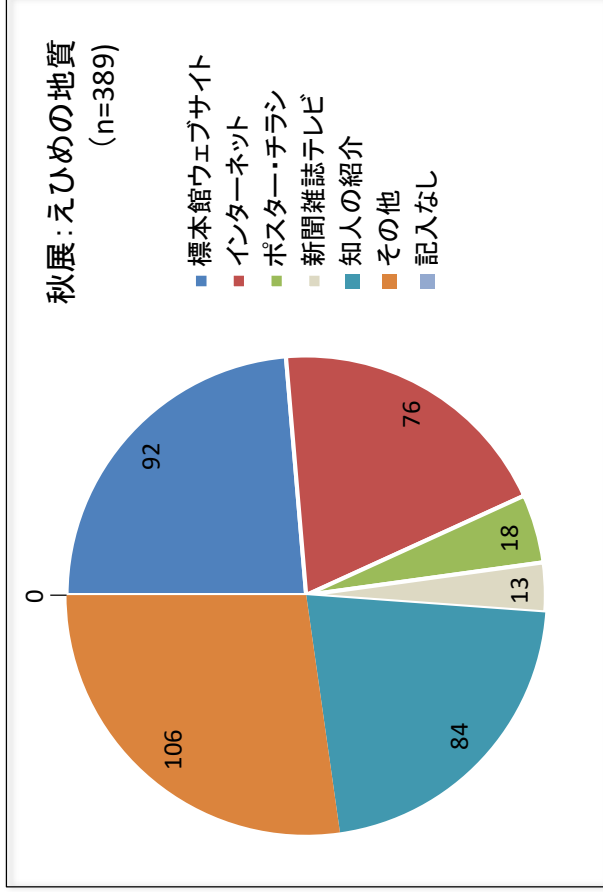
第30図 満足度(次回への期待)(期間ごと)



第31図 満足度(次回への期待)(期間ごと)



第32図 来館のきっかけ(期間ごと)



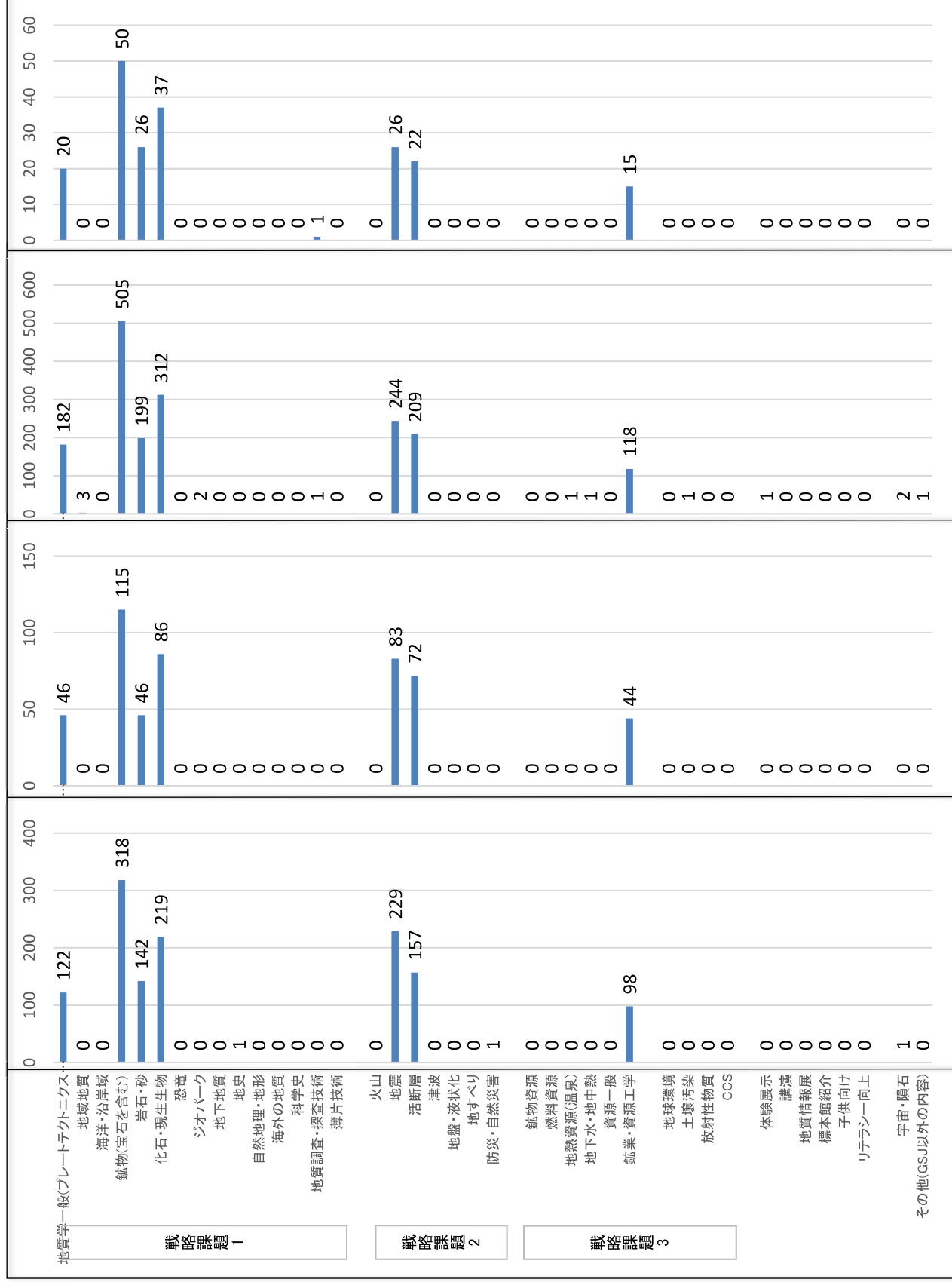
第33図 来館のきっかけ(期間ごと)

2017年度春の特別展:
熊本地震(n=1288)

常設展2017.06.06~
07.09(n=492)

夏展:北川鉱物
(n=1782)

常設展:2017.10.03~
10.15(n=197)



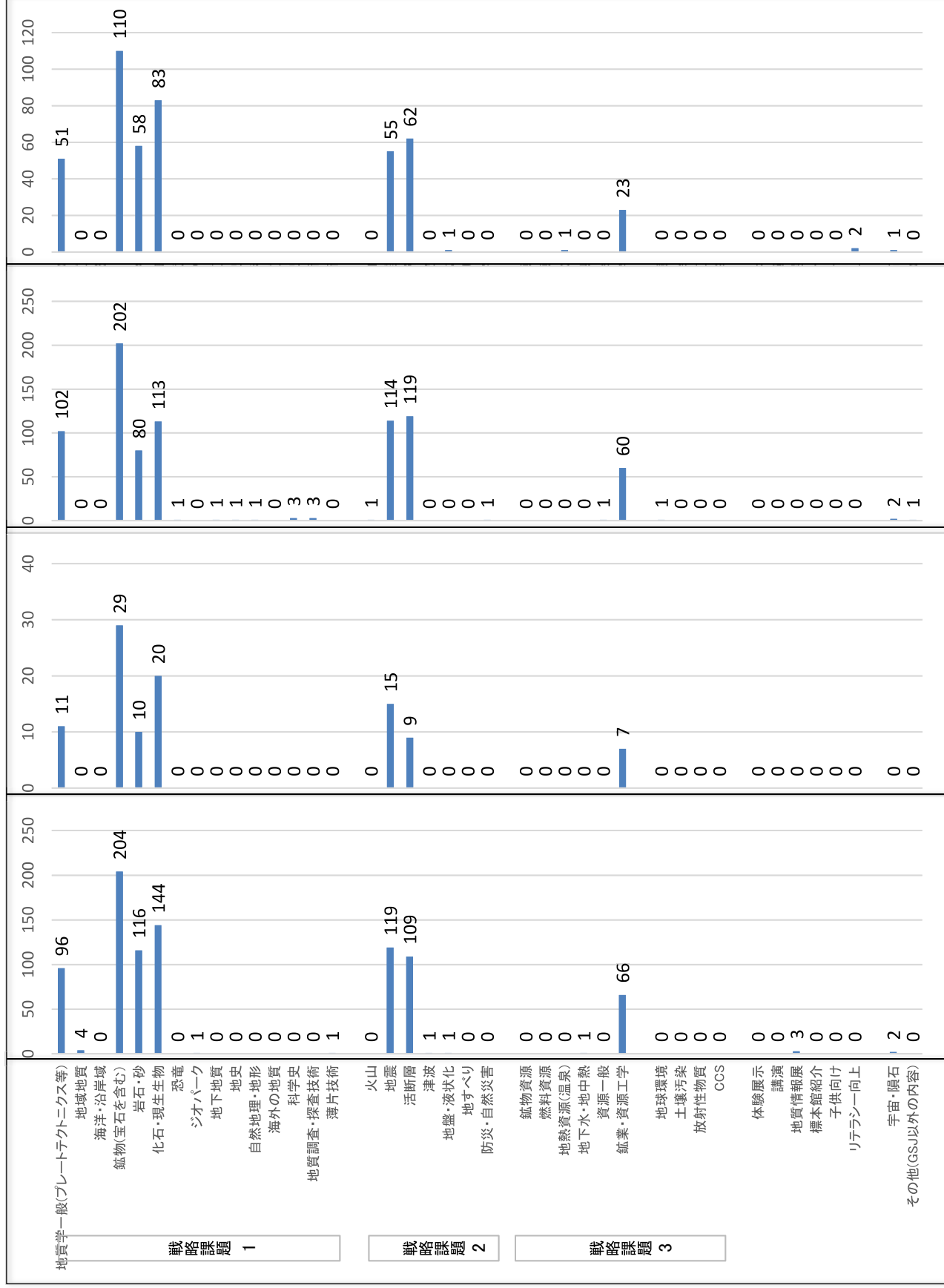
第34図 興味を持ったテーマ(期間ごと)

秋展：えひめの地質
(n=868)

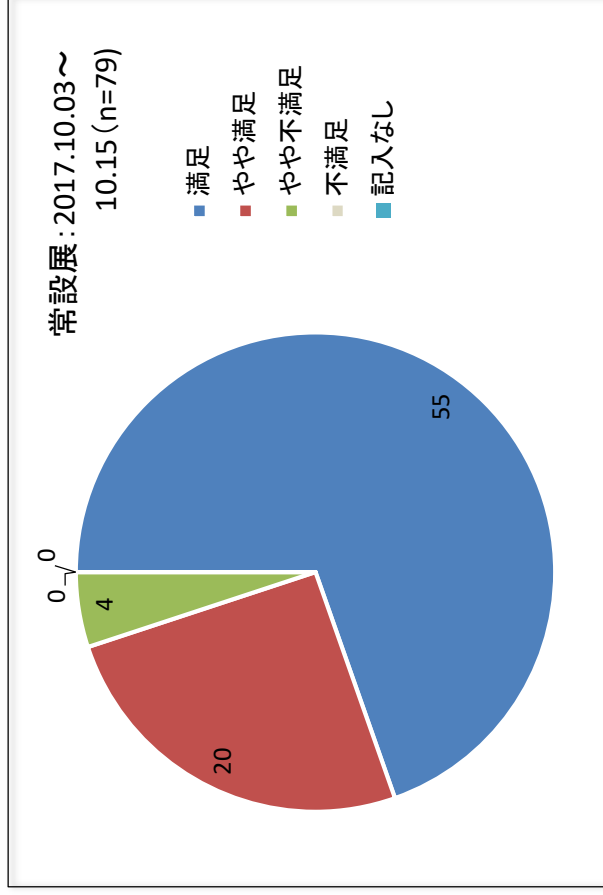
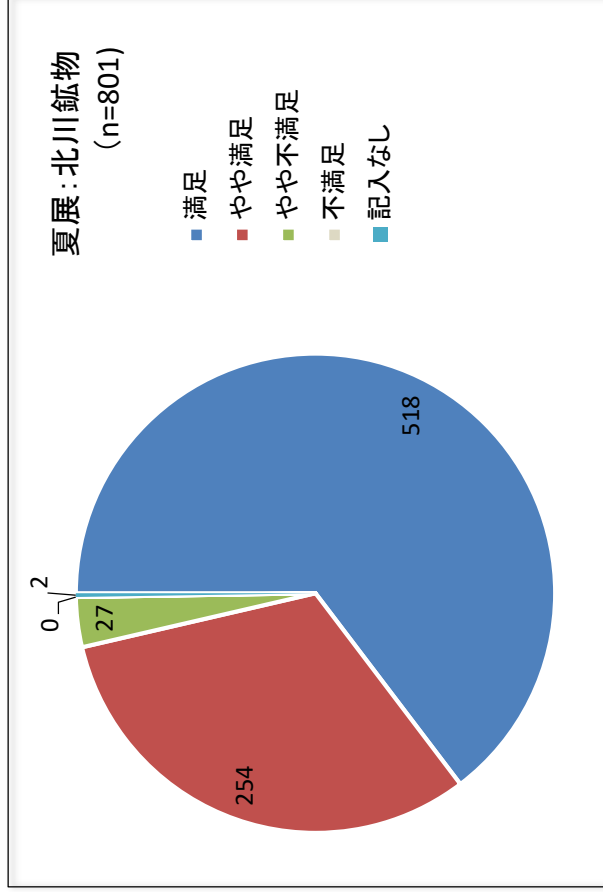
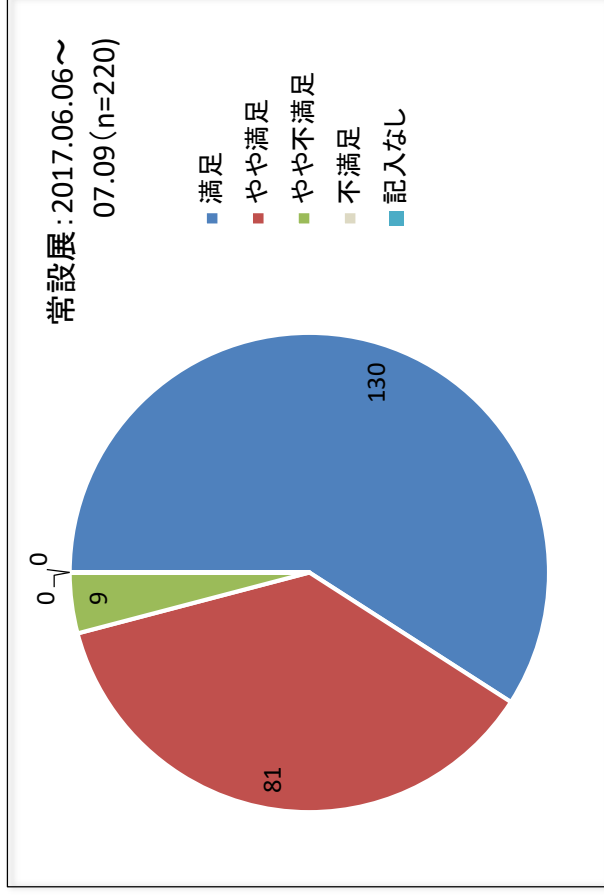
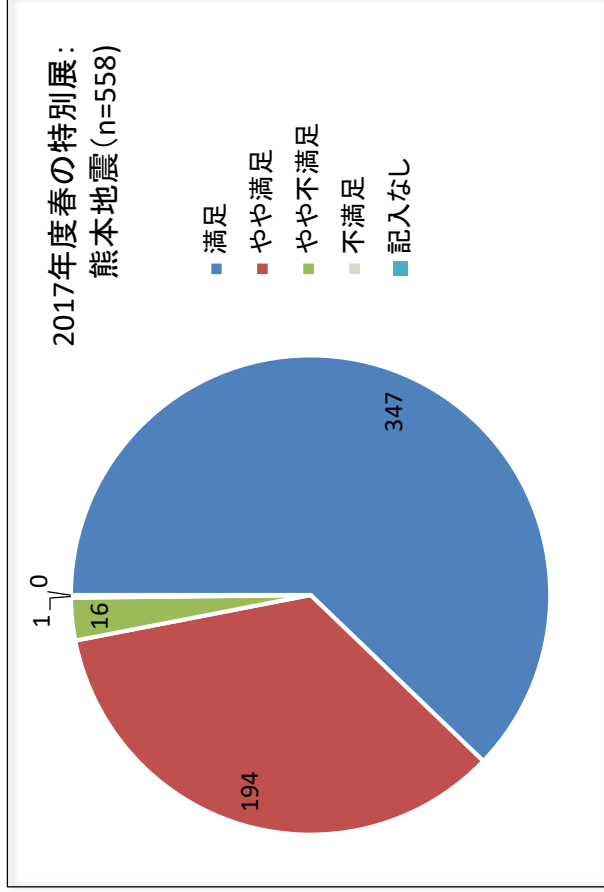
常設展：2018年0105～
0108 (n=101)

冬展：日本一長い国立
研究所の歴史 (n=807)

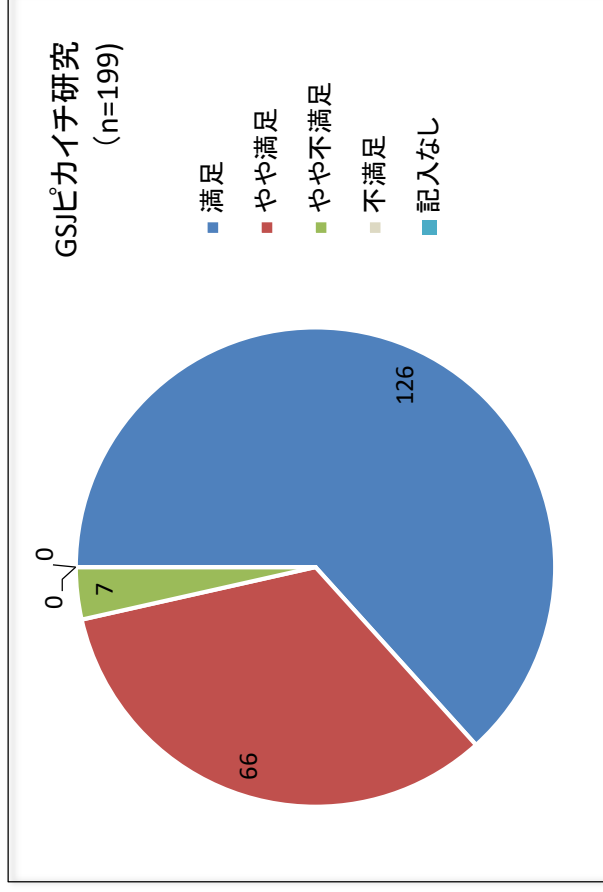
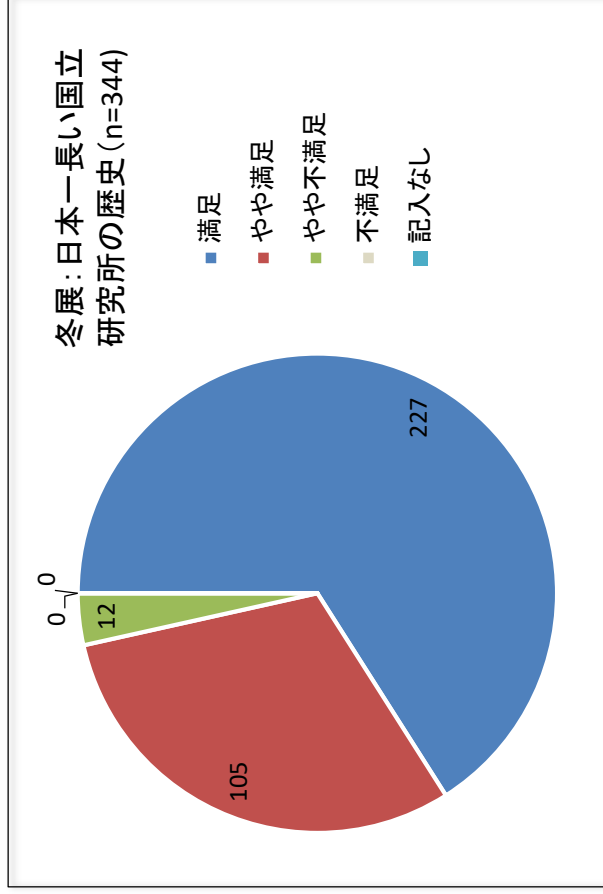
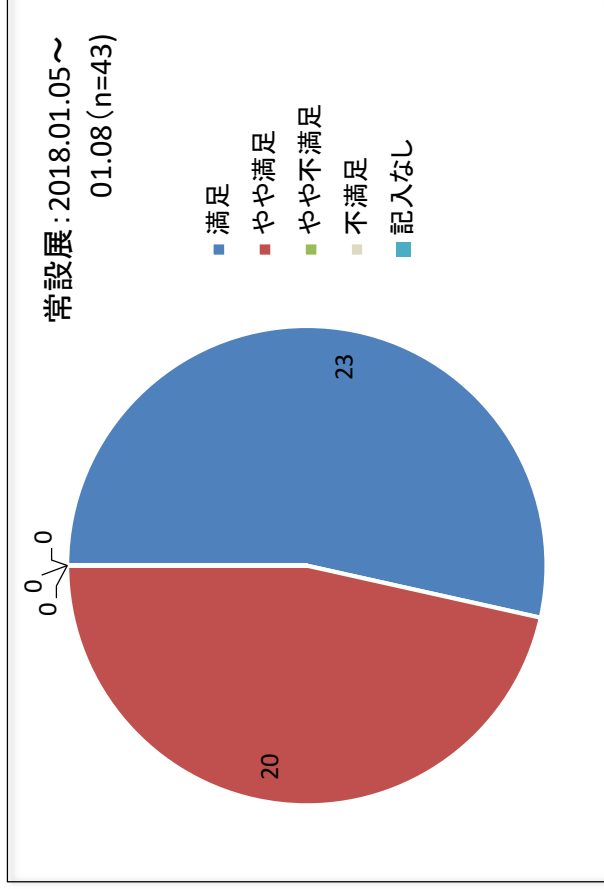
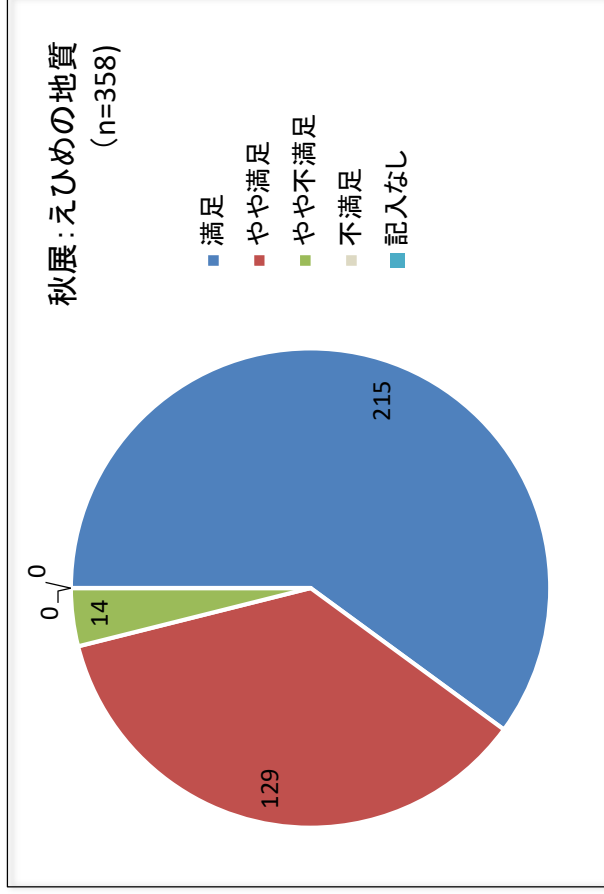
GSJピカイチ研究
(n=447)



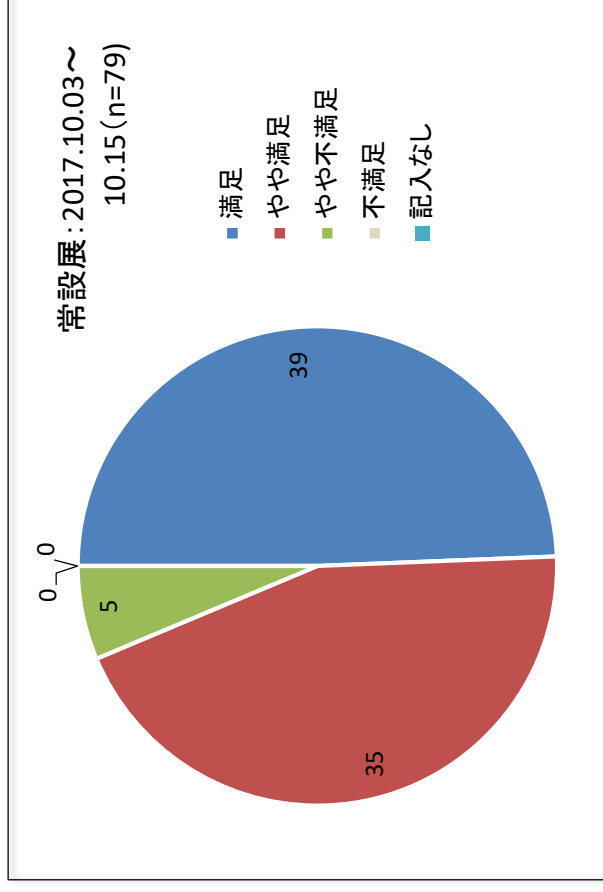
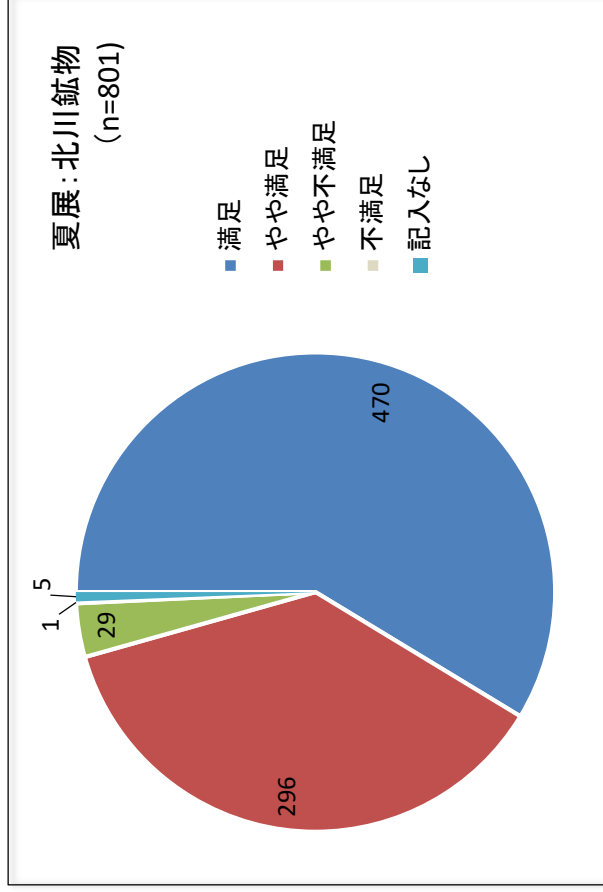
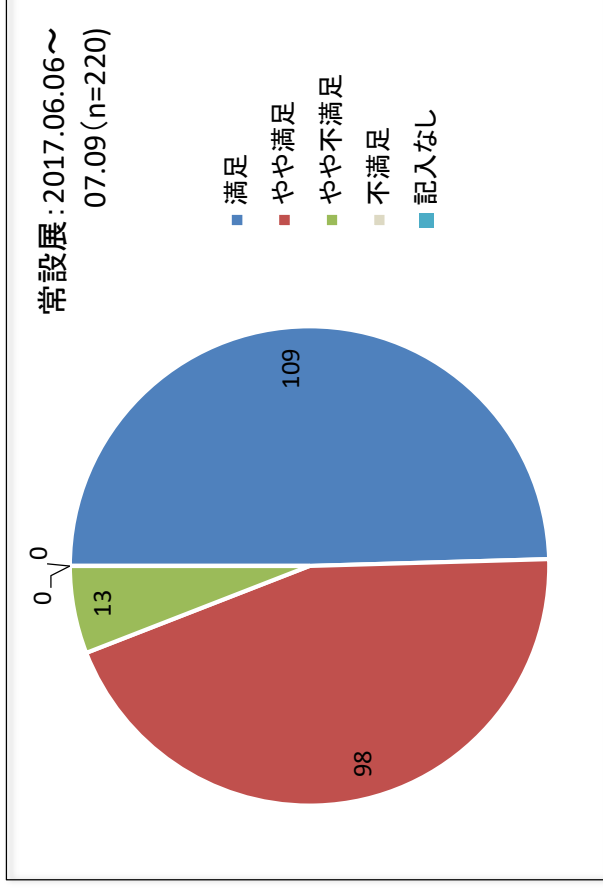
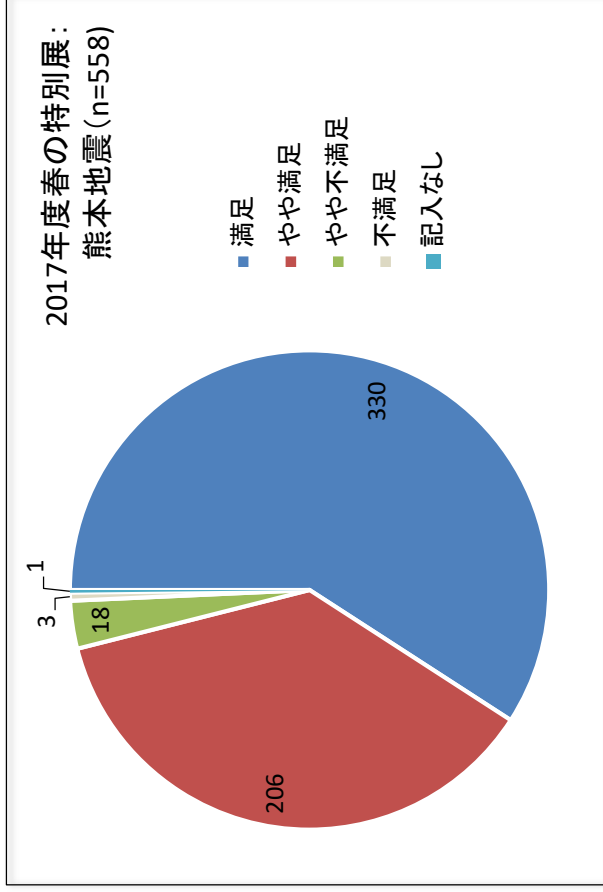
第35図 興味を持ったテーマ(期間ごと)



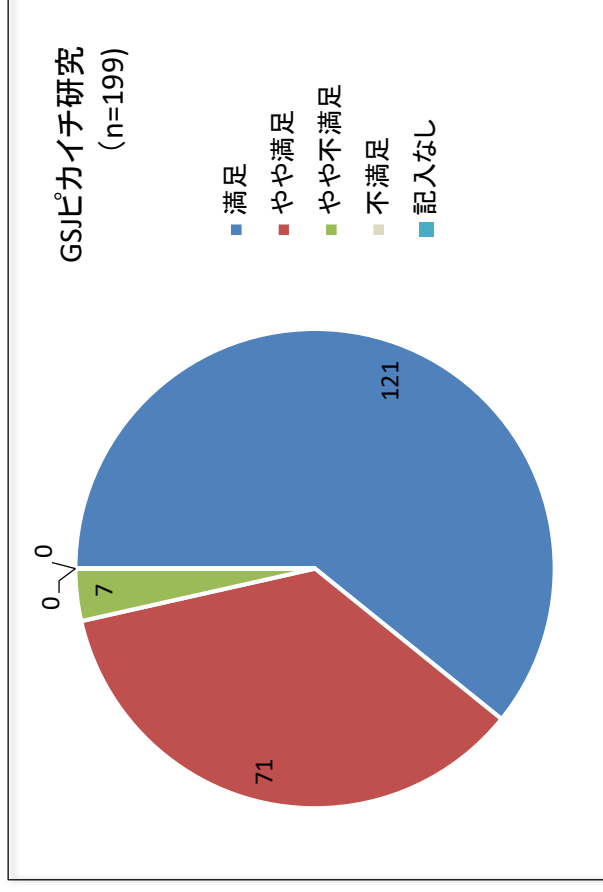
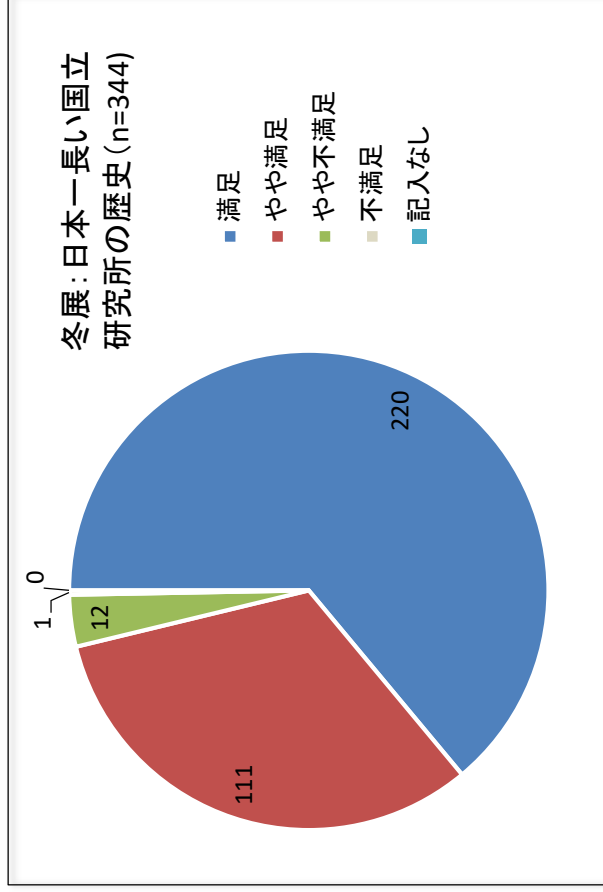
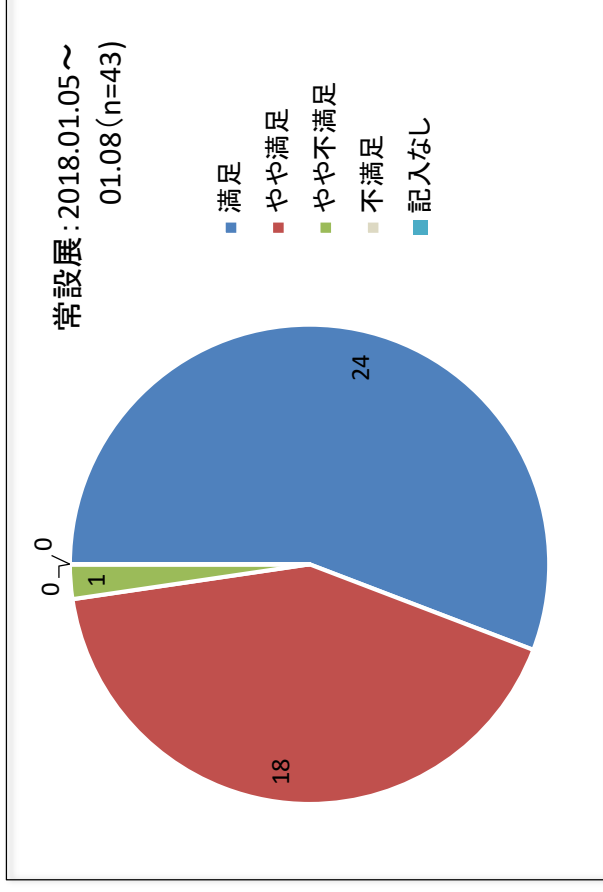
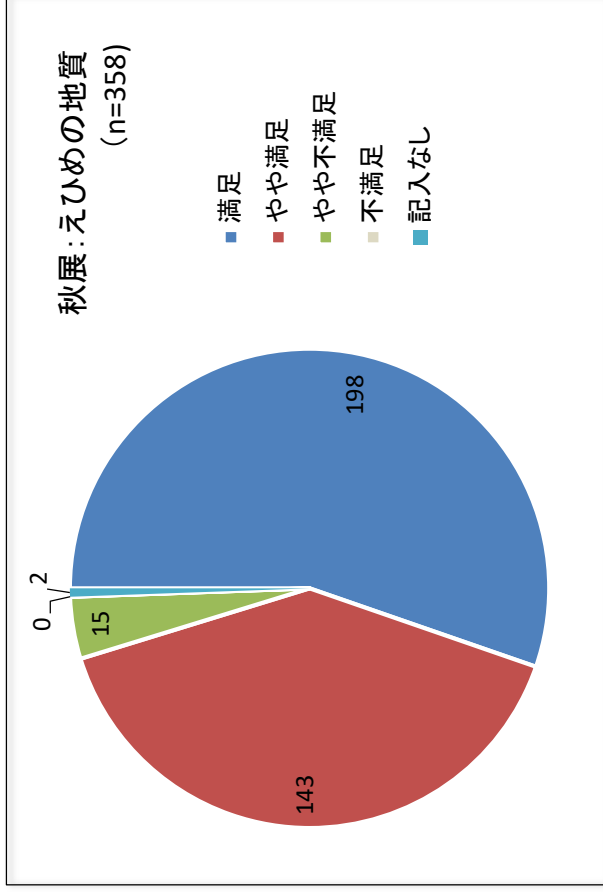
第36図 展示物について(展示の仕方)(期間ごと)



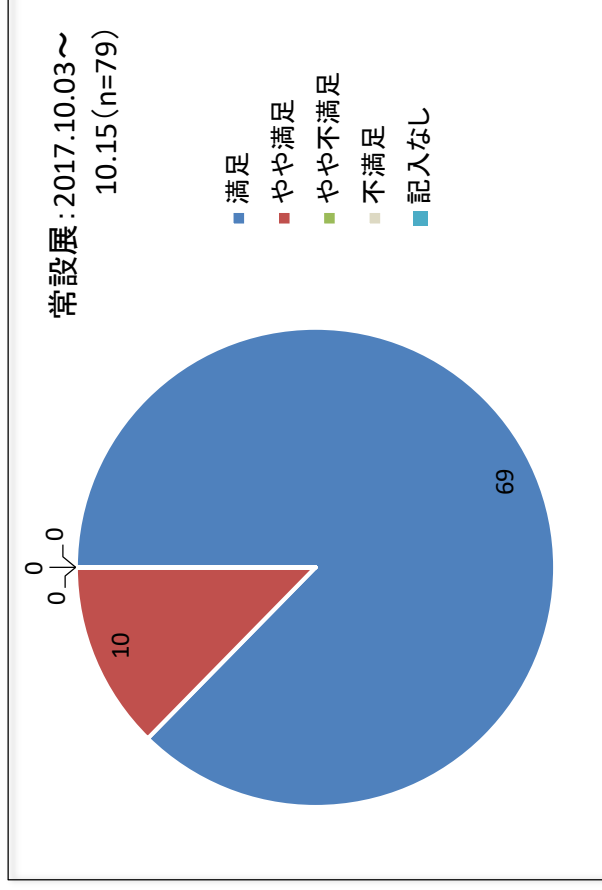
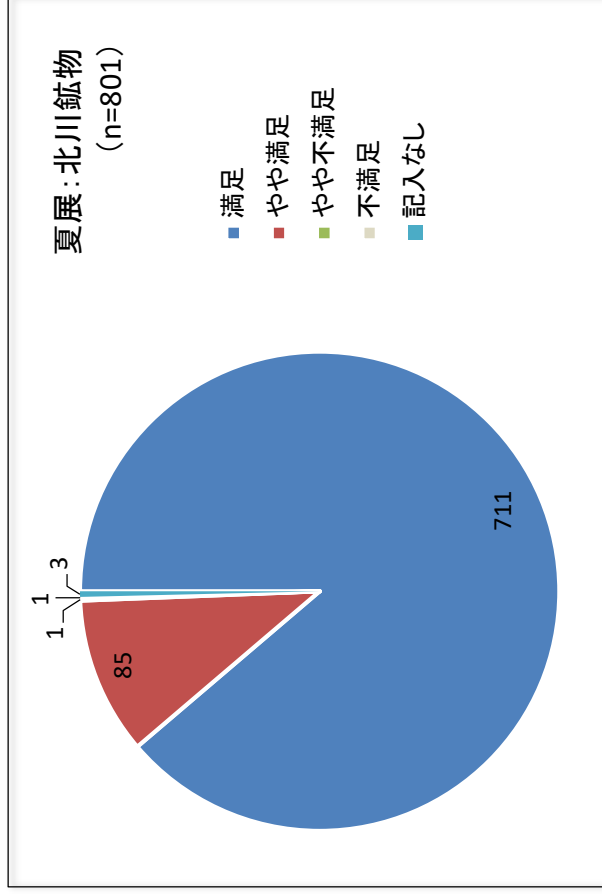
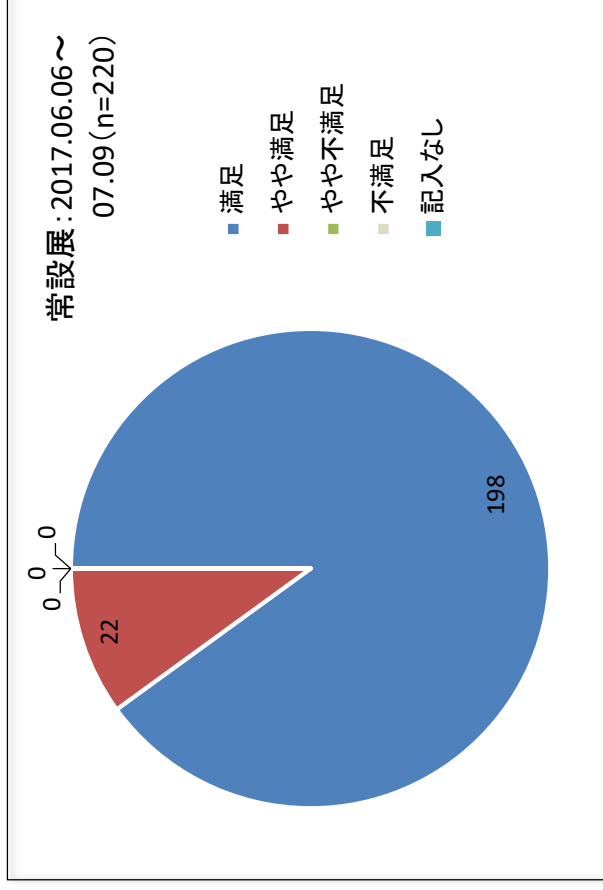
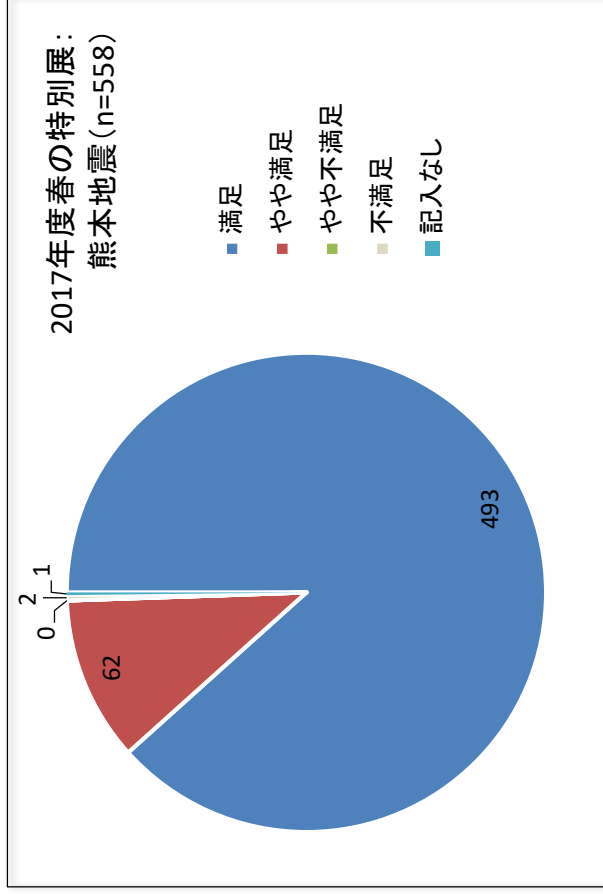
第37図 展示物について(展示の仕方)(期間ごと)



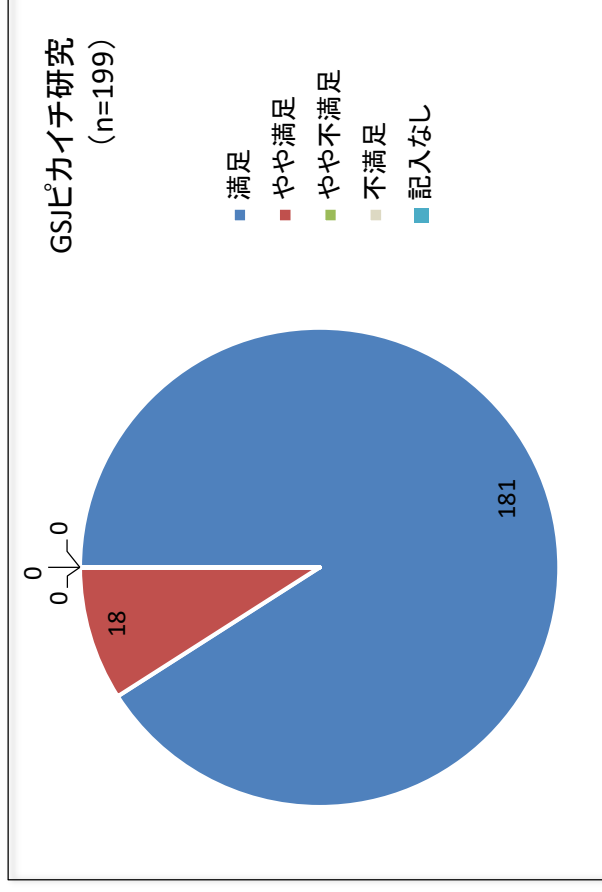
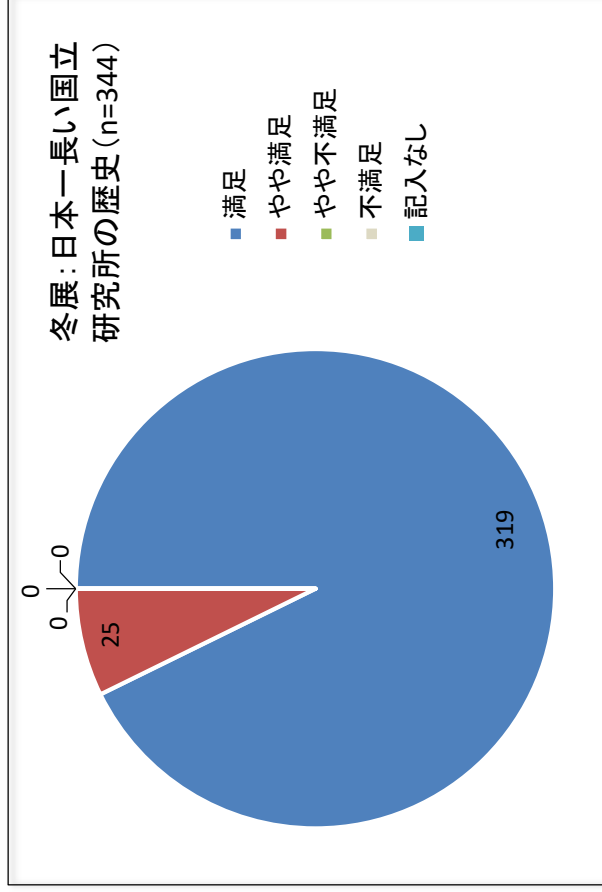
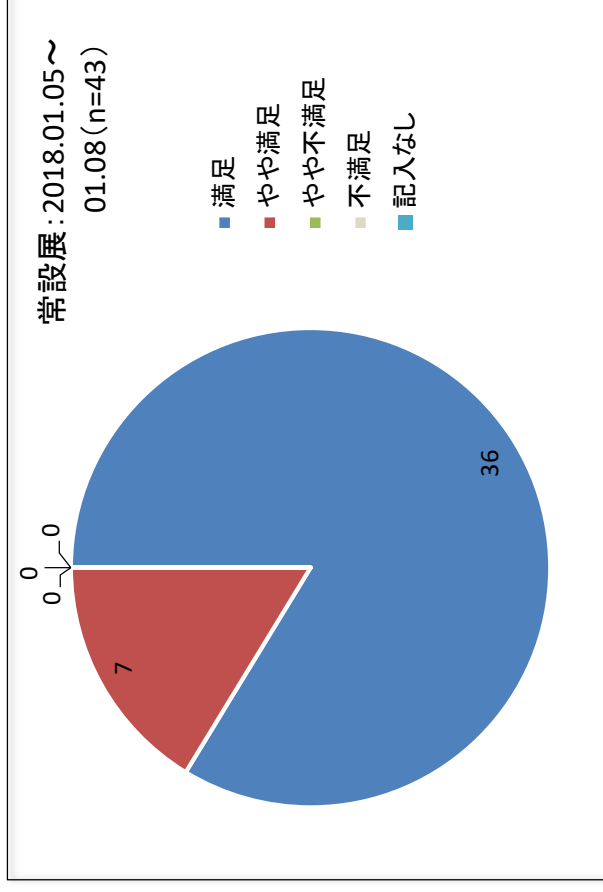
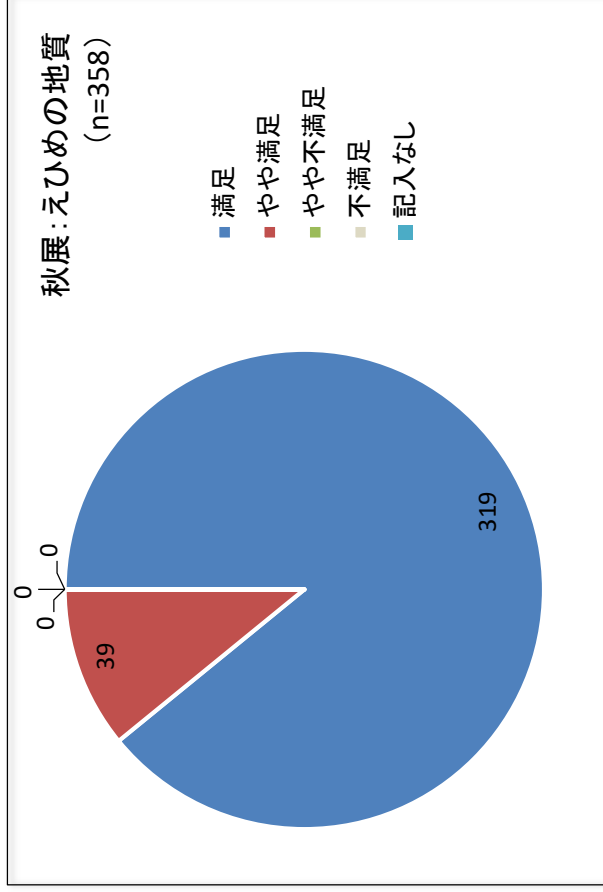
第38図 展示物について(機器の使い勝手)(期間ごと)



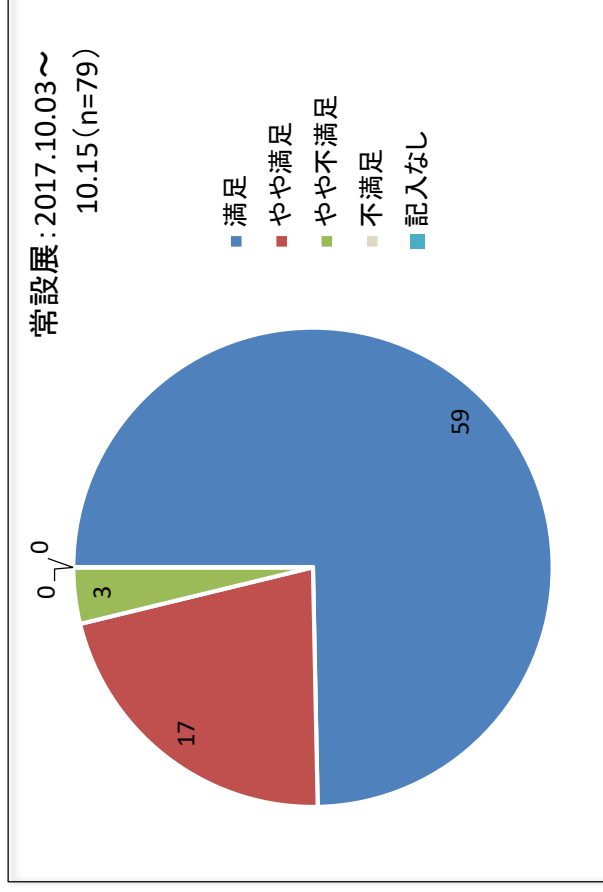
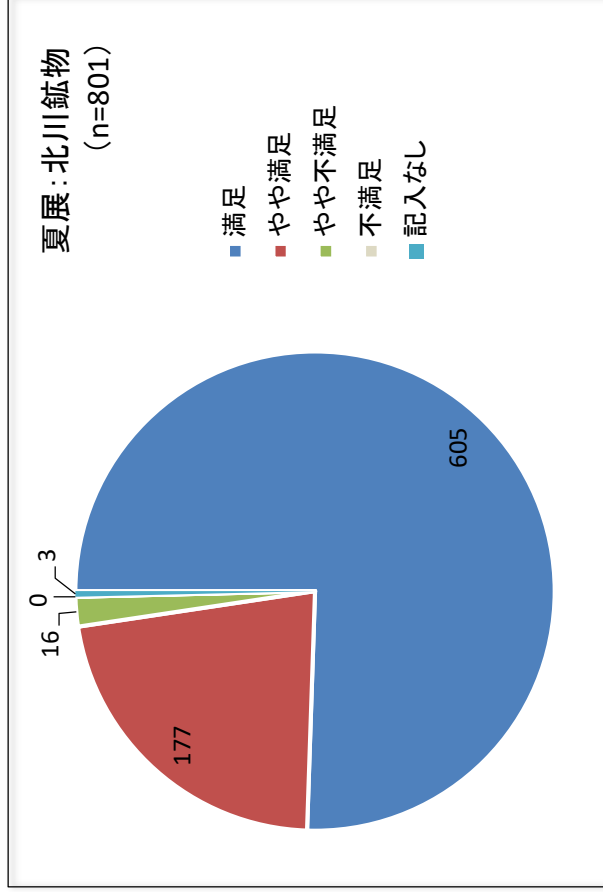
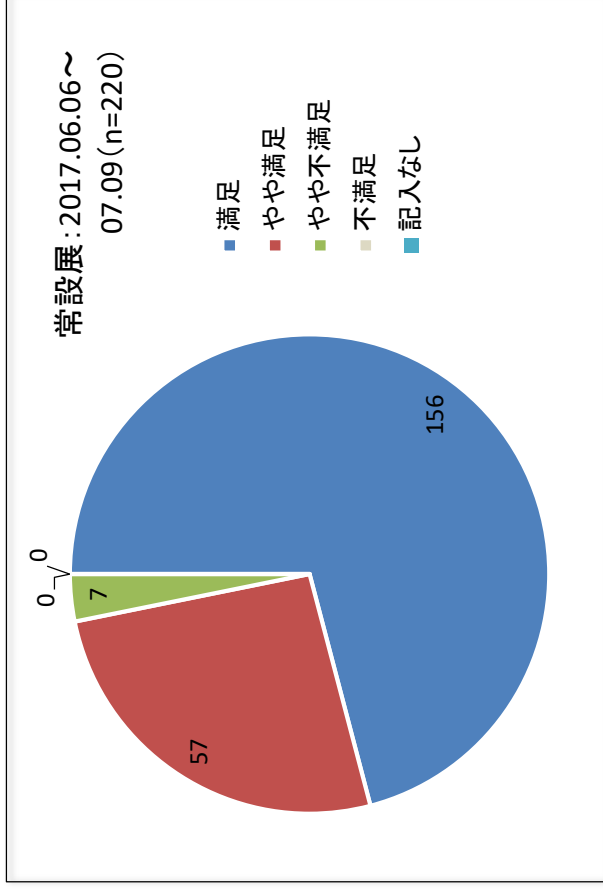
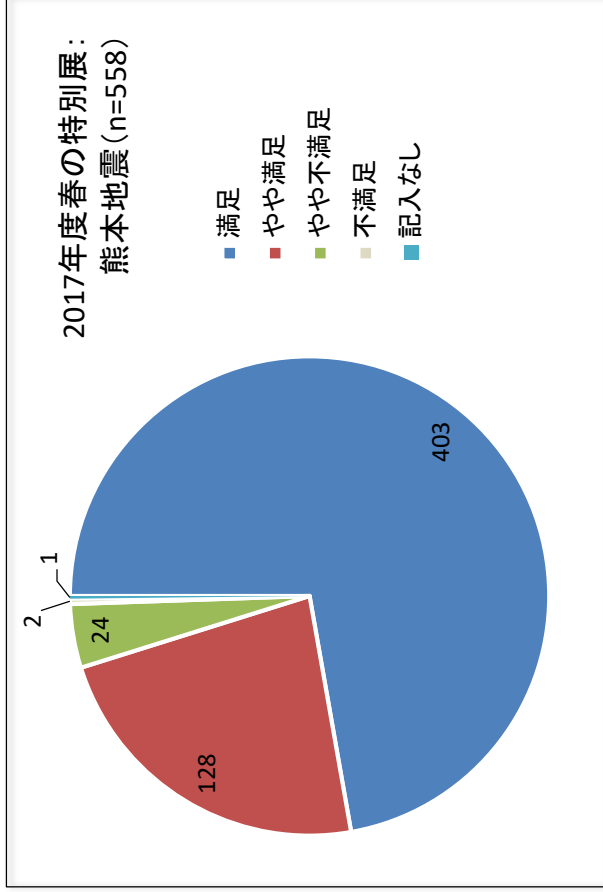
第39図 展示物について(機器の使い勝手)(期間ごと)



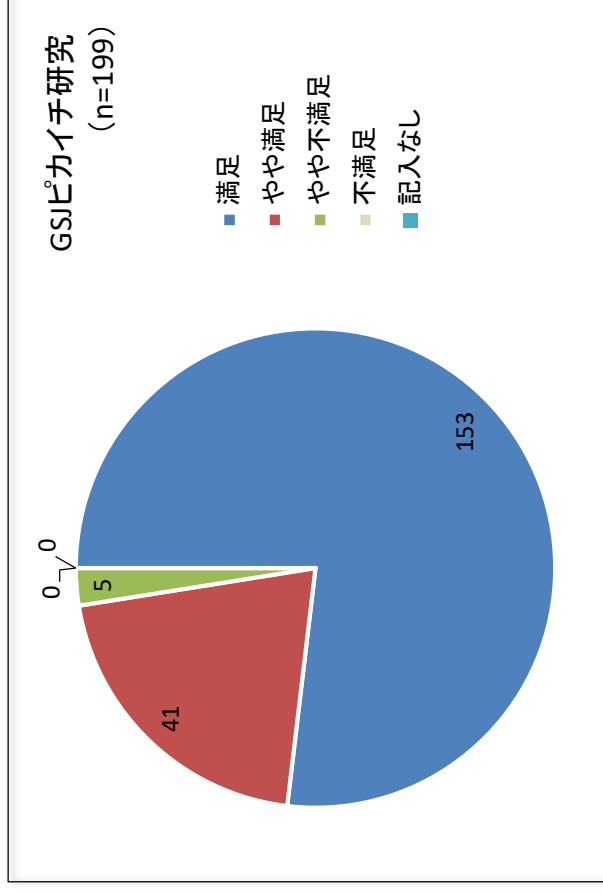
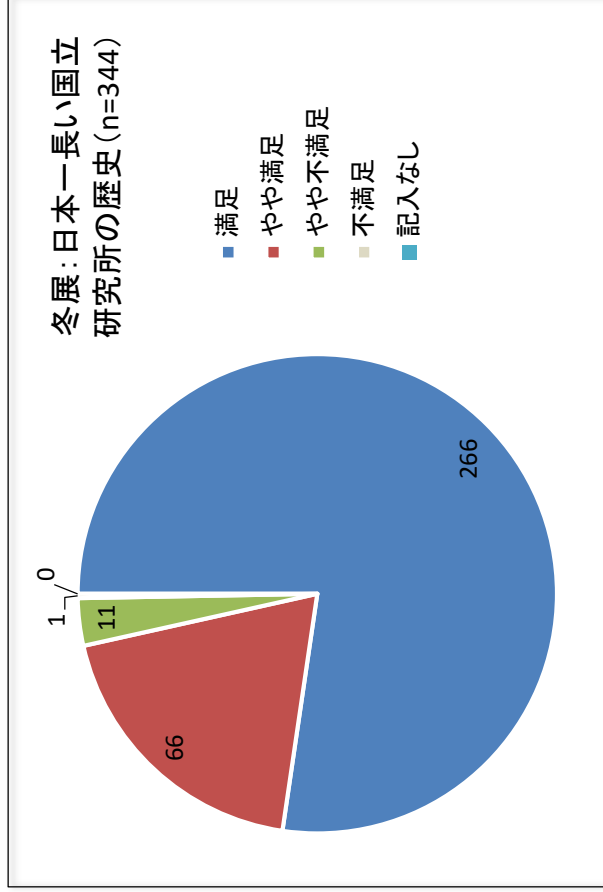
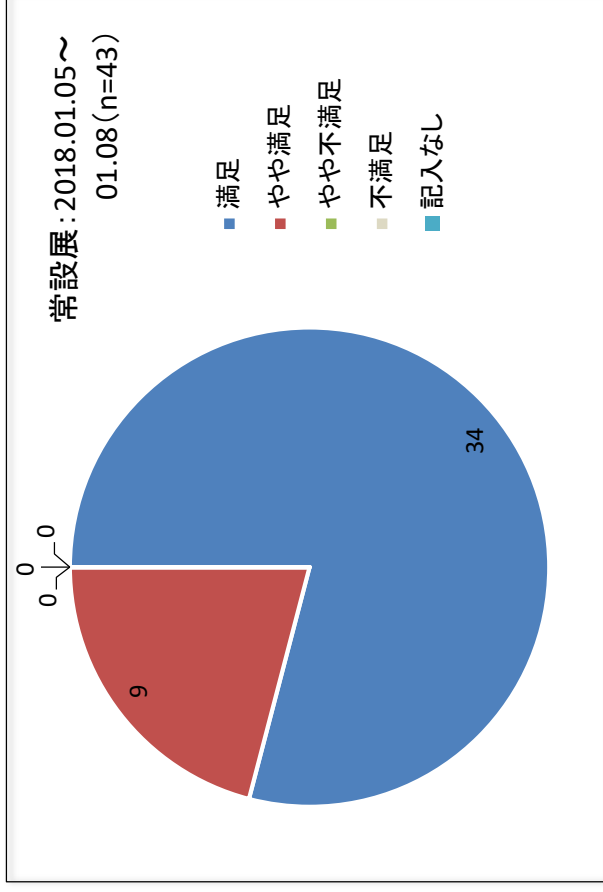
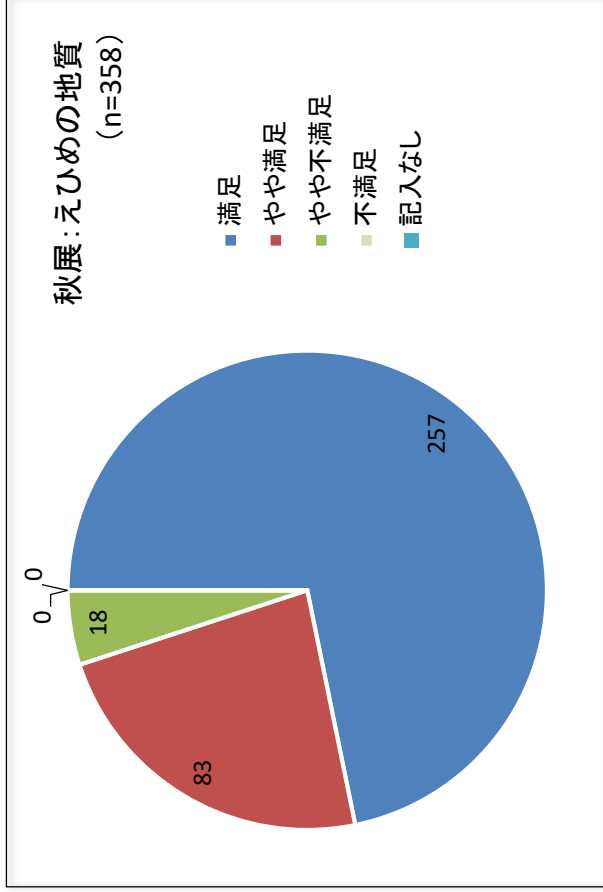
第40図 建物やサービスについて(受付の対応)(期間ごと)



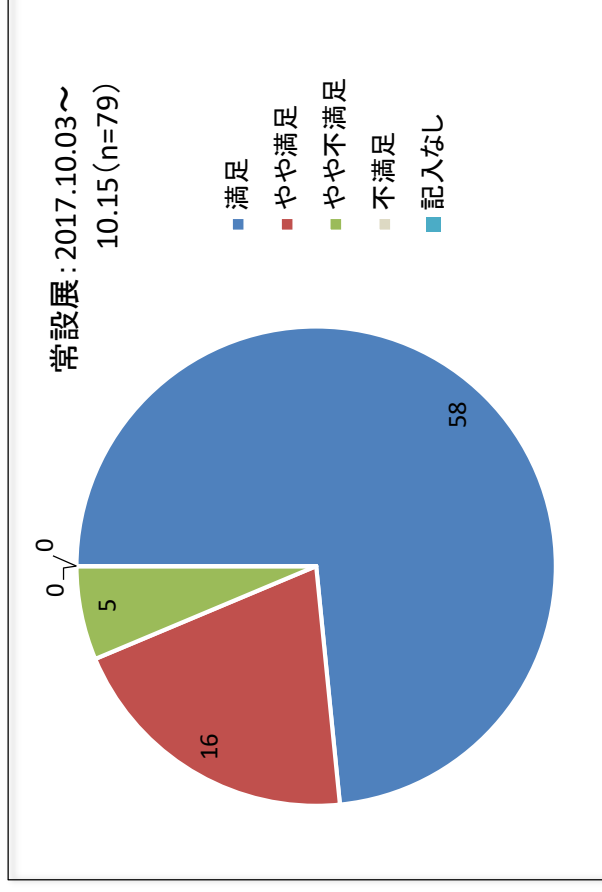
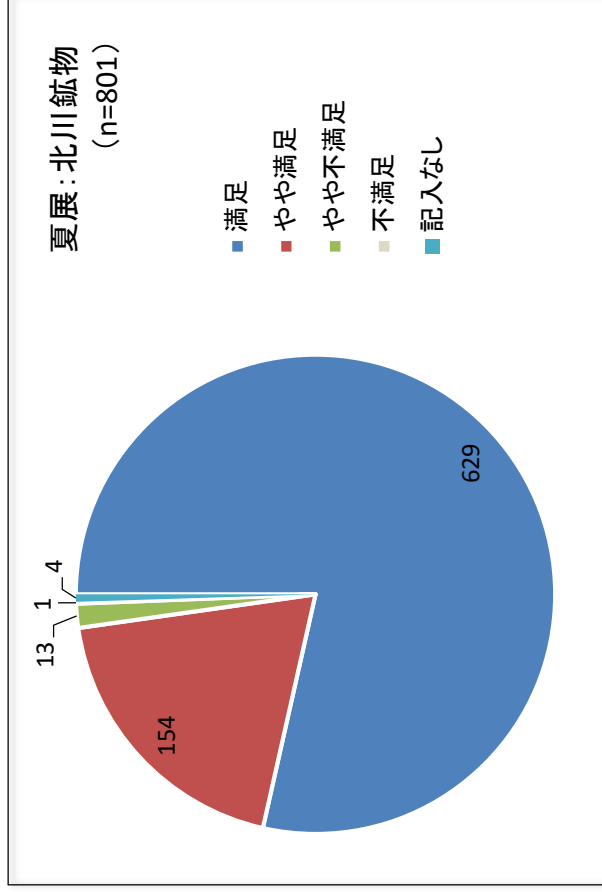
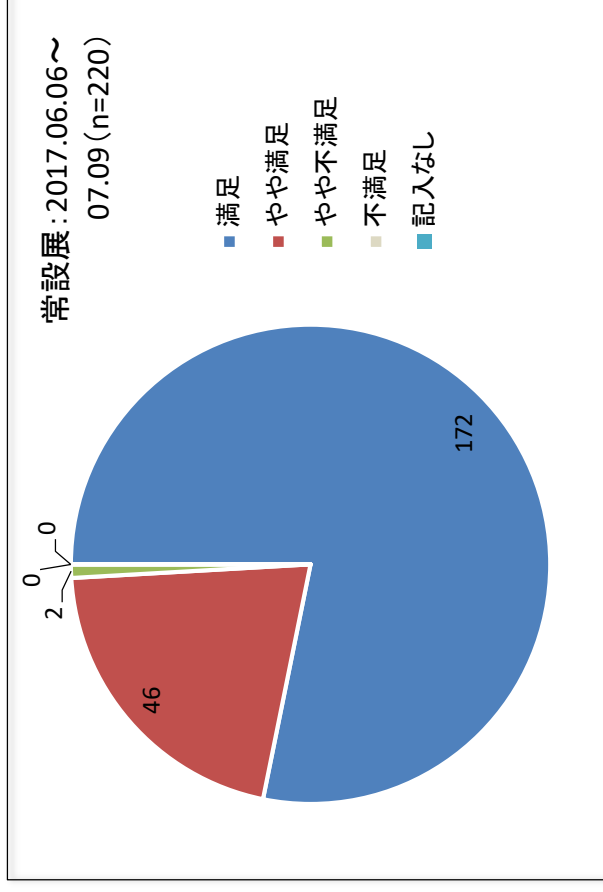
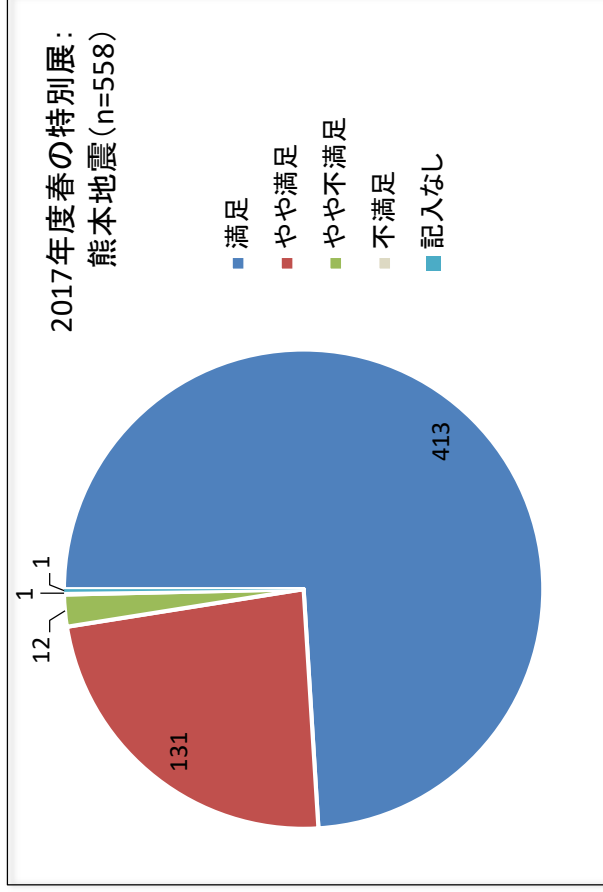
第41図 建物やサービスについて(受付の対応)(期間ごと)



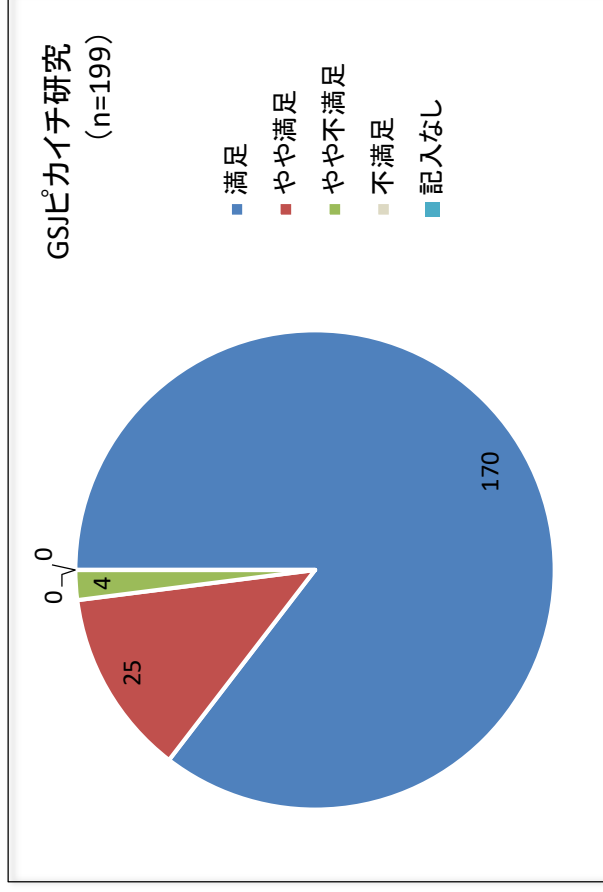
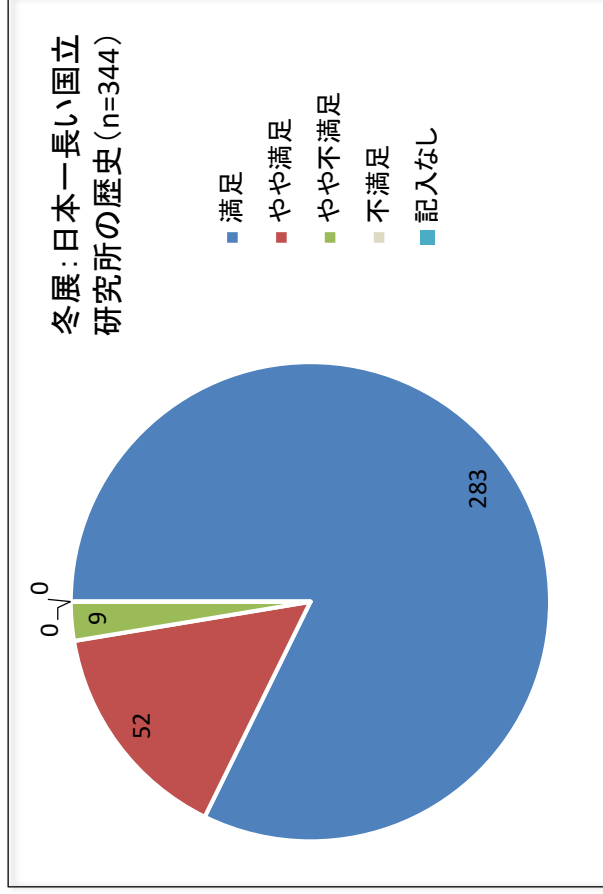
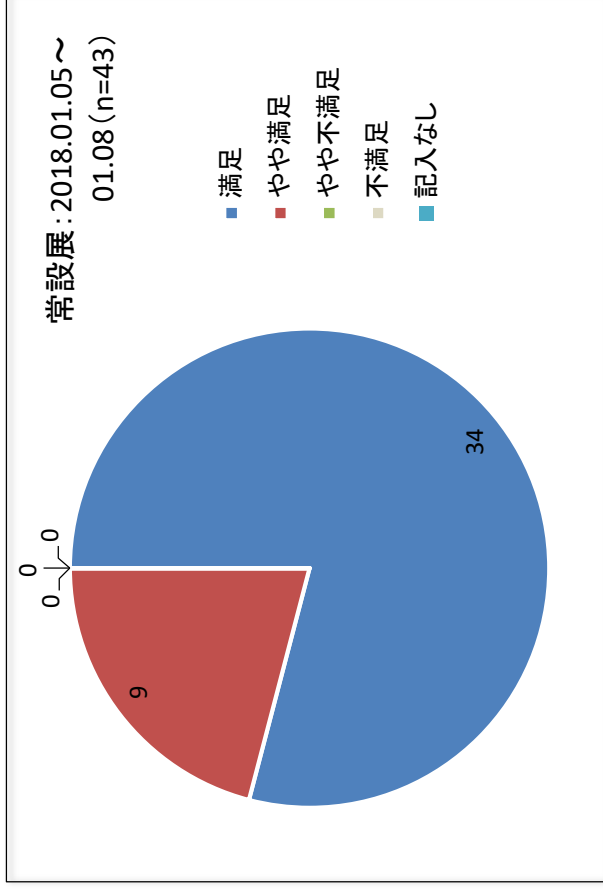
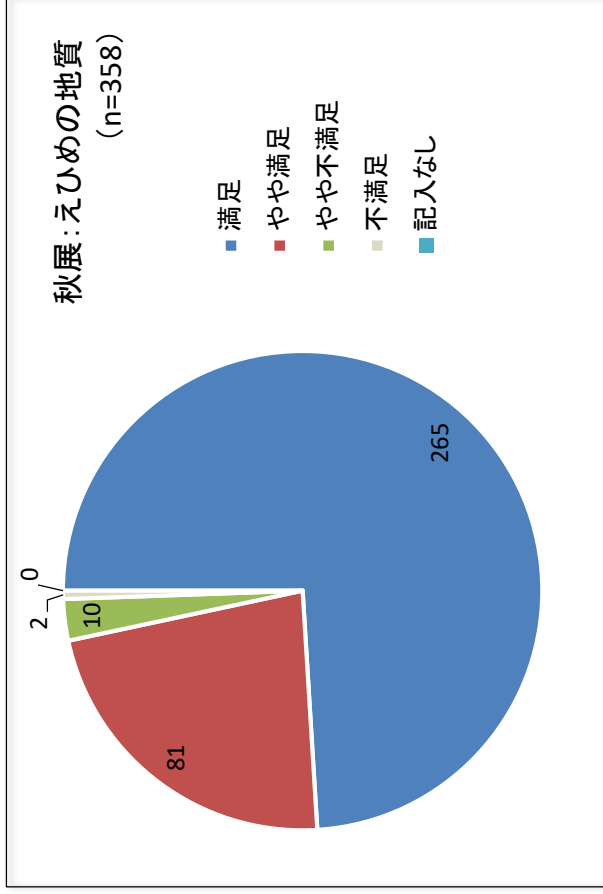
第42図 建物やサービスについて(案内表示)(期間ごと)



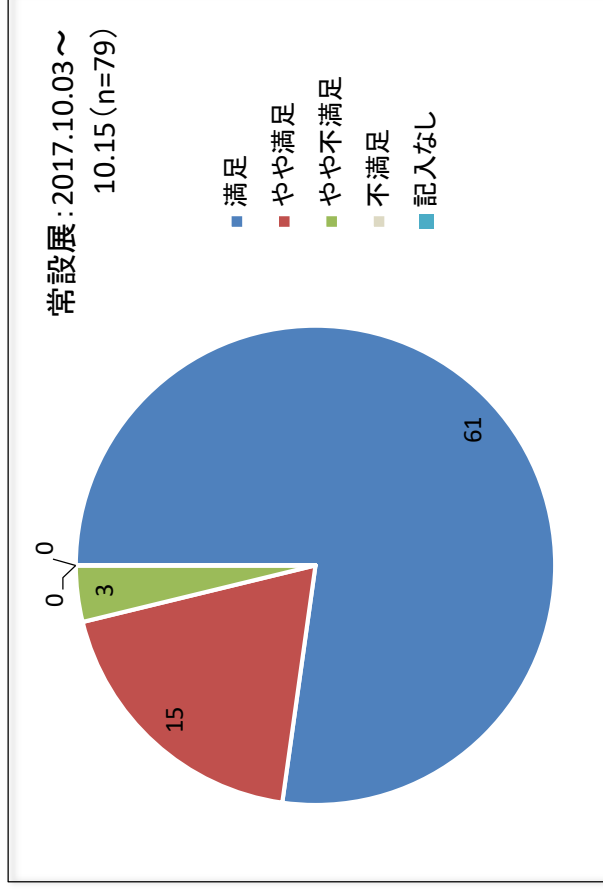
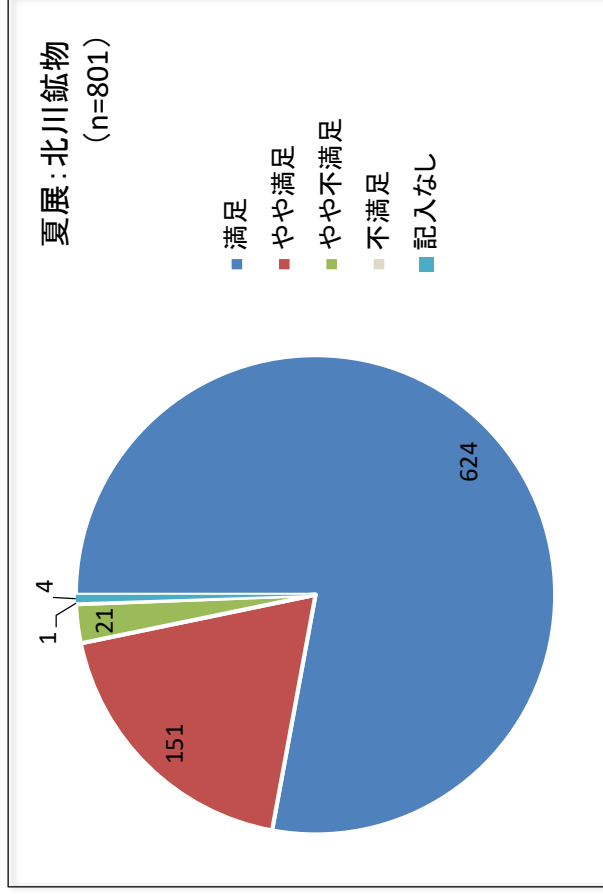
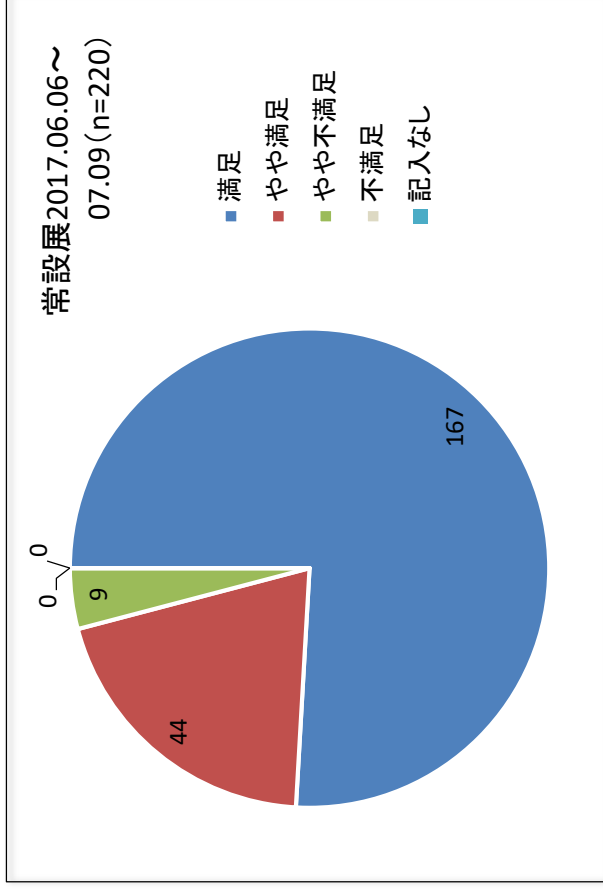
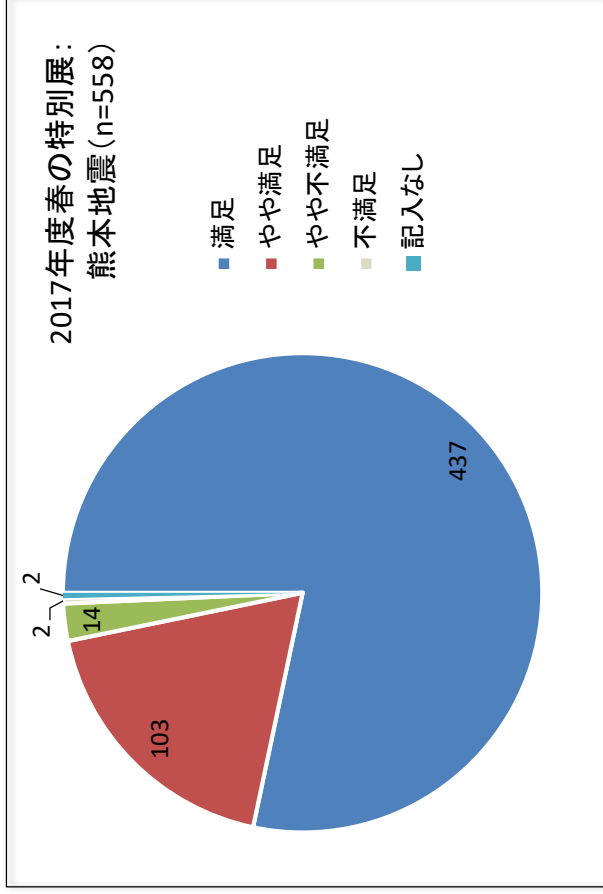
第43図 建物やサービスについて(案内表示)(期間ごと)



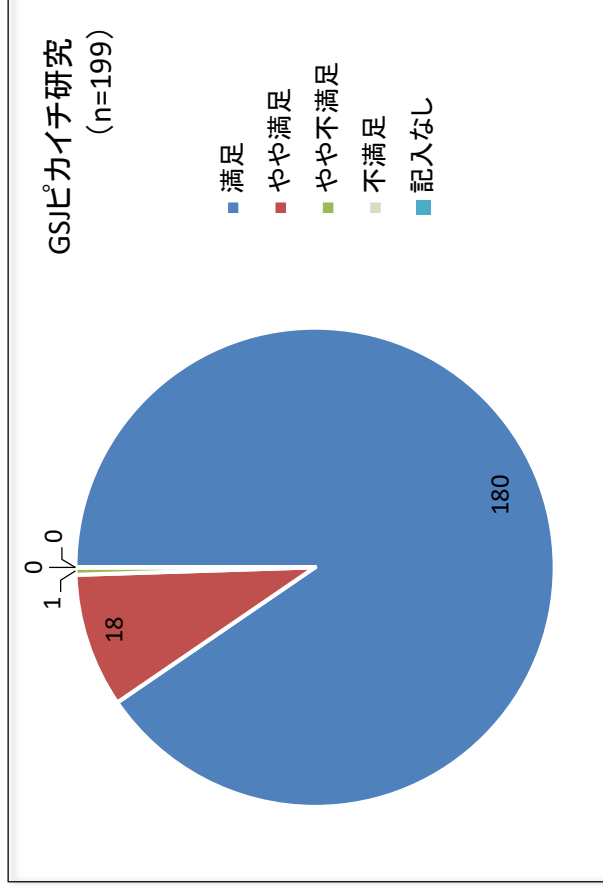
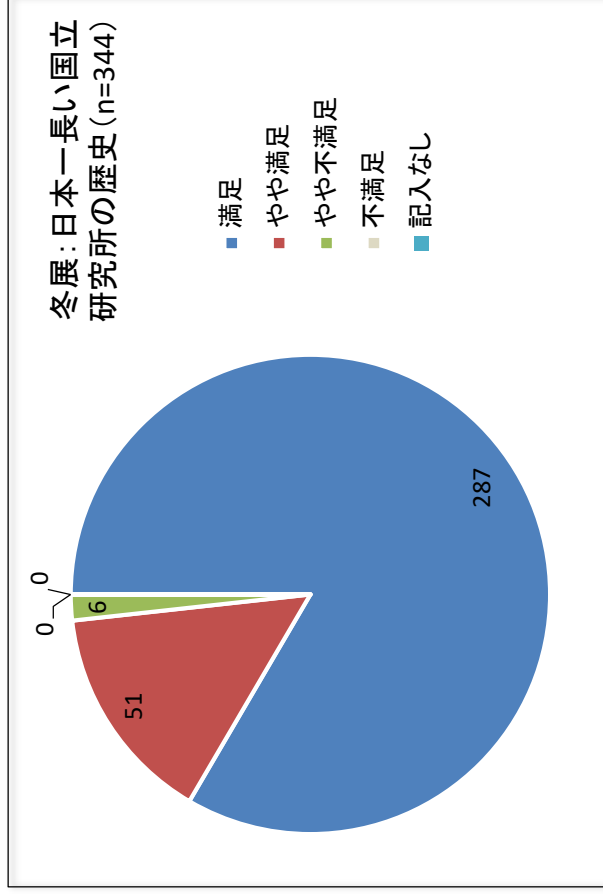
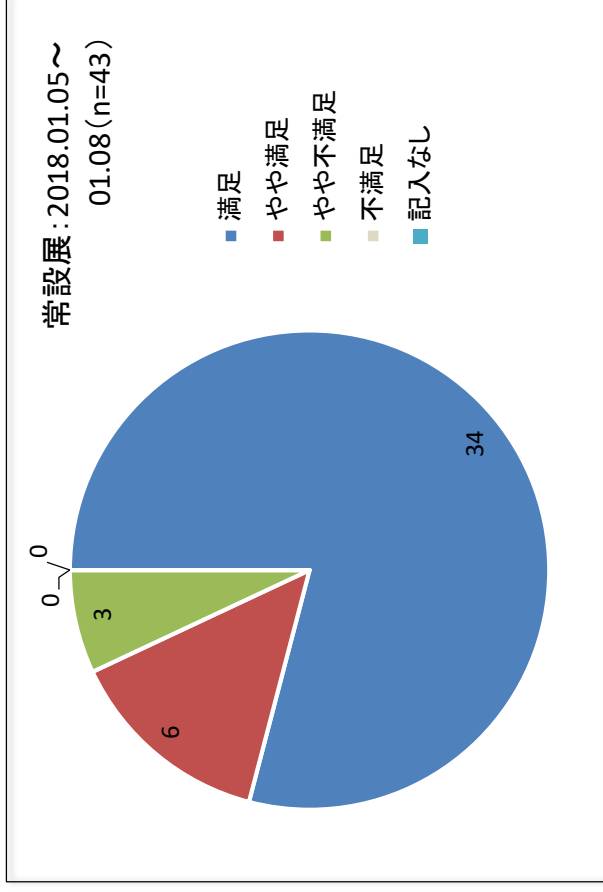
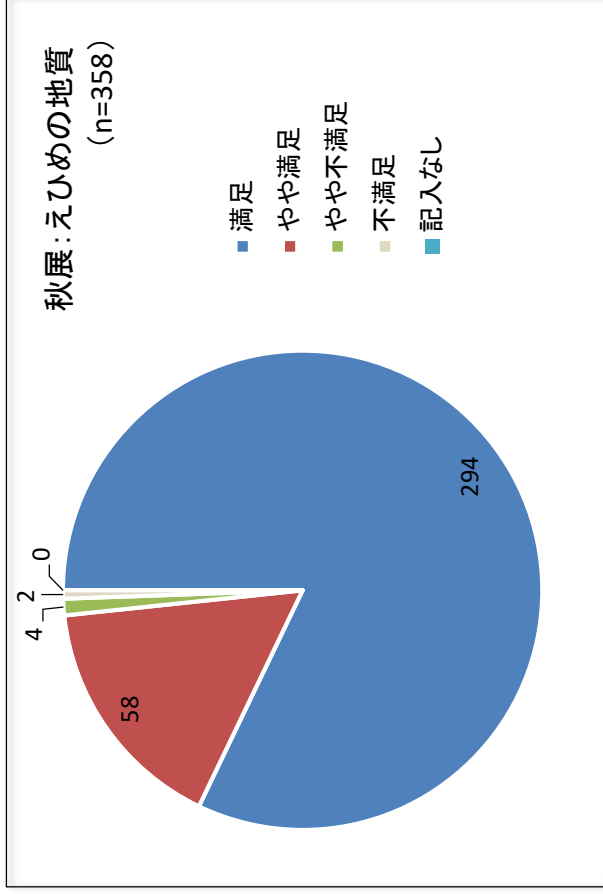
第44図 建物やサービスについて(館内の明るさ)(期間ごと)



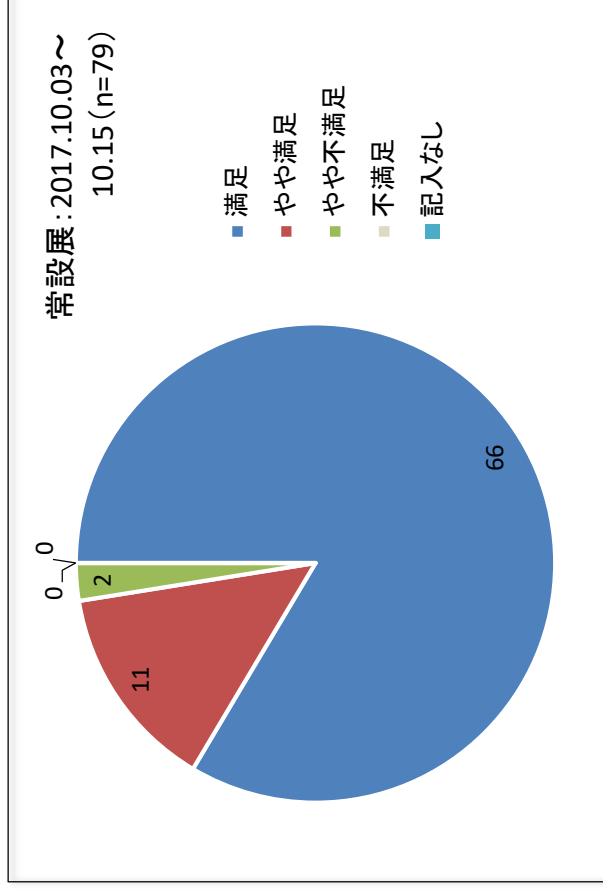
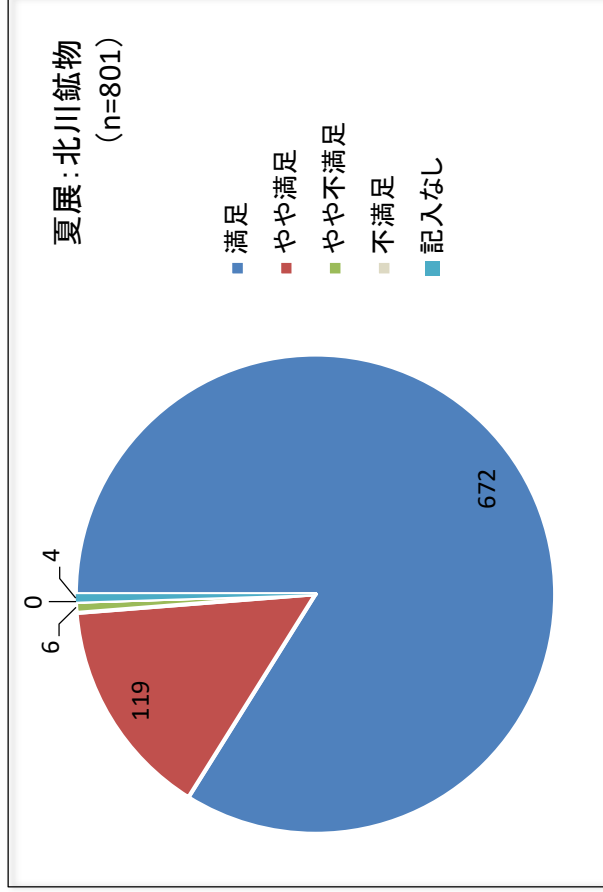
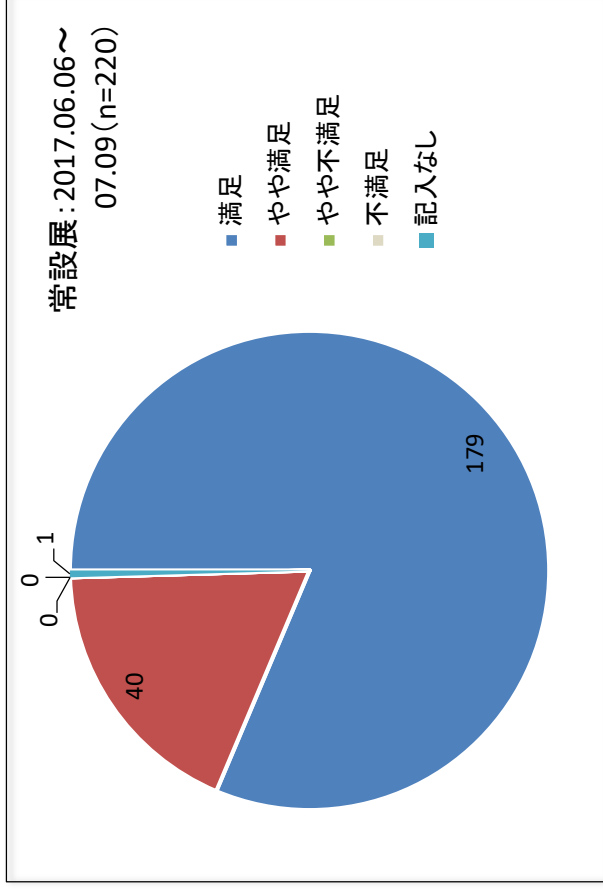
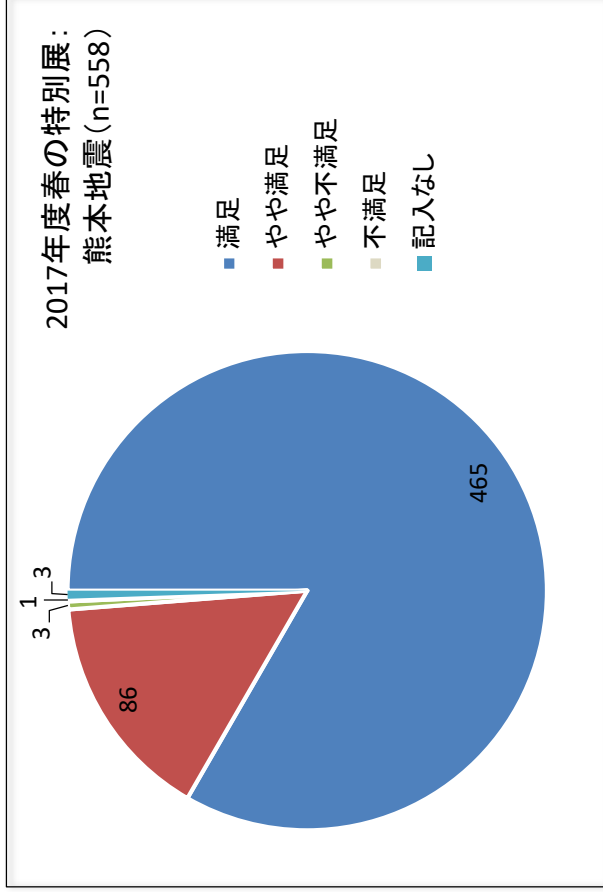
第45図 建物やサービスについて(館内の明るさ)(期間ごと)



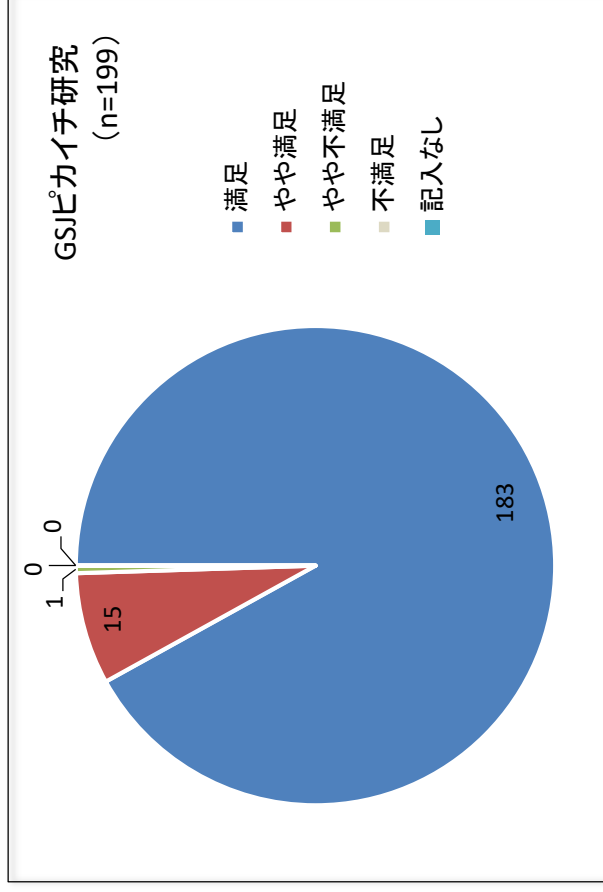
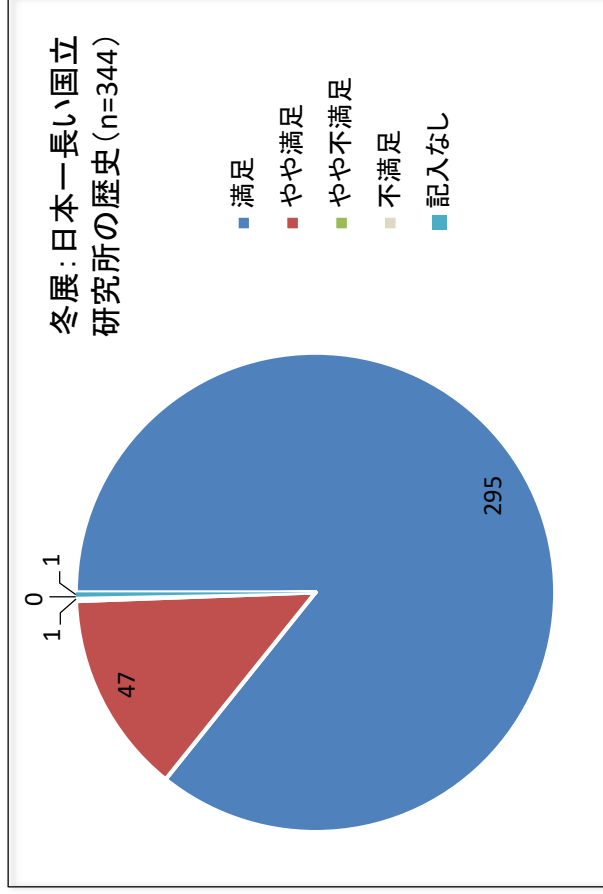
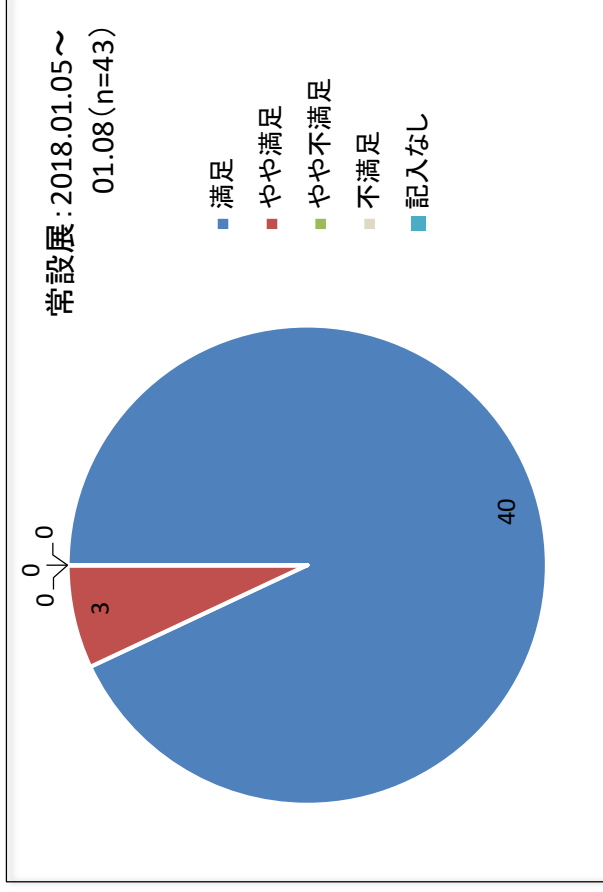
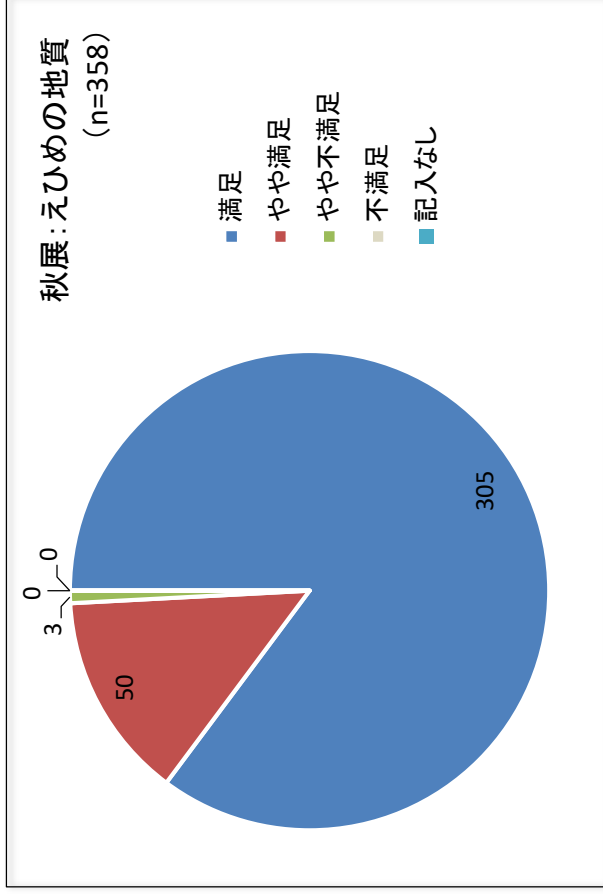
第46図 建物やサービスについて(空調温度)(期間ごと)



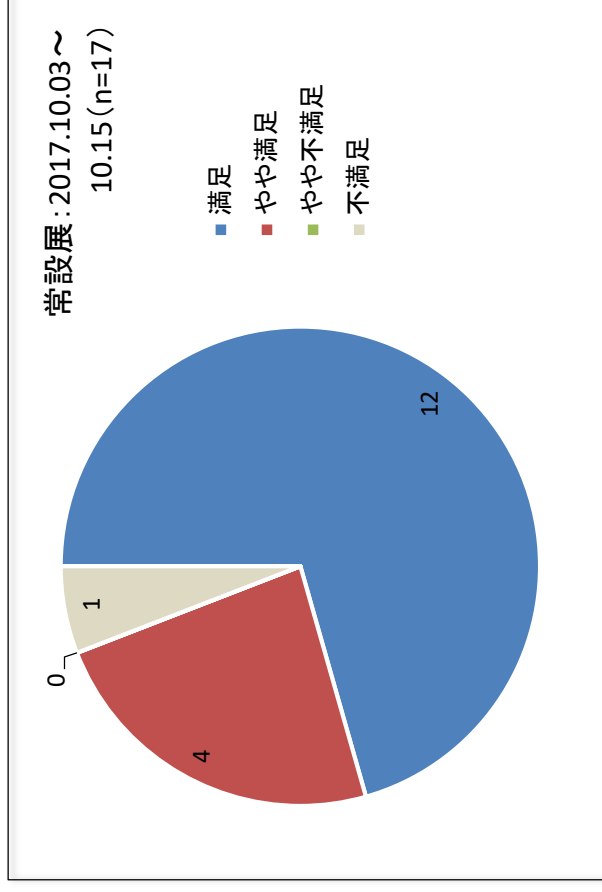
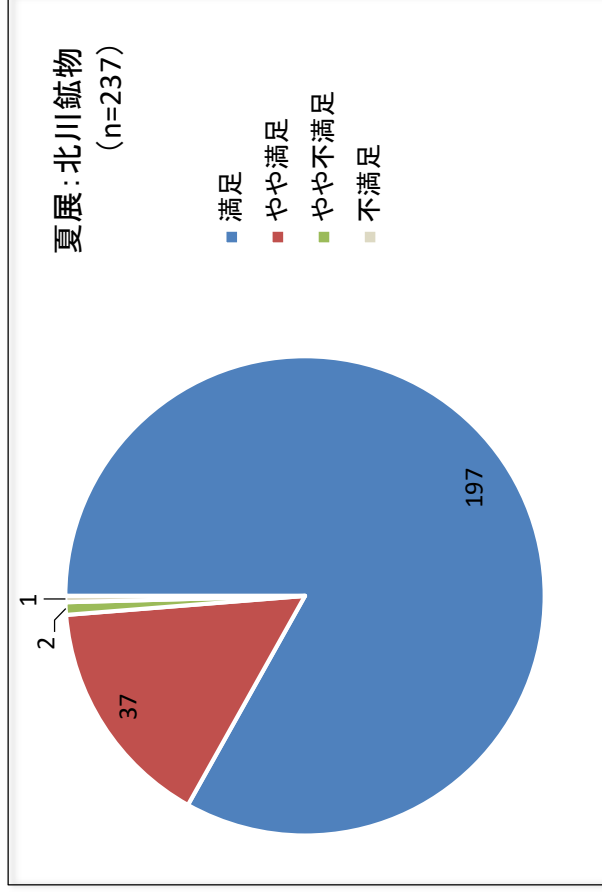
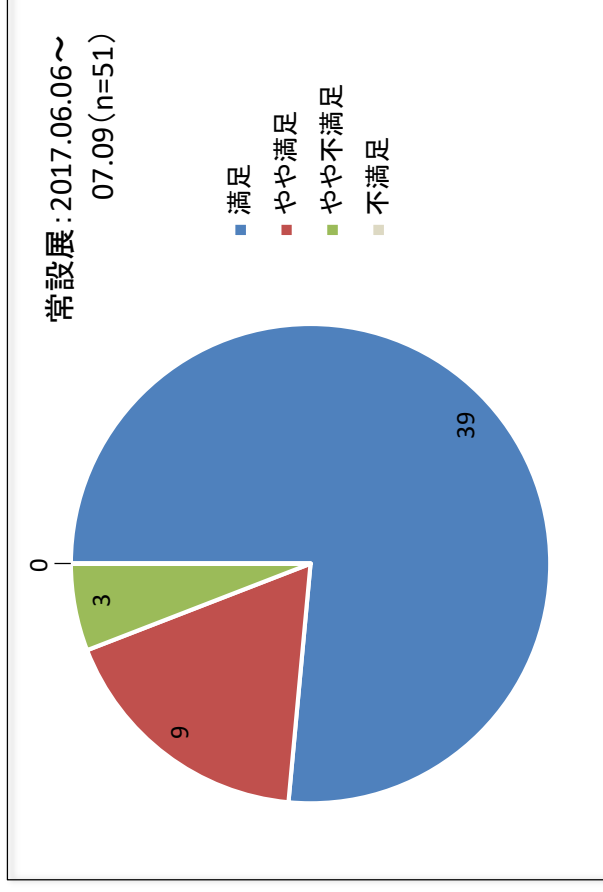
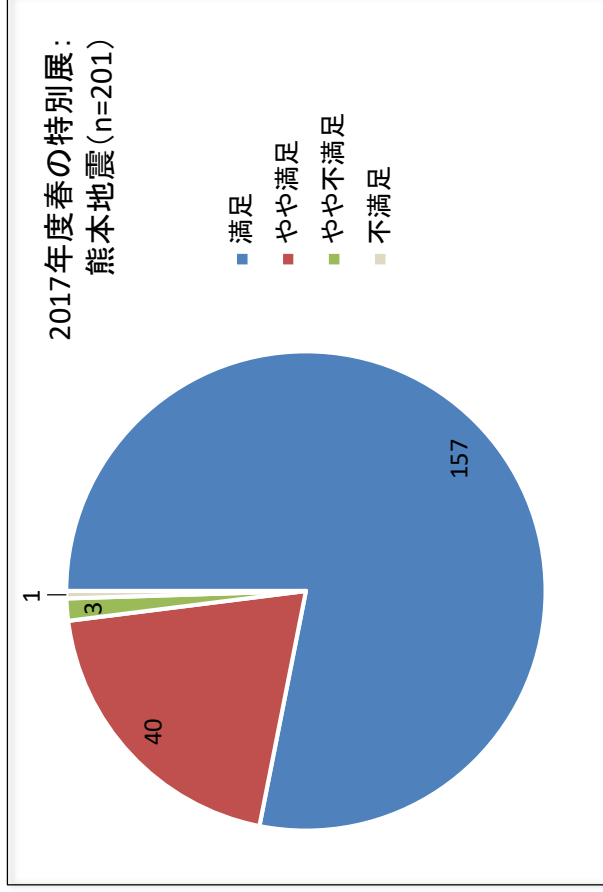
第47図 建物やサービスについて(空調温度)(期間ごと)



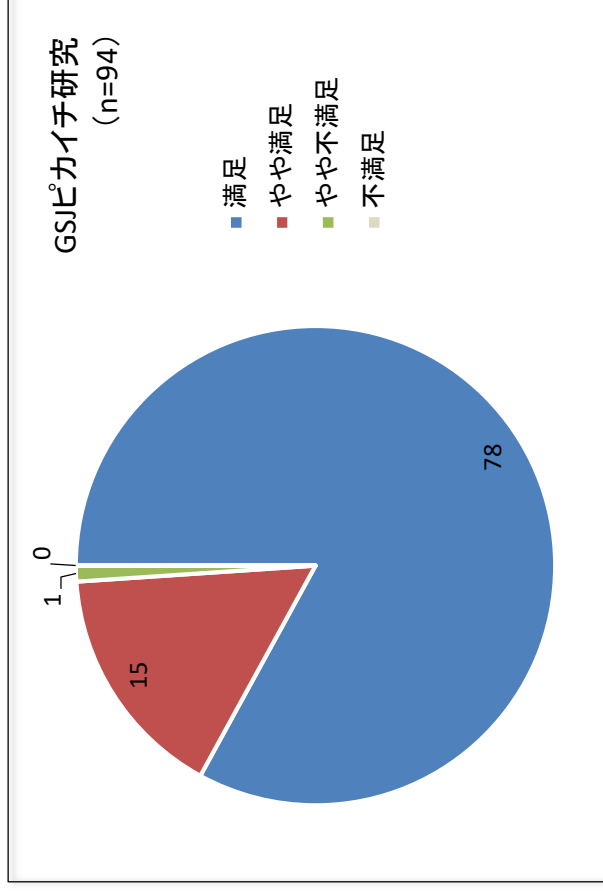
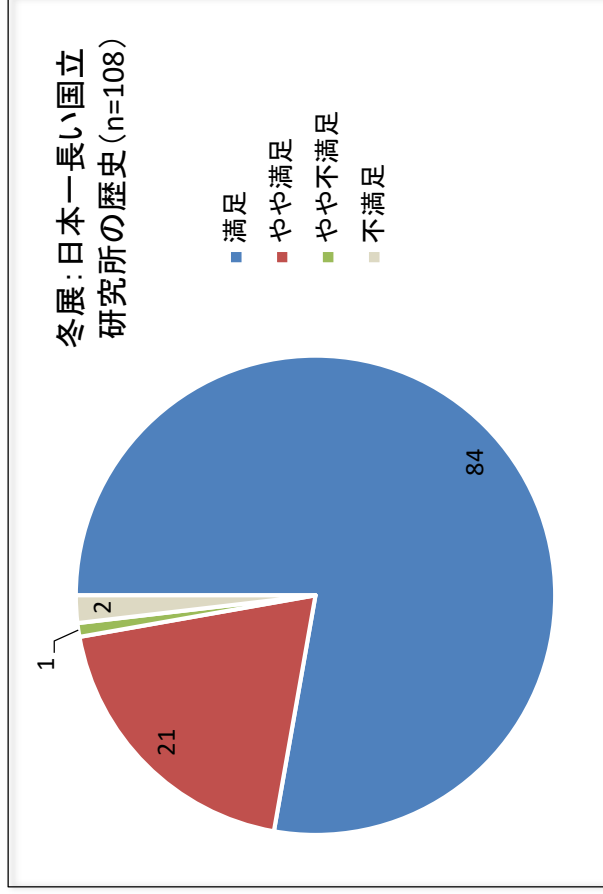
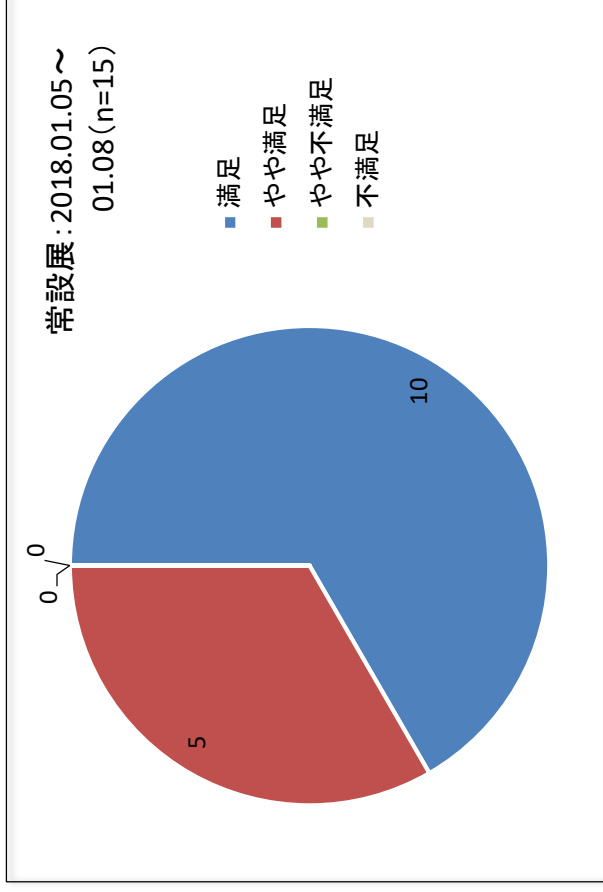
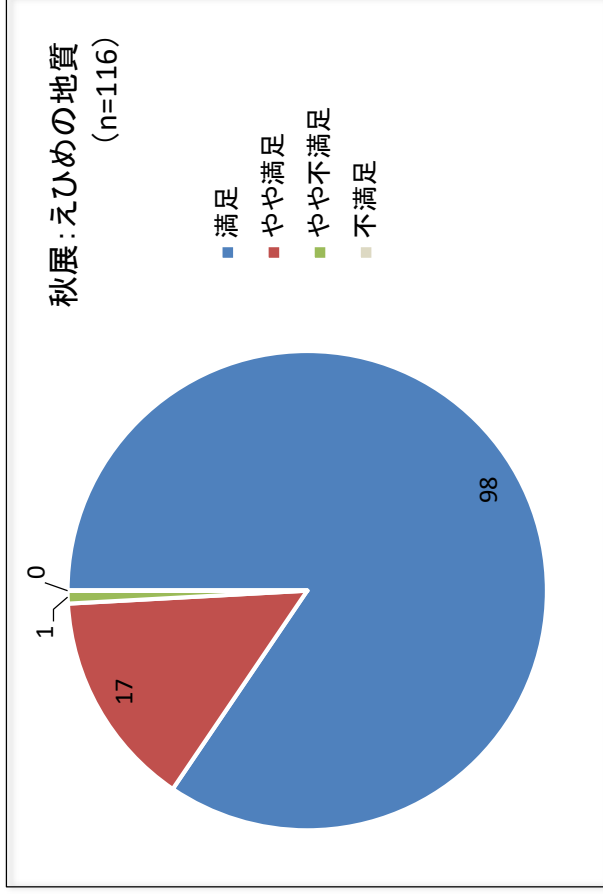
第48図 建物やサービスについて(清掃)(期間ごと)



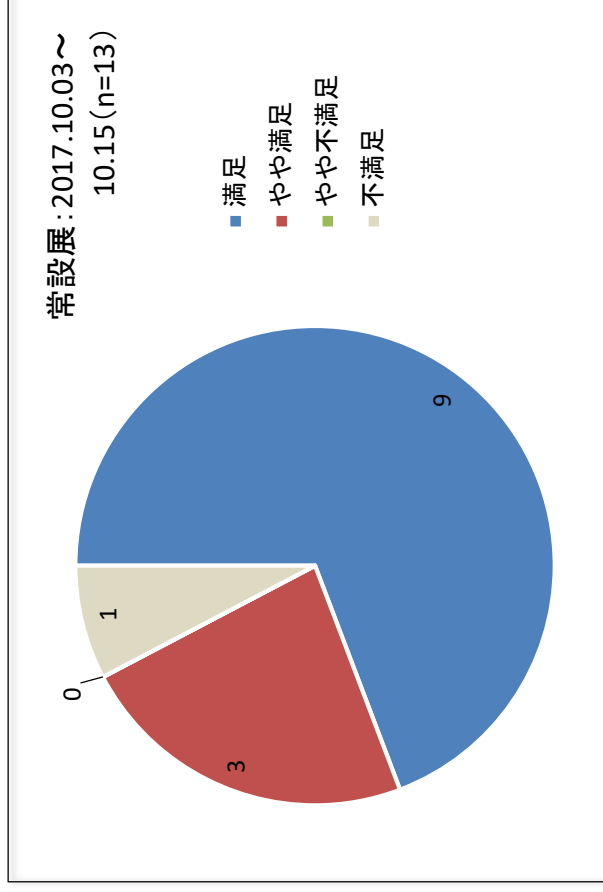
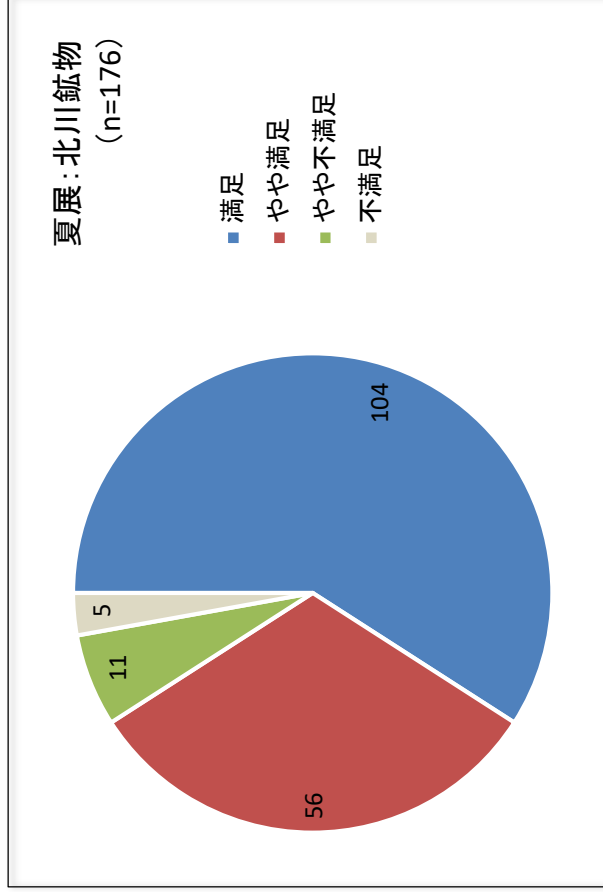
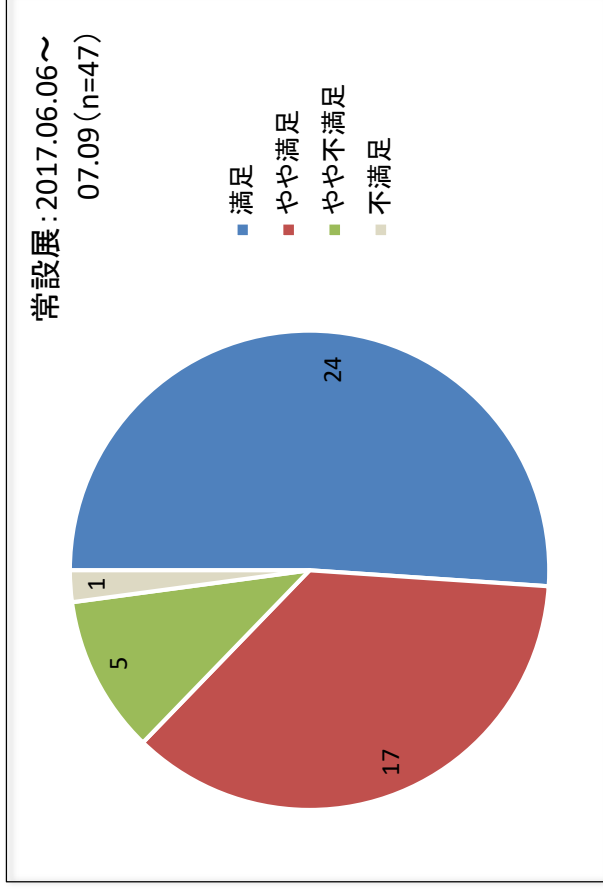
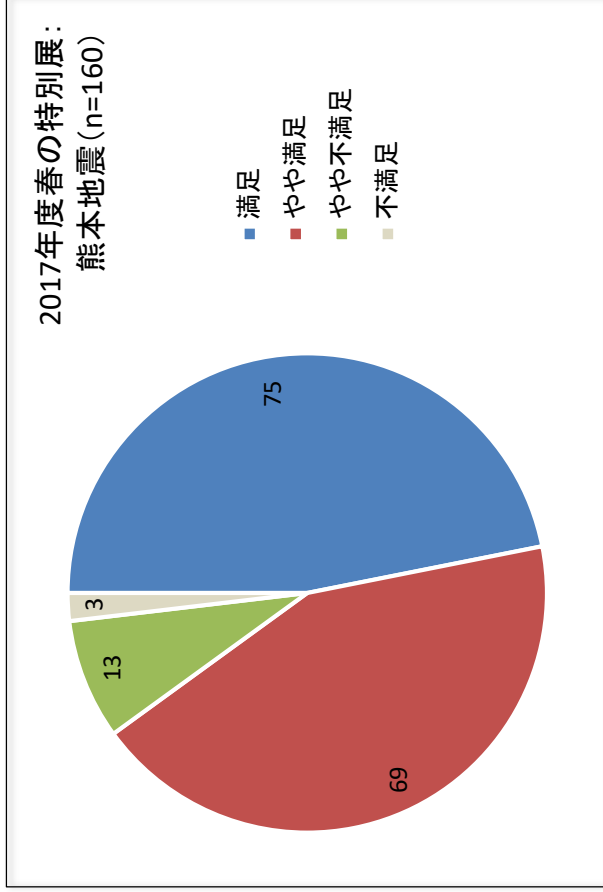
第49図 建物やサービスについて(清掃)(期間ごと)



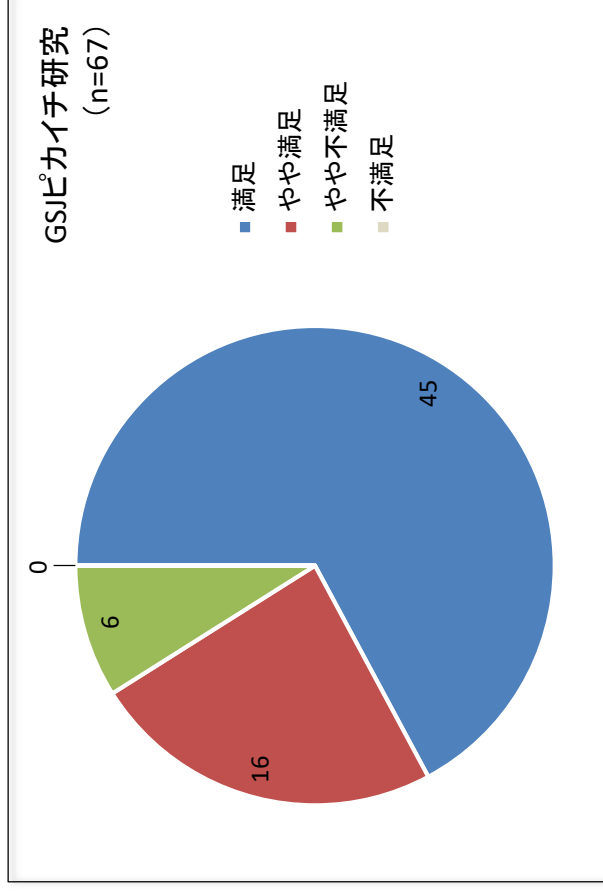
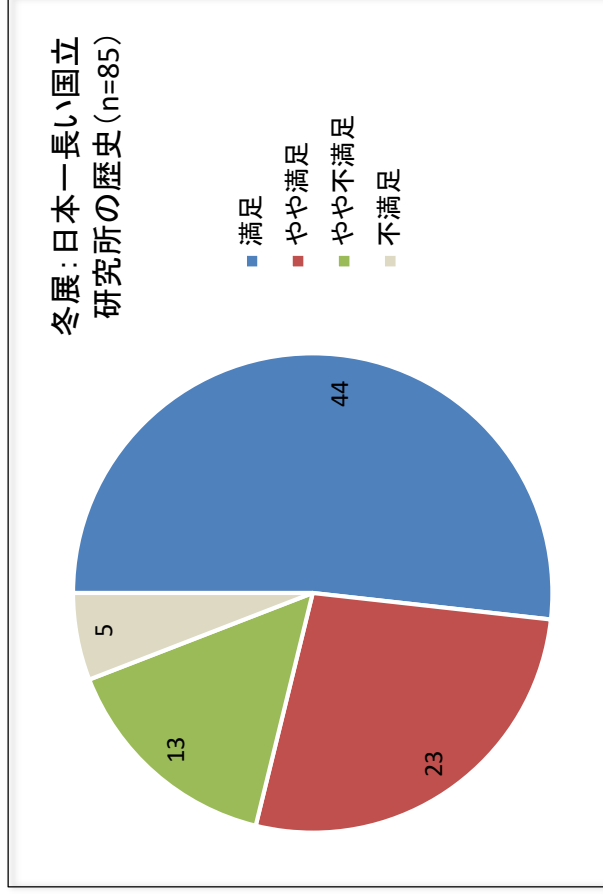
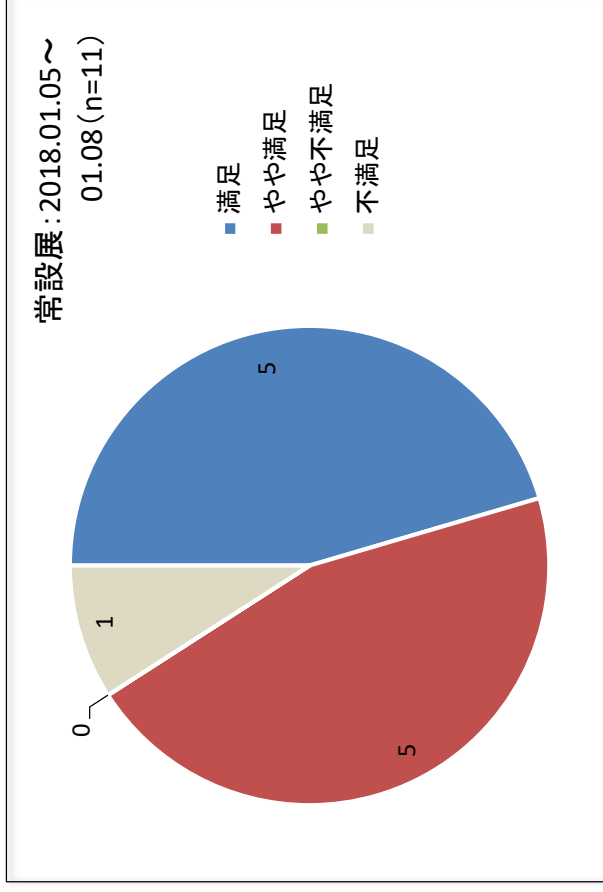
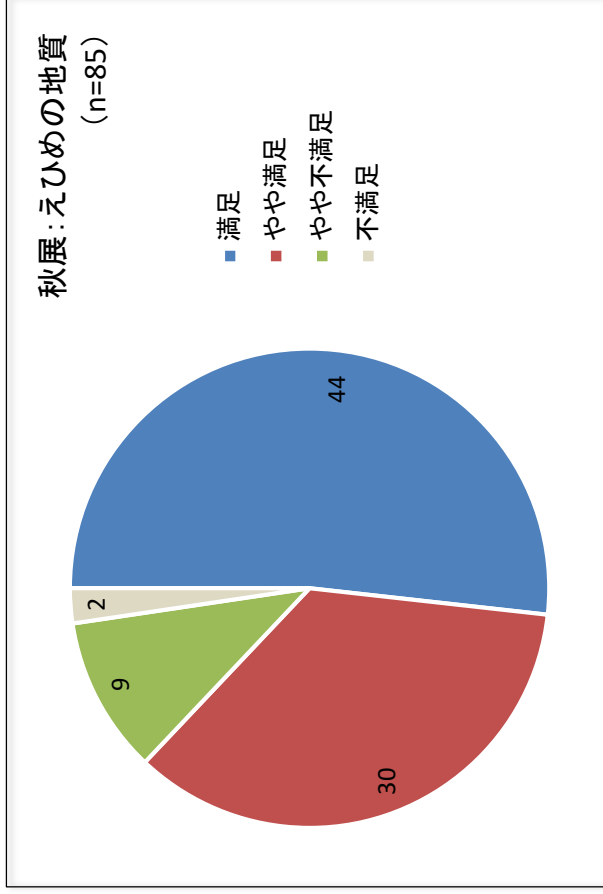
第50図 解説サービスについて(解説案内)(期間ごと)



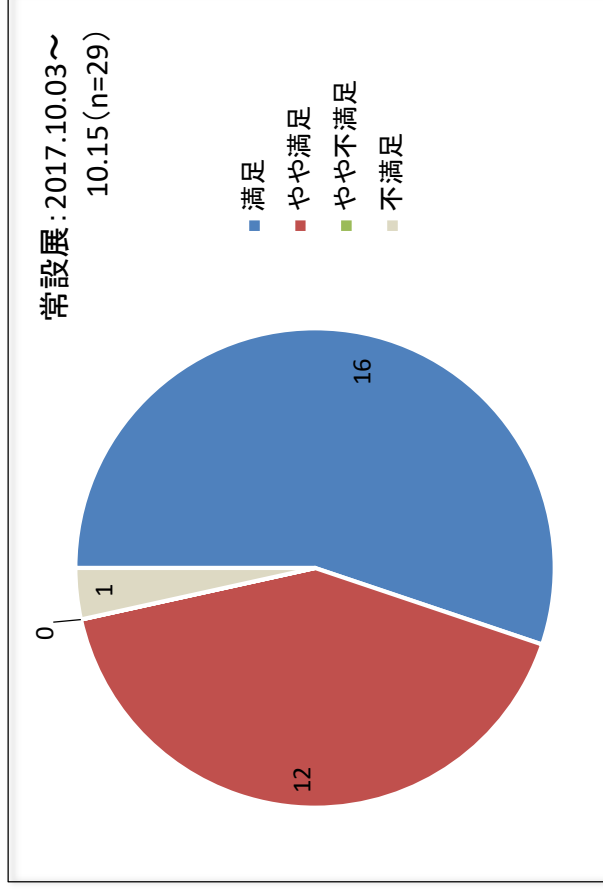
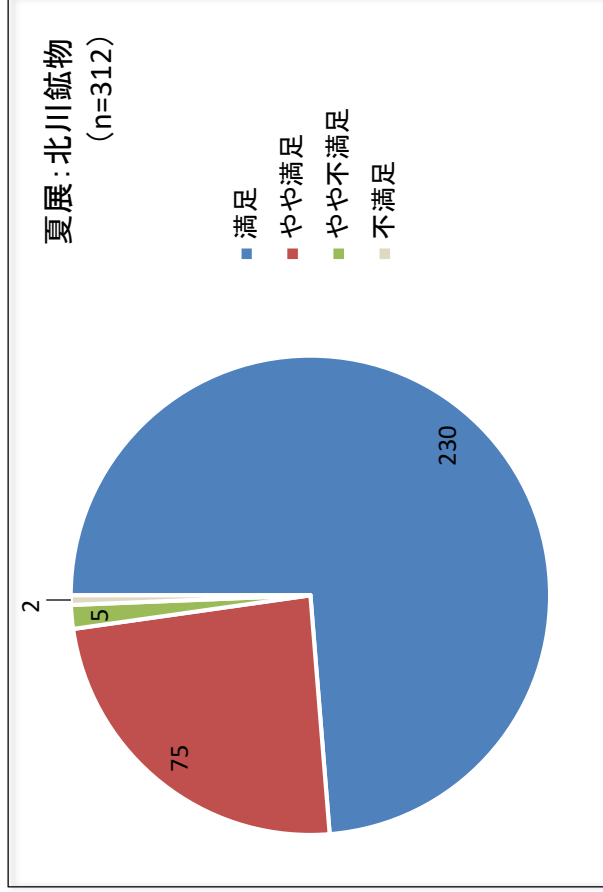
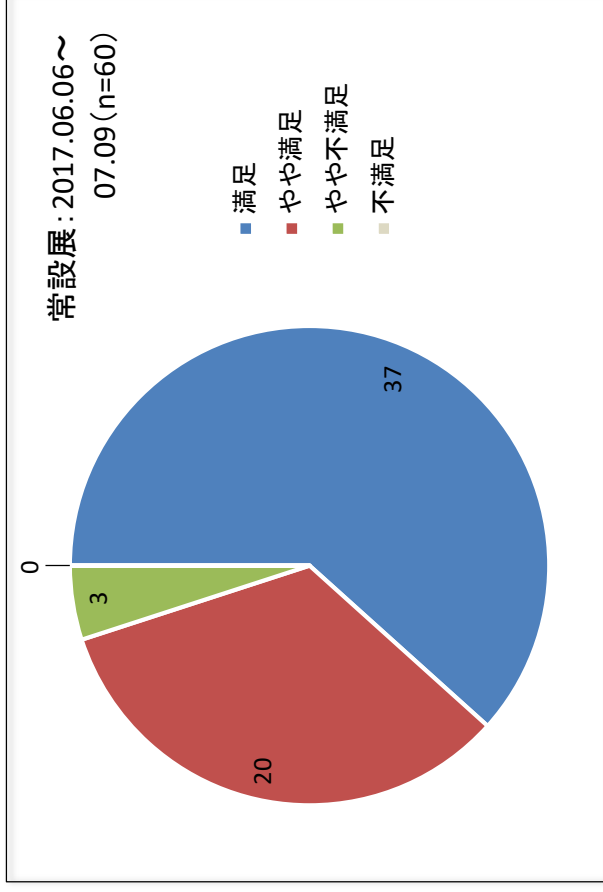
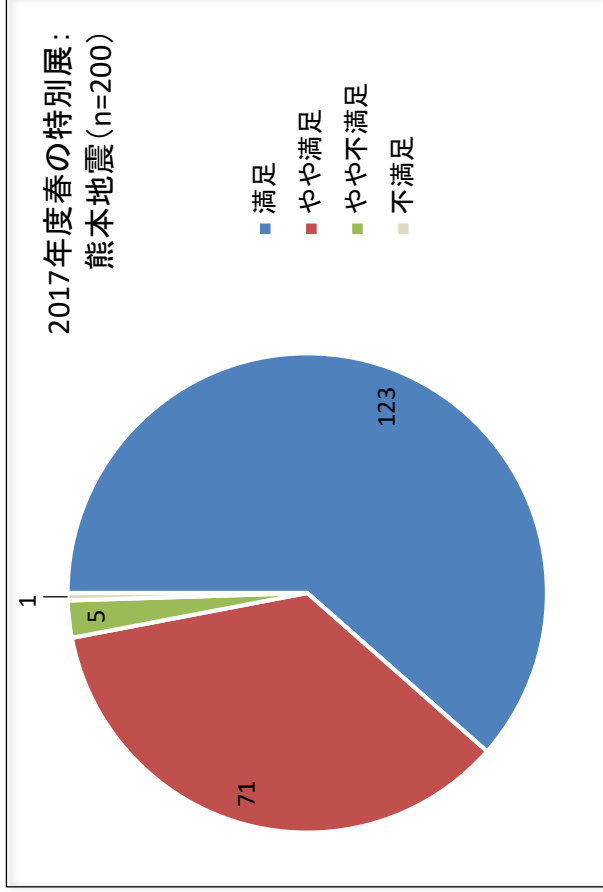
第51図 解説サービスについて(解説案内)(期間ごと)



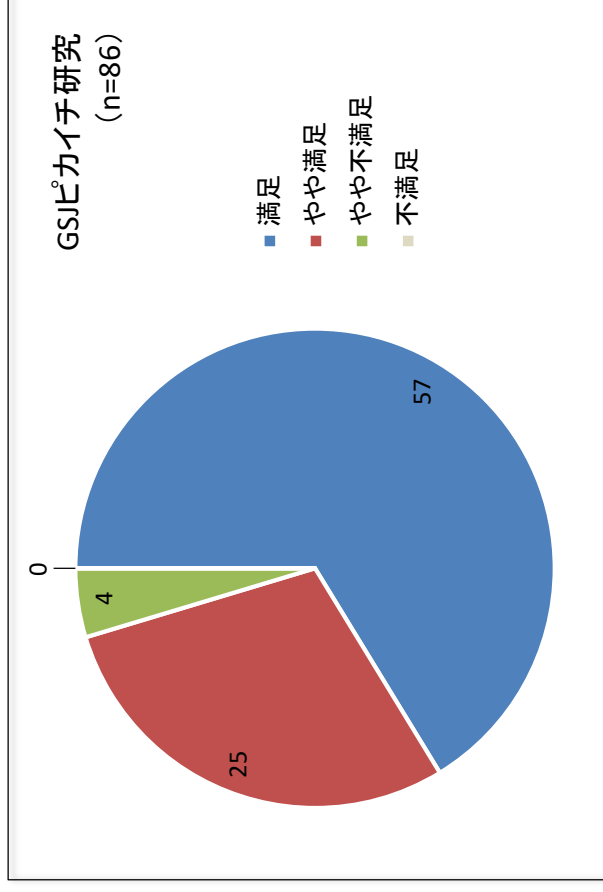
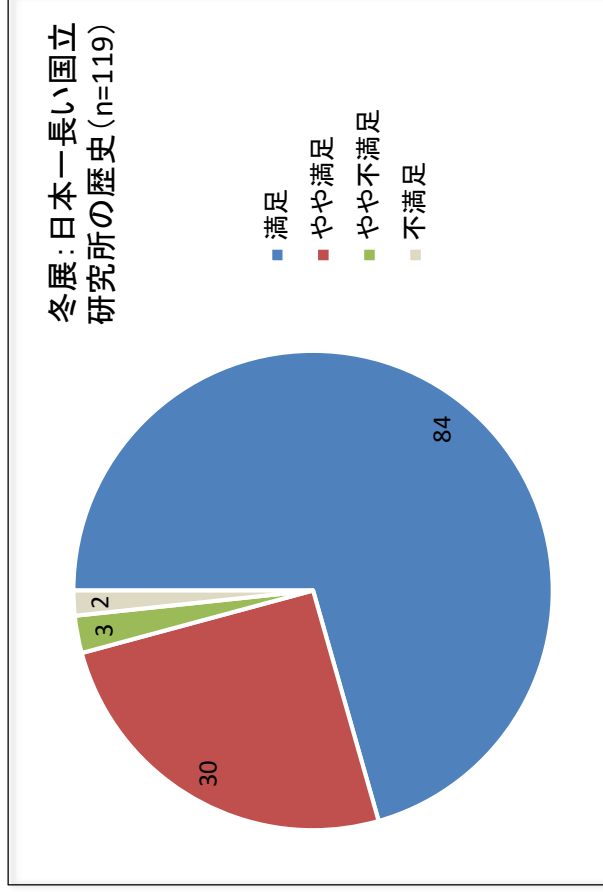
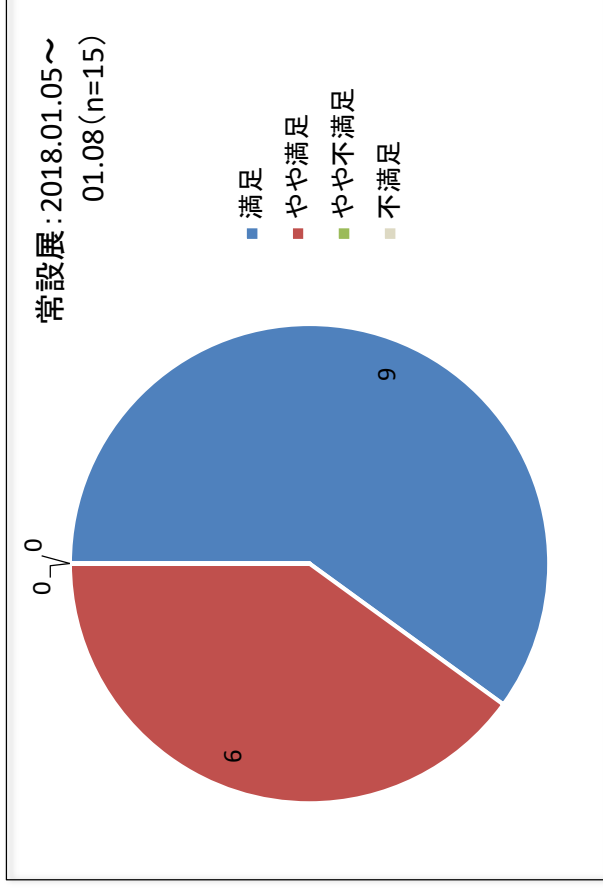
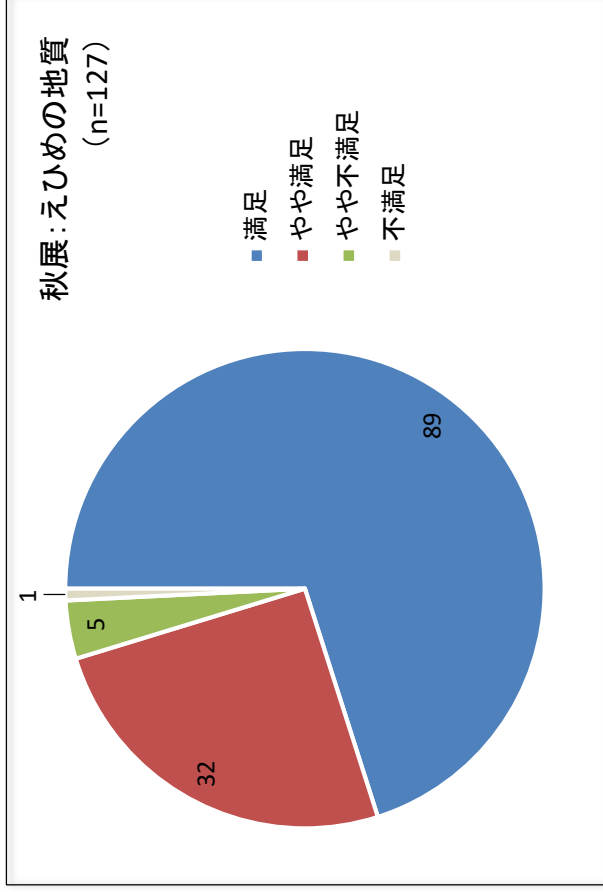
第52図 解説サービスについて(QRコード解説)(期間ごと)



第53図 解説サービスについて(QRコード解説)(期間ごと)



第54図 解説サービスについて(館内クイズ)(期間ごと)



第55図 解説サービスについて(館内クイズ)(期間ごと)

地質調査総合センター技術資料集 10

地質標本館の来場者 アンケート分析

(2017 年度)

2018 年 12 月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報基盤センター
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7

【執筆・集計担当】 兼子尚知・辻野 匠・朝川暢子・谷島清一・下川浩一・佐藤隆司
高橋 誠・常木俊宏・中山 淳・五十嵐幸子・川鈴木宏
利光誠一・藤原 治

【レイアウト担当】 朝川暢子

【問い合わせ】 <https://www.gsj.jp/inquiries.html>

本報告書は産業技術総合研究所地質調査総合センターの組織著作物です。

「政府標準利用規約（第 2.0 版）」準拠



産業技術総合研究所 地質調査総合センター
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第7
<https://www.gsj.jp/>